

博士後期課程

シラバス

(令和7年度)

2025

日本大学大学院総合社会情報研究科

# 日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

## 日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**  
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**  
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- ・ **社会に貢献する姿勢**  
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

## 「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

### < 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**  
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**  
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

### < 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**  
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- ・ **問題発見・解決力**  
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

### < 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**  
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- ・ **コミュニケーション力**  
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- ・ **リーダーシップ・協働力**  
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- ・ **省察力**  
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

# 日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced		
		1	2	3	4	
		自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。
A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。			世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力		仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
	A-4：問題発見・解決力		事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	A-5：挑戦力		新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て、準備することができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
自ら道をひらく	A-6：コミュニケーション力		親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
	A-7：リーダーシップ・協働力		集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者として他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
	A-8：省察力		自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況を自己分析し、その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

—目 次—

【総合社会情報専攻】

現代政治学特殊研究	神井 弘之	1
国際法特殊研究	安藤 貴世	4
国際政治論特殊研究	日吉 秀松	7
危機管理論特殊研究	大濱 明弘	10
日本政治史論特殊研究	瀧川 修吾	13
国際メディア論特殊研究	安江 伸夫	16
開発政策論特殊研究	市岡 卓	19
日中比較社会論特殊研究	高綱 博文	22
日中比較社会論特殊研究	松重 充浩	25
経済理論特殊研究	後藤 康雄	28
国際経済政策論特殊研究	陸 亦群	31
国際経済政策論特殊研究	前野 高章	34
国際経営論特殊研究	井上 葉子	37
流通経営論特殊研究	加藤 孝治	40
ファミリービジネス論特殊研究	階戸 照雄	43
比較文学特殊研究	秋草俊一郎	46
翻訳論特殊研究	秋草俊一郎	49
日本文化特殊研究	未 開 講	
アジア文化特殊研究	清水 享	52
言語教育学特殊研究	保坂 敏子	55
言語学特殊研究	川嶋 正士	58
異文化間コミュニケーション論特殊研究	小川 直人	61
第二言語習得論特殊研究	小柳かおる	64
言語教育方法論特殊研究	島田めぐみ	67
社会哲学特殊研究	石浜 弘道	70
宗教哲学特殊研究	石浜 弘道	73
生命倫理特殊研究	泉 龍太郎	76
近現代哲学特殊研究	岡山 敬二	79
社会思想史特殊研究	石浜 弘道	82
教育思想史特殊研究	未 開 講	
比較心理学特殊研究	眞邊 一近	85
産業・組織心理学特殊研究	田中堅一郎	88
行動分析学特殊研究	眞邊 一近	91
教育学特殊研究	北野 秋男	94
教育認識論特殊研究	北野 秋男	97
健康科学特殊研究	泉 龍太郎	100
健康科学特殊研究	釋 文雄	103

# 総合社会情報専攻

(シラバス)

科目名	現代政治学特殊研究	担当者	カミイ ヒロユキ 神井 弘之	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	人口減少と価値観・利害関係の複雑化・多様化が進む我が国において、大量の情報が行き交うなかで、日々の政治現象について、体系的・客観的な評価・分析を行い、合理的で自律的な個人として政治的な判断を下すこと、その判断に基づいて、自らの所属する組織・コミュニティの意思決定に貢献することは、困難な課題となっています。本講座では、現代の政治課題に関する基礎的な知識に加えて、政治理論など政治学に関する知識を獲得し、具体的な政治現象について体系的・客観的な評価・分析を行う技術を修得することにより、学修者が、合理的で自律的な個人として、また、所属する組織・コミュニティのリーダーとして、的確な政治判断を行うとともに、将来を見通した行動指針を提示する能力を身につけることを目的とします。			
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>学修者が、合理的・自律的な個人として、的確な政治判断を下すことが出来るよう、また、自らの所属する組織・コミュニティのリーダーとして、将来を見通して、課題への対処方針を打ち出すことが出来るよう、①現代の政治課題に関する知識、政治理論など政治学に関する知識を獲得し、②最近の我が国の具体的な政治現象について、体系的、かつ、客観的な評価・分析を行い、その結果を踏まえて、将来を見通した政治判断、行動指針の提示を行う技能を修得し、③常にグローバルな視座、歴史を俯瞰する視座から、政治現象の評価・分析、行動指針の検討等に臨む態度を身につけることを目標とします。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>①(知識・想起・解釈) 我が国における最近の政治課題から、官僚制、中央地方関係などの統治のしくみ、政党や利益団体、メディアなど民主政を支えるしくみ、政治現象を分析するための政治理論などを理解し、論理的に説明できる。</p> <p>②(知識・問題解決/技能) 政治課題及び政治学に関する知見を活用して、我が国における具体的な政治現象を評価・分析することにより、合理的な個人として、的確な政治判断を下すとともに、その判断のプロセスと根拠について体系的に説明することができる。</p> <p>③(技能/態度) 価値観・利害関係が多様化・複雑化し、大量の情報が行き交うなかで、具体的な政治現象について、体系的、かつ、客観的に評価・分析を行い、将来を見通して、自らの行動、所属する組織・コミュニティの行動を企図する際に、常にグローバルな視座、歴史を俯瞰する視座を考慮することができる。</p>			
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>①基本教材及び参考図書を熟読し、内容の理解を深める(自習) 【SBO①②】 【15時間/レポート1本】</p> <p>②レポート課題に則して情報を収集・分析する(自習) 【SBO②③】 【15時間/レポート1本】</p> <p>③課題レポートの初稿を作成する(レポート作成) 【SBO②③】 【15時間/レポート1本】</p> <p>④manaba folioを利用したレポート添削で教員と意見交換を行う(ディベート) 【SBO①②③】 【15時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioを利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。</p>			
スケジュール	<p>【前期】レポート課題1は7月末に草稿提出、レポート課題2は8月末に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>【後期】レポート課題1は11月中旬に草稿提出、レポート課題2は12月中旬に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>※レポート課題の草稿について、意見交換と修正を何度か行うことで、複雑化する現代の政治現象を客観的、体系的に評価・分析する技能を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。</p>			
成績評価	種別	評価基準		割合
	レポート	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題1・2、後期レポート課題1・2に、それぞれ20%を配分します。		80%
	観察記録	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応(例えば、加筆、修正のコメントに対する対応)を評価します。1つのレポート課題に、5%を配分します。		20%
履修者への要望	本講座では、現代の我が国における政治現象を体系的・客観的に評価・分析できるよう、政治課題・政治学に関連する基礎的な知識を修得することを主な目的としています。過去の政治現象をエピソードとして知ることにとまらず、自らが日々直面する具体的な政治現象について、的確な政治判断を下し、行動するために、政治学の知識を用いて、現状を批判的に評価・分析すること、その評価・分析を論理的に説明することを意識していただくことが必要と考えます。			

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、馬淵勝            教材名：『補訂版 政治学』（有斐閣、2011年）            ISBN：978-4-641-05377-9 3,400円＋税</p> <p>我が国における最近の政治課題から、官僚制、中央地方関係などの統治のしくみ、政党や利益団体、メディアなど民主政を支えるしくみ、政治現象を分析するための政治理論などを、体系的に解説した書籍です。政治について、主権者である国民(本人)が、政府(代理人)を雇って、自らの利益の実現(共通の目的)を図るしくみという注目に値して整理しています。</p>
参考図書	<p>久米郁男著『原因を推論する 政策分析方法論のすゝめ』（有斐閣、2018年）            ISBN：978-4-641-14907-6 1,800円＋税            川出良枝・谷口将紀『政治学 第2版』（東京大学出版会、2022年）            ISBN：978-4-13-032235-5 2,200円＋税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材 1 では、我が国の政治課題に関する情報と政治理論や分析のモデルなど政治学の知見が、幅広く、網羅的に記されています。まずは、基本教材 1 で政治学をめぐる全体像の把握に努めてください。</p>
レポート課題1	<p>我が国の内閣制度において、過去に首相の政治的リーダーシップを制約して来た要因と、近年、その制約要因に生じている変化を、3,000字程度でまとめてください。この際、必ず、議院内閣制と大統領制の比較について記述したうえで、わが国において「大統領的首相」の実現を目指すことへの学修者独自の評価について言及してください。</p> <p>留意点：基本教材 1 の記述を基に課題をまとめることが基本となります。引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>
レポート課題2	<p>我が国におけるマスメディアの世論への影響について、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず、「議題設定機能」「フレーミング効果」「プライミング効果」「アナウンスメント効果」について触れてください。</p> <p>留意点：基本教材 1 の記述を基に課題をまとめることが基本となります。引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：基本教材 2 (1) 待鳥聡史、基本教材 2 (2) 佐々木毅編著            教材名：基本教材 2 (1) 『政治改革再考 変貌を遂げた国家の軌跡』（新潮社、2020年）ISBN：978-4-10-603854-9 1,400円＋税、基本教材 2 (2) 『民主政とポピュリズム ヨーロッパ・アメリカ・日本の比較政治学』（筑摩選書、2018年） ISBN：978-4-480-01668-3 1,500円＋税</p> <p>基本教材 2 (1)；選挙制度改革、中央省庁再編、中央銀行改革、司法制度改革、地方分権改革など、1980年代末から2010年代にかけて実行された、広範で大規模な政治改革について、その理念、内容、改革の帰結について記した書籍です。基本教材 2 (2)；欧州や米国、日本における近年の内政・外交の政治現象について、ポピュリズムの台頭との関係から読み解き、これからの民主政のあり方について展望した書籍です。</p>
参考図書	<p>竹中治堅著『首相支配-日本政治の変貌』（中公新書、2006年）            ISBN：978-4-12-101845-8 990円（税込）            待鳥聡史著『代議制民主主義 「民意」と「政治家」を問い直す』（中公新書、2015年）            ISBN：978-4-12-102347-6 924円（税込）</p>
履修上のポイント	<p>基本教材 2 (1) は、過去の政治改革の取組みが、現在の我が国の政治現象に大きな影響を及ぼしていることを考察するために重要な情報を体系的に提供しています。また、基本教材 2 (2) は、欧州・米国との比較から、我が国の民主政の課題について考察することを可能にしています。これらの教材を丹念に読み込むことで、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座を身につけることが可能になり、今後の政治判断の方向性について、有益な示唆を得ることができるものと考えます。レポート課題をまとめる際に、基本教材 1 で学んだ政治学に関する知識を活用するとともに、前期の参考図書である久米 (2018) を参照していただくことで、論理的に評価・分析を行うことが可能になると考えます。</p>
レポート課題1	<p>基本教材 2 (1) で示された内閣機能強化について、改革の背景、改革案形成の経緯、改革の効果と課題について、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず「選挙制度改革」、「土着化」、「小さな政府」に触れてください。            留意点：基本教材 2 (1) の記述を基に課題をまとめることが基本となります。引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>
レポート課題2	<p>基本教材 2 (1) で示された選挙制度改革について、改革の背景、改革案形成の経緯、改革の効果と課題について、3,000字程度でまとめてください。この際、基本教材 2 (2) で示された民主政に関する論点を踏まえて、我が国における選挙制度改革とポピュリズムの関係性について学修者が考察した内容について、必ず言及してください。            留意点：基本教材 2 (1) 及び (2) の記述を基に課題をまとめることが基本となります。引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。</p>

## 基本教材1

第1回	基本教材1の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第2回	基本教材1に基づく学修①(「七人の侍」の政治学)
第3回	基本教材1に基づく学修②(政策の対立軸・政治と経済・自由と自由主義)
第4回	基本教材1に基づく学修③(福祉国家・国家と権力・市民社会と国民国家)
第5回	基本教材1に基づく学修④(国内社会と国際関係・国際関係における安全保障／富の配分)
第6回	基本教材1に基づく学修⑤(議会・執政部・官僚制)
第7回	基本教材1に基づく学修⑥(中央地方関係・国際制度)
第8回	基本教材1に基づく学修⑦(政策過程・対外政策の形成・制度と政策)
第9回	基本教材1に基づく学修⑧(デモクラシー・投票行動・政治の心理・世論とメディア)
第10回	基本教材1に基づく学修⑨(選挙と政治参加・利益団体と政治・政党)
第11回	レポート課題1の草稿取りまとめ
第12回	教員からのレポート課題1の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第13回	レポート課題2の草稿取りまとめ
第14回	教員からのレポート課題2の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第15回	レポート課題1・レポート課題2について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

## 基本教材2

第1回	基本教材2(1)・(2)の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第2回	基本教材2(1)に基づく学修①(政治改革への視点・政治改革の全体像)
第3回	基本教材2(1)に基づく学修②(選挙制度改革・行政改革)
第4回	基本教材2(1)に基づく学修③(日本銀行・大蔵省改革)
第5回	基本教材2(1)に基づく学修④(司法制度改革・地方分権改革)
第6回	基本教材2(1)に基づく学修⑤(改革は終わったのか)
第7回	基本教材2(2)に基づく学修①(ヨーロッパ／第1章～第6章)
第8回	基本教材2(2)に基づく学修②(アメリカ／第7章)
第9回	基本教材2(2)に基づく学修③(日本／第8章～第10章)
第10回	基本教材2(2)に基づく学修④(現代民主政の変容を読み解くために)
第11回	レポート課題1の草稿取りまとめ
第12回	教員からのレポート課題1の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第13回	レポート課題2の草稿取りまとめ
第14回	教員からのレポート課題2の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第15回	レポート課題1・レポート課題2について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

科目名	国際法特殊研究	担当者	アンドウ タカヨ 安藤 貴世	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	国際法は国家間関係を規律する法であるが、今日、その規律対象は国家に留まらず、国際機関、個人などにも及ぶ。本講座は、こうした点を念頭に、本科目は、国際法の形成と発展、国際法の主体、領域、武力行使禁止原則など、国際法の基本構造を理解したうえで、現代の国際社会が直面している個別具体的な論点や課題について国際法の観点から検討し、理解する力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の現状を理解し、自らの言葉で説明する力を身につけることができる。</li> <li>現代の国際社会が直面する諸問題を発見し、国際法を手掛かりに論理的かつ批判的に思考することができる。さらにそれら諸問題の解決策について提案することができる。</li> </ul> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際紛争の平和的解決における国際法の役割について、特に国際裁判の意義という点から理解し、自らの言葉で説明する力を身につける(知識、技能、態度)。</li> <li>国際安全保障、国際社会における個人、領域、国際機構などをめぐる現代的な諸問題について、国際法を手掛かりに検討し、自らの言葉で説明する力を身につける(知能、技能、態度)。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>学修方略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書を熟読する(自習：SBOs①)。必要に応じて関連図書・文献などを参照する(自主研究：SBOs②)。そのうえで、レポート課題に沿って各レポートを作成する(レポート作成：SBOs③)。</li> <li>レポート作成に際しては、オンラインを通じた教員からの指導、コメントや双方向的な質疑応答に基づいて修正を重ね、最終的なレポートを完成させる。また必要に応じて対面指導も取り入れ、レポートの作成、履修生の学修を補完する(ディベート：SBOs④)。</li> </ul> <p>学修時間</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに最低45時間の学修時間を要するものとする。目安の時間は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および参考文献の読み込み：20時間以上/レポート1本</li> <li>レポート執筆：10時間以上/レポート1本</li> <li>レポートの推敲・最終稿の完成(教員とのやり取りを含む)：15時間以上/レポート1本</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioを使用し、教員と院生との間での双方向性を重視した添削指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1については草稿を7月末、レポート課題2については草稿を8月末を目安に提出すること。その間、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じて対応する。</li> <li>最終稿は、レポート課題1、2ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1については草稿を11月中旬、レポート課題2については草稿を12月中旬を目安に提出すること。その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ指導、対応する。</li> <li>最終稿は、レポート課題1、2ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書、その他の文献を用い、課題に沿った十分な検討がなされているか。</li> <li>レポートの構成、論理展開が明確か。</li> <li>脚注、参考文献リスト等レポートの体裁が整っているか。</li> </ul>	80%
	観察記録	教員からのコメントに対する対応、質疑応答など、レポートの最終稿提出までの取り組みを評価する。	20%
履修者への要望	<p>基本教材の理解を前提としつつ、参考図書やそれ以外の関連文献をリサーチしたうえで、テーマ設定、レポート作成を行うことが求められる。</p> <p>レポート作成にあたっては、単に基本教材等をまとめるだけでなく、国際社会における現代的な問題に関心を寄せ、それらの問題について、国際法をとし論理的に議論を展開することを心掛けてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：岩沢雄司 教材名：『国際法 第2版』（東京大学出版会、2023年）、ISBN 978-4-13-032398-7、4400円＋税
	国際法のすべての領域をわかりやすく解説したテキストであり、初心から上級者、実務家までに対応している。
参考図書	・浅田正彦（編）『国際法（第5版）』（東信堂、2022年） ISBN 978-4-7989-1768-9 本体¥3000+税 ・植木俊哉、中谷和弘（編代）『国際条約集 2024年版』（有斐閣、2024年） ISBN 978-4-641-00161-9 3000円＋税（2025年版は2025年3月に発売予定。条約集を初めて入手する場合には、2025年版を購入して下さい。なお、『国際条約集』は最新版でなくとも構いません。）
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って、基本教材のほかにも、参考図書や必要に応じて、関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特に、レポート2において取り上げるテーマについては、現代的問題・課題を念頭に置きつつ、担当教員と十分に相談したうえで決定すること。
レポート課題1	国際紛争の平和的解決の方法について整理したうえで、国際裁判が果たす役割について論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第16章などを参照しつつ、日本が関わった裁判事例などについても留意したうえで論ずること。
レポート課題2	国際安全保障をめぐる現代的問題について、テーマを1つ設定し国際法の観点から論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第17章を参照しつつ、近年の日本をめぐる安全保障に関する諸問題も念頭に置き、担当教員と相談のうえテーマを設定し、レポート課題に取り組むこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：岩沢雄司 教材名：『国際法 第2版』（東京大学出版会、2023年）、ISBN 978-4-13-032398-7、4400円＋税
	国際法のすべての領域をわかりやすく解説したテキストであり、初心から上級者、実務家までに対応している。
参考図書	・浅田正彦（編）『国際法（第5版）』（東信堂、2022年） ISBN 978-4-7989-1768-9 本体¥3000+税 ・植木俊哉、中谷和弘（編代）『国際条約集 2024年版』（有斐閣、2024年） ISBN 978-4-641-00161-9 3000円＋税（2025年版は2025年3月に発売予定。条約集を初めて入手する場合には、2025年版を購入して下さい。なお、『国際条約集』は最新版でなくとも構いません。）
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って、基本教材のほかにも、参考図書や必要に応じて、関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特に、レポート1、2ともに、取り上げるテーマについては、現代的問題・課題を念頭に置きつつ、担当教員と十分に相談したうえで決定すること。
レポート課題1	国際人権法または国際刑事法分野のいずれかから、現代の国際社会における問題を取り上げテーマを設定し、国際法の観点から論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第10、11章などを参照しつつ、どのような問題について取り上げるか担当教員と相談のうえ、レポート課題に取り組むこと。
レポート課題2	国際機構の歴史的展開について整理したうえで、国際機構を1つ取り上げ、当該機構が抱える現代的問題について論じなさい（4000字程度）。  留意点：基本教材第13章などを参照しつつ、取り上げる国際機構について取り上げるか担当教員と相談のうえ、レポート課題に取り組むこと。

## 基本教材1

第1回	教材の学習および本講座の課題の理解
第2回	基本教材1に基づく学修①（国際紛争の平和的解決の方法について）
第3回	基本教材1に基づく学修②（国際裁判が果たす役割について）
第4回	参考図書に基づく学修（国際紛争の平和的解決、国際裁判が果たす役割について）
第5回	レポート課題1の作成：初校の執筆
第6回	レポート課題1の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1の作成：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1の作成：最終稿の作成
第9回	基本教材1に基づく学修③（国際安全保障について）
第10回	基本教材1に基づく学修④（国際安全保障の現代的問題について）
第11回	参考図書に基づく学修（国際安全保障およびその現代的問題について）
第12回	レポート課題2の作成：初校の執筆
第13回	レポート課題2の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2の作成：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2の作成：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	教材の学習および本講座の課題の理解、課題として取り上げる題材の検討
第2回	基本教材2に基づく学修①（国際人権法または国際刑事法の基本構造について）
第3回	基本教材2に基づく学修②（国際人権法または国際刑事法の現代的課題について）
第4回	参考図書に基づく学修（国際人権法または国際刑事法の基本構造、およびその現代的課題について）
第5回	レポート課題1の作成：初校の執筆
第6回	レポート課題1の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1の作成：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1の作成：最終稿の作成
第9回	基本教材2に基づく学修③（国際機構の歴史的展開について）
第10回	基本教材2に基づく学修④（選択した国際機構の概要およびその現代的課題について）
第11回	参考図書に基づく学修（国際機構の歴史的展開および選択した国際機構の概要、その現代的課題について）
第12回	レポート課題2の作成：初校の執筆
第13回	レポート課題2の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2の作成：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2の作成：最終稿の作成

科目名	国際政治論特殊研究	担当者	ヒヨシ ヒデマツ 日吉 秀松	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	国際社会はアナーキーであり、戦争を含む暴力とウソに満ちた世界である。また、国家と国家の関係は互いに裏切ると裏切られる関係にあるため、リアリズムの国際政治理論をもって世界を見るべきであろうと考えられる。本講義の目的は、国際社会におけるさまざまな事象について、その起因と結果を分析し、その本質を見抜けることにある。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国際社会におけるさまざまな事象に関する資料を収集し分析をおこなうことで、資料収集や分析の方法を習得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集や整理を実践し、分析の方法を学習し、とりわけ、一次資料を収集し分析する能力を身に付け、博士論文の執筆を準備する。(技能)。</li> <li>収集した資料を整理し批判的に分析を行うことで、国際的事象の起因と結果を的確に解明する能力を培う。(知識・解釈)。</li> <li>特定の事象を取り上げて、その本質を見抜き、真実を暴くことができる。(態度)。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教材や参考図書を十分に学修し、常に疑問を持って現実の国際社会を考察し、さまざまな出来事との関連性を見出す。</p> <p>1つのレポート課題を作成するためには、最低45時間の学修時間が必要である。</p> <p>①指定教材や参考図書の学修：(20時間)、②参考文献の調べ、理解：(10時間)、③レポートの初稿作成：(10時間)、④教員の指導を受け、レポート再考と最終稿の完成：(15時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>①指定教材や参考図書の熟読とレポート作成の準備 ②Manaba folio・メール・ZOOMを利用し受講者からの質疑応答を行う。</p>		
スケジュール	<p>レポートの提出時期について、以下の通りである。</p> <p>①最終稿は学事暦で定められた日まで提出する。</p> <p>②前期のレポート課題1の初稿提出期限：6月30日 前期のレポート課題2の初稿提出期限：7月30日 ③後期のレポート課題1の初稿提出期限：10月30日 後期のレポート課題2の初稿提出期限：11月30日</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材と参考図書の内容をよく理解し、ほかの文献をも利用し、また、必要に応じて一次資料を収集し整理したうえで、分析を行い、自分の意見や観点をレポートの中に論理的に反映させているかどうか。</li> <li>引用・参照を適切に記述したか。</li> </ul>	80%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の指摘を受け、再考を行ったか。</li> <li>指定教材および参考図書の他の文献を用いたか。</li> </ul>	20%
履修者への要望	<p>レポート課題を作成するため、さまざまな事象の関連性を考察する必要がある。具体的には、課題と研究テーマに関係する文献や資料などの収集に努め、必要の場合は、アジア歴史資料センターや外交史料館の利用を勧めたい。また、場合によっては博士論文のテーマに沿って海外の研究機関での資料収集も必要であると考えられる。</p> <p>学修を通じて、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、積極的に自分の意見や主張を形成させ、とくに、レポート課題に自己の意見と主張を論理的に盛り込むよう最大限の努力をしていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：ジョン・J・ミアシャイマー（奥山真司 訳）            教材名：『大国政治の悲劇』、2007年。            ISBN：978-4772704564 5,200円＋税</p> <p>本書は、アナーキーな状態にある国際社会において、諸大国は常にどう生き残るかを考えながら覇権を獲得するための戦略を練り、大国間の対立ないし戦争までに発展する必然性を論じている。「トゥキディデスの畏」の現代版ともいわれる本書は、国際政治を理解する不可欠なものである。</p>
参考図書	<p>ジョン・J・ミアシャイマー（奥山真司 訳）            『なぜリーダーはウソをつくのか』、中央公論新社、2017年。            ISBN：978-4122065031 約1000円＋税</p> <p>アンヌ・モレリ（永田千奈 訳）            『戦争プロバガンダ10の法則』、草思社、2015年            ISBN：978-4794221063 880円＋税</p>
履修上のポイント	<p>(1) 国際社会の本質を理解する            (2) 国際社会の現実を理解する            (3) 大国間の対立を理解する            (4) 嫉妬という心理と国家の行動の関係を理解する            (5) 国際秩序の確立を理解する</p>
レポート課題1	<p>第一章から第六章までを精読したうえで、大国としての条件に付いて私見を述べなさい（4,000字程度）            留意点：先行研究や資料の引用は重要だが、個人の意見も重視してください。</p>
レポート課題2	<p>第五章から第十章までを精読したうえで、大国間の関係と戦争の原因を分析するとともに、各自でテーマを設定し私見を述べなさい（4,000字程度）。            留意点：先行研究や資料の引用は重要だが、個人の意見も重視してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：コリン・S・グレイ/ジェフリー・スローン等（奥山真司 訳）            教材名：『地政学—地理と戦略』、五月書房、2022年。            ISBN：978-4909542373 5,000円＋税</p> <p>本書は、地政学に関する研究の論文集であり、マッキンダーのハートランド理論やマハンのシーパワー論など古典地政学理論からインフォメーションパワーや宇宙時代の地政戦略などまで論じており、今日の国際政治を理解することに一助となるものである。</p>
参考図書	<p>ヘンリー・A・キッシンジャー            『外交』、日本経済新聞社、1996年。            ISBN：4532161894 約10,000円＋税</p>
履修上のポイント	<p>(1) ハートランド理論を理解する            (2) マハンのシーパワー論を理解する            (3) 宇宙時代の地政戦略を理解する            (4) インフォメーションパワーを理解する            (5) 地政学と関連する事例を学習する            (6) 地理と戦争の関係を理解する</p>
レポート課題1	<p>地政学理論をもって日米や米中関係を観察し、各自でテーマを設定して私見を述べなさい（4,000字程度）。            留意点：先行研究や資料を把握したうえで個人の意見を述べてください。</p>
レポート課題2	<p>地政学と外交の関係について私見を述べなさい（4,000字程度）。            留意点：先行研究や資料を把握したうえで個人の意見を述べてください。</p>

## 基本教材1

第1回	教材の学修（第一章 インTRODクシヨン）
第2回	教材の学修（第二章 アナーキーとパワーをめぐる争い）
第3回	第3回 教材の学修（第二章 アナーキーとパワーをめぐる争い）
第4回	教材の学修（第三章 富とパワー）
第5回	教材の学修（第四章 ランドパワーの優位）
第6回	教材の学修（第五章 生き残りのための戦略）
第7回	教材の学修（第六章 大国の実際の行動）
第8回	教材の学修（第七章 イギリスとアメリカ：オフショア・ balanサー）
第9回	教材の学修（第八章 “balancing” 対 “back・passing”）
第10回	教材の学修（第九章 大国間戦争の原因 第十章 二十一世紀の大国政治）
第11回	リポ一ト課題1、2の初稿提出
第12回	教員によるチェック・助言に基づき修正
第13回	修正したリポ一トを教員による再度チェック
第14回	再修正
第15回	リポ一ト課題1、2の最終稿を提出する

## 基本教材2

第1回	教材の学修（第一章 なぜ地政学なのか 第二章 ハルフォード・マッキンダー卿—ハートランド理論の流れ）
第2回	教材の学修（第三章 地政学者アルフレッド・セイヤー・マハン）
第3回	教材の学修（第四章 エアパワー、スペースパワー、地理）
第4回	教材の学修（第五章 宇宙時代の地政戦略：アストロポリティクスによる分析）
第5回	教材の学修（第六章 批判地政学の理解のために—地政学とリスク社会）
第6回	教材の学修（第七章 地政学 戦いの場としての国境）
第7回	教材の学修（第八章 インフォメーションパワー：戦略、地政学と第五次元）
第8回	教材の学修（第九章 逃れられない地理 第十章 帆船時代における天候、地理、そして海軍力）
第9回	教材の学修（第十一章 地理と戦争の関係について 第十二章 ドイツ地政学）
第10回	教材の学修（第十三章 ロシアの地政学における事実と幻想）
第11回	リポ一ト課題1、2の初稿提出
第12回	教員によるチェック・助言に基づき修正
第13回	修正したリポ一トを教員による再度チェック
第14回	再修正
第15回	リポ一ト課題1、2の最終稿を提出する

科目名	危機管理論特殊研究	担当者	オオハマ アキヒロ 大濱 明弘	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>本科目は、昭和期の日本軍の組織論的な研究から組織における危機管理の現代的意義への理解を踏まえ、主として今日の災害発生時における組織のリーダーシップ（統率力）およびフォローシップ（補佐力）とはいかにあるべきかを解明することを目的とする。本科目の学修を通して、危機管理の研究者としての知識・教養・技能等を修得するとともに、組織の危機管理の実践者としての判断力・意思力・責務完遂への情熱・徳を身につけていく過程となることを念願している。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和期の日本軍の戦史の中から組織の抱える状況や問題を理解する。</li> <li>昭和期の日本軍の戦史を手掛かりに、現代に通じる本質的な意義を思考することができる。</li> </ul> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理論的考察に基づく当為（かくあるべき）だけでなく、組織の抱える旧弊や因襲を含む存在（過去から継続する現状）を踏まえ考察することができる。</li> <li>災害発生時における組織が直面する諸問題について、組織の抱える内在的要因をいかに克服していくかを自らの言葉で説明する力を身につける。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修方略 基本教材、参考図書、必要に応じその他の文献を精読する。レポート課題への自分の考えをまとめ、担当教員からの指導、相談、質疑応答等を重ね、レポートを作成する。</li> <li>学修時間 レポート課題1件について約45時間を目安とする。この時間を前提に、基準として、分析に50%（約20時間）、作成に30%（約15時間）、修正に20%（約10時間）程度を設定する。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>院生と担当教員との間で双方向の添削指導を行う。</p>		
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期 レポート課題1の初稿を7月末、レポート課題2の初稿を8月末までに提出する。その後、担当教員からの指導を経て、最終稿を各レポート課題ともに学事歴で定められた日までに提出する。</li> <li>後期 レポート課題1の初稿を11月中旬、レポート課題2の初稿を12月中旬までに提出する。その後、担当教員からの指導を経て、最終稿を各レポート課題ともに学事歴で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書その他の文献を用い、課題（問い）への基礎的な理解ができているか。</li> <li>構成、論理展開が明確か。</li> <li>脚注、参考文献リストその他の研究倫理の基準を満たしているか。</li> </ul>	70%
	観察記録	担当教員への質問、指導受け、不明点の解消のための検討その他のレポートの提出までの主体的な取り組みを評価する。	30%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、行政を研究する院生のほか、経営その他の組織に関する分野の研究を志す院生の履修を歓迎する。</li> <li>レポート作成に当たっては、基本教材等をまとめるだけでなく、現代の組織の問題に関心を持ち、フィールドワーク等の社会的な実践を含め視野を広げて考察することを心掛けて欲しい。</li> <li>担当教員は、安全保障、防衛法制（国際法を含む。）、危機管理、地域防災の分野を専門領域にするほか、防衛省で防衛法制の調査研究および教育に携わるほか、第一線部隊の指揮官、幕僚としても勤務してきた（現在も防衛省非常勤特別職国家公務員・予備自衛官として指定）。理論と実務の架橋として、担当教員を大いに利用していただきたい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：戸部良一、寺本義也、鎌田伸一、杉之尾孝生、村井友秀、野中郁次郎 教材名：『失敗の本質』（中央公論新社、2021年） ISBN:978-4-12-201833-4 762円＋税
	昭和期の日本軍の戦略や戦いについて組織論の立場から論考した書である。1984年に出版以来、学術分野に加え、各界の実務リーダー等を読み継がれてきた組織の危機管理の必読書である。
参考図書	菊澤研宗『組織の不条理』（中央公論新社、2017年）ISBN:978-4-12-206391-4 720円＋税 堺屋太一『組織の盛衰』（中央公論新社、2022年）ISBN:978-4-12-207217-6 900円＋税
履修上のポイント	レポート課題の留意点に沿い、基本教材、参考図書その他の文献を参照しつつ論述する。この際、科目の「目的」を基準に考察することを求めたい。単に戦史をまとめたり、合理的な米軍組織と非合理的な日本軍組織の対立構造に陥ったりすることのないよう十分に留意して欲しい。各レポートで取り上げるテーマについては、基本教材2・後期での課題を見据え、担当教員とよく相談の上で決定することを推奨する。
レポート課題1	「組織は、なぜ、目的合理的に行動できないのか」、「組織は、なぜ、同じやり方に固執するのか」のいずれかを選択し、その要因分析を踏まえ、組織における危機管理の現代的意義を論ぜよ。（4000-5000字） 留意点：基本教材のノモンハン事件、ミッドウェー作戦、ガダルカナル作戦等を参照し、担当教員と相談の上、レポート課題に取り組むこと。
レポート課題2	「組織は、なぜ、最悪を止められないのか」、「組織は、なぜ、統合・統一ができないのか」のいずれかを選択し、その要因分析を踏まえ、組織における危機管理の現代的意義を論ぜよ。（4000-5000字） 留意点：基本教材のインパール作戦、レイテ海戦、沖縄戦等を参照しつつ、担当教員と相談の上、レポート課題に取り組むこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：佐藤喜久二 教材名：『防災危機管理制度の限界と対策検討の在り方』（内外出版社、2020年） ISBN:978-4-909870-24-7 1800円＋税
	『防災危機管理制度の限界と対策検討の在り方』（内外出版社、2020年） ISBN:978-4-909870-24-7 1800円＋税
参考図書	
履修上のポイント	各レポートで取り上げる災害について、災害対策基本法第2条第1号で定義される災害（異常な自然現象、大規模な火事・爆発、大規模な事故を原因とするもの）とするか、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（通称、国民保護法）第2条第4項で定義される武力攻撃災害（武力攻撃を原因とするもの）とするか、担当教員と相談の上で決定することを推奨する。 各レポート課題ともに、分析のうち、目的、目標、状況の特質といった用語や手法については、日本の自衛隊や米軍等で活用されている状況判断の考え方を基盤としている。担当教員より説明を加えるが、不明な点は、担当教員によく相談をして欲しい。
レポート課題1	災害発生直後の組織の目的、目標および状況の特質（直面する状況とはいかなるものか、それらが当該組織の任務、ステークホルダー等（相手）、当該組織（我）、地域・情勢・環境、時間・時期、国民・住民生活に及ぼす影響）を分析し、直面する問題について論ぜよ。（4000-5000字） 留意点：当該組織について、内閣、指定行政機関、指定地方行政機関、地方公共団体、指定公共機関、指定地方公共機関等、その対象について担当教員と相談の上、課題に取り組むこと。
レポート課題2	組織のリーダー（統率者）およびフォロワー（補佐者）の立場から、災害発生直後の組織の問題（弱点）を克服し、危機管理の初動を実効性あるものにするには何が必要なのかについて論ぜよ。（4000-5000字） 留意点：当該組織は、基本的に、レポート1と同一とする（変更する場合は、担当教員と相談の上、決定すること）。

## 基本教材1

第1回	教材の学修および本科目の課題の理解
第2回	基本教材1に基づく学修（第1章1（ノモンハン事件）・2（ミッドウェー作戦）・3（ガダルカナル作戦））
第3回	基本教材1に基づく学修（第1章1（ノモンハン事件）・2（ミッドウェー作戦）・3（ガダルカナル作戦））
第4回	基本教材1に基づく学修（第2章の組織上の失敗要因分析）
第5回	レポート課題1の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第6回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた初稿
第7回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた修正稿
第8回	レポート課題1の作成：最終稿
第9回	基本教材1に基づく学修①（第1章4（インパール作戦）・5（レイテ海戦）・6（沖縄戦））
第10回	基本教材1に基づく学修②（第1章4（インパール作戦）・5（レイテ海戦）・6（沖縄戦））
第11回	基本教材1に基づく学修（第2章の組織上の失敗要因分析）
第12回	レポート課題2の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第13回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた初稿
第14回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた修正稿
第15回	レポート課題2の作成：最終稿

## 基本教材2

第1回	教材の学修および本科目の課題の理解
第2回	基本教材2に基づく学修①（武力攻撃災害を取り上げる院生は、参考図書その他の文献も加える。）
第3回	基本教材2に基づく学修②（武力攻撃災害を取り上げる院生は、参考図書その他の文献も加える。）
第4回	基本教材2に基づく学修③（武力攻撃災害を取り上げる院生は、参考図書その他の文献も加える。）
第5回	レポート課題1の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第6回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた初稿
第7回	レポート課題1の作成：指導を踏まえた修正稿
第8回	レポート課題1の作成：最終稿
第9回	基本教材2に基づく学修①（武力攻撃災害を取り上げる院生は、参考図書その他の文献も加える。）
第10回	基本教材2に基づく学修②（武力攻撃災害を取り上げる院生は、参考図書その他の文献も加える。）
第11回	基本教材2に基づく学修③（武力攻撃災害を取り上げる院生は、参考図書その他の文献も加える。）
第12回	レポート課題2の作成：論点分析（5W:Why（目的）What（目標）Who（主体）When（時代）Where（地域））
第13回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた初稿
第14回	レポート課題2の作成：指導を踏まえた修正稿
第15回	レポート課題2の作成：最終稿

科目名	日本政治史論特殊研究	担当者	タキガワ シュウゴ 瀧川 修吾	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	------------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>「温故而知新，可以為師矣」というように，過去の歴史的事実から，向後の政治をより良くするための教訓を得んとする試みは，政治史という学問の最大の使命であろう。政権の在り方や，制度の不備，格差や貧困といった俄には解決しがたい問題に起因する内政上の不満を，外交や軍事に対する人々の関心を掻きたてることで，巧みに逸らす政治手法は，他国との関係を大前提とするグローバル社会にあって，あらゆる民主主義国家とその国民が対決し，克服していかなければならない脅威といえる。本講義では，広く歴史とは何かについて学んだ上で，この厄介な問題につき，幕末から明治にかけての日本で登場した征韓論を素材に，皆さんと一緒に考えることで，豊かな知識・教養に基づく高い倫理観のほか，世界の現状を理解し説明する力，論理的・批判的思考力，問題発見・解決力，挑戦力，省察力などを高度に修得することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 日本政治史や思想史の専門書を熟読し，内容を深く理解する洞察力や省察力を養い，その成果を纏め，独自の観点から論評・解説する論理的・批判的思考力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 1. E. H. Carrの著作を精読し，各自の歴史観を再確認し，そこで学んだ理論の妥当性につき，日本史上の歴史的事実を事例にして考察を加えてみる。 2. 社会科学における言葉の定義の重要性につき，「征韓論」を事例に理解する。さらに徳川幕藩体制下の対馬藩が直面した危機について理解する。 3. 総じて，教養を身につけるために学ぶ通史とは異なり，いわば歴史を通じてのものごとを深く考える楽しみに接し，自己の眼前に展開する諸問題につき，歴史的に思考する能力を養う。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 履修者の皆さんが，これまでどの程度，歴史を学んできたかで，学修方法も再考を余儀なくされるものと予想される。よって「基本教材1」の「I 歴史家と事実」をある程度読み進めた段階で，一度，皆さんからメール等で連絡をもらい，当方が皆さんの習熟度や理解度を把握することとしたい。その上で必要に応じて参考図書を紹介したり，レポートの難易度や分量を加減したりするなど，調整し，皆さんそれぞれの状況に応じた到達目標が実現されるような指導をおこなう。本を熟読する際は，重要と思われる箇所に下線を引いたり，調べたことや批判，感想などを書き加えたりして，汚しながら読む（「眉批」を付ける）ことを推奨する。概ね，自主研究に20時間，レポート作成に10時間，教員とのディベートに15時間を目安とする。 テキストないし指示された参考書を熟読してもらおう（概ね新書1冊と学術論文2本）。学修時間は個人差が生じざるを得ないが，質問や用語の調査なども入れて45時間超を想定している。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ZoomやMeet、メールや添付ファイル，manabaを活用し，双方向性を重視した指導を行う。</p>		
スケジュール	<p>「基本教材1」から出題した課題は，6月末までを目安に学修を終え，「レポート課題1」は7月15日を，「レポート課題2」は8月15日を，それぞれ初稿の提出締切日とする（以下全て，可能であれば，締切日以前の提出を奨励する）。最終稿は学事暦の期限を提出期限とする。 「基本教材2」から出題した課題は，10月末までを目安に学修を終え，「レポート課題1」は11月15日を，「レポート課題2」は12月15日を，それぞれ初稿の提出締切日とする。最終稿は学事暦の期限を提出期限とする。 ※以上はあくまで目安であり，受講者各自の状況により柔軟に対応する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材から一定の知識を修得し，それらを客観的かつ論理的に纏めることができているか。また，学んだ知識を批評したり，援用したりするなど主体的に活用することができるか。	70%
	観察記録	当方がおこなった指導や指摘を，適切にレポートへ反映することができたか。レポートの提出期限の遵守等，コミュニケーション上のルールを守ることができたか。	30%
履修者への要望	<p>関連科目を大学で受講していなくても及第点がとれるように，極力，親切丁寧な指導を心掛けるが，その成否は，やはり皆さんがまめに連絡をくれるか否かに掛かっていると思われる。質問してくれたことに対して減点をするようなことは一切ないので，積極的かつ気軽に質問をして頂きたい。 なお，皆さんが効率的に学修を開始するためには，当方にもしかるべき準備が必要となる。よって，履修登録をすると同時に，その旨を担当教員にメール（takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp）で報告することを履修の条件としたい（その後，履修取消しをした場合もご一報頂きたい）。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：E. H. カーク著・清水幾太郎訳            教材名：『歴史とは何か』（岩波書店，1962年，原著は出版）            ISBN：4-00-413001-8（820円＋税）</p> <p>本書は、E. H. Carrが1961年にケンブリッジ大学でおこなった講演をもとに編まれたもので、歴史を研究する者にとっては必読文献といっても過言ではない。本書の出版からすでに半世紀が経過したが、ここで提示されている議題の数々がその重要性を失うことは、この世に人間や社会が存在する限り、決してないであろう。</p>
参考図書	<p>原著“<i>What is history</i>”は、幸いインターネット上でも閲覧できるようなので、訳本と併読することを推奨したい。もちろんAmazon等で、ペンギンブックスなどのペーパーバックを購入するのも良い（千数百円程度）。</p>
履修上のポイント	<p>同書では、劈頭に掲げられていた命題が先々まで深い意味をもっていたり、再び別の視点で論じられたりといったケースがあるので、論点をノートに書き出して読み進めると良いであろう（本に線を引いたり、眉批を直接書き込むのも良い）。呉々も、新書をたった一冊読むだけなどと侮らず、その分、しっかりと基本教材を「精読」してもらいたい。読み進める中で、知らない人名や事件等が出てきたら、最低限、電子辞書やインターネットなどを用いて調べるようにすること。</p>
レポート課題1	<p>歴史とは「歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との絶え間ない対話」であるというCarrの主張は、いったいどのような意味か。現今を生きる自分自身の体験や経験を踏まえて論じなさい。</p> <p>留意点：Carrの所論と皆さんの意見等とが混在しないように、正しい「引用」と「援用」の技法を駆使してレポートを作成すること（換言すれば、要旨を纏めるだけでは不十分です）。</p>
レポート課題2	<p>Carrが述べる「歴史における必然」と「歴史における偶然」とはどのような問題か。要領よく論点を纏めると共に、適当な日本史上の歴史的事実を随意に用いて説明を試みなさい。</p> <p>留意点：レポートの構成や用いる事例などが決まった段階で、一度当方に相談の連絡をくれた方が効率的と史料される。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：瀧川修吾            教材名：『征韓論の登場』（櫻門書房，2014年）            ISBN：978-4-901250-46-7（2,500円＋税）</p> <p>本書は、「征韓」論が幕末から明治の政治空間にどのようにして登場したかを、政治史・思想史的なアプローチで探求した専門書である。いわゆる博士論文を刊行したものであるため、章・節の設け方や脚注の付け方等々、皆さんがレポートや修士論文を作成するにあたっての見本となれば幸甚である。諸事情により入手が困難なため、takigawa.shugo@nihon-u.ac.jpまで御一報下さい。</p>
参考図書	<p>本書一冊を読破するだけでも骨が折れると思われるので、教材としては「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」と「第一章 ロシアによる対馬占拠事件」を使用する。参考図書については、適宜、紹介をする。</p>
履修上のポイント	<p>同書は専門書であるため、日本史の学術論文を初めて読むという履修者には、おそらく読みづらいものと思われる。まずは根気強く、導入部にあたる序章を読んでみてもらいたい。「基本教材1」と同様、未知の人名や事件については調べる努力を惜しまないで欲しい。ついで第1章を読み終えたところで、「レポート課題2」を具体的にどのようなテーマにするのか相談したいので、必ず連絡をもらいたい。そこで参考図書も決まるので、遅くとも10月初旬には第1章を読み終えて欲しい（場合によっては、先に第1章を読むと良いであろう）。</p>
レポート課題1	<p>幕末から明治にかけての「征韓」論が当事者および歴史家によってどのように認識され、その結果、どういった学説が形成されてきたかについて論じなさい。</p> <p>留意点：呉々も「基本教材2」の切り貼りにならないように、当方の指導を受けつつ、自分の言葉でレポートを作成すること。</p>
レポート課題2	<p>幕末から明治の日本を取りまいていた国際的環境をテーマに、各自で自由に議題を設定し、これについて論じなさい。</p> <p>留意点：履修上のポイントにも書いたように、「自由」とはいえども、当方と相談の上で議題設定をすること。</p>

## 基本教材1

第1回	基本教材1の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第2回	基本教材1の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第3回	基本教材1「Ⅰ 歴史家と事実」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第4回	基本教材1「Ⅱ 社会と個人」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第5回	基本教材1「Ⅲ 歴史と科学と道徳」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第6回	基本教材1「Ⅳ 歴史における因果関係」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第7回	基本教材1「Ⅴ 進歩としての歴史」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第8回	基本教材1「Ⅵ 広がる地平線」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第9回	基本教材1を読み直して整理しつつ、レポート課題1・レポート課題2の作成に必要な文献を収集する
第10回	基本教材1を読み直して整理しつつ、レポート課題1・レポート課題2の作成に必要な文献を収集する
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	基本教材2の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第2回	基本教材2の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第3回	基本教材2「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第4回	基本教材2「第1章 ロシアによる対馬占拠事件」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第5回	基本教材2「第2章 対馬藩の征韓論に関する比較考察」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第6回	基本教材2「第3章 アジア雄飛論の諸相」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第7回	基本教材2「第4章 山田方谷とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第8回	基本教材2「第5章 勝海舟とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第9回	基本教材2「第6章 アジア雄飛論と征韓論の因果関係」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第10回	基本教材2を読み直して整理しつつ、レポート課題1・レポート課題2の作成に必要な文献を収集する
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	国際メディア論特殊研究	担当者	ヤスエ ノブオ 安江 伸夫	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【旧カリ名】国際情報論特殊研究

【科目概要】

目的	トランプ氏が米大統領選挙で勝利する過程では、民主主義を否定する言説が説得力を持った。ひとつには民主主義ではない権威主義国家が台頭し米国を凌駕し始めたこと。そして民主主義国自らが自身を絶対視し非民主主義の国や集団に対する攻撃を肯定し誇りを失ったことがある。そこでメディアが果たすべき役割についての知識を修得すること（一般目標(GIO)）により、以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 民主化が実現し持続する条件についての知識を修得する。メディアや民衆が果たすべき役割を知り、異なる価値観の社会と共存できる人間力を創造する。権力構造とメディアの変容を軸に、冷戦後に旧社会主義国を中心に起きた権威主義の台頭と、戦後日本の民主主義定着を俯瞰する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①民主主義とは常に問題点を指摘し、修正できる仕組みであることが説明できる。（知識・想起） ②民主化しない中国、民主的に強権指導者が選ばれた旧ソ連・東欧、民主化から無秩序が生まれた中東などの国家群。これらを関係づけ説明できる。（知識・解釈） ③米国と中国が対立する大きな国際的背景を説明出来る。（知識・問題解決） ④ネットやSNSの普及が、感情的な極論対立と分断を招いていることを知る。（知識・問題解決）日本の国際報道が米国の発信する情報に大きく影響を受けていることを知る。（知識・解釈） ⑤世界を魅了させる狙いで中国が組織的な世論誘導を行う力を「シャープ・パワー」と呼ぶ。言論弾圧で批判を集める中国が民主化できない国々を束ねていることを知る。（知識・想起） ⑥日本でも今後、権威主義的な政治の傾向が強まると言われる。すでに自民党政府を批判する、リベラル派の言論は社会からバッシングにあう。この状況説明に活用できる。（知識・問題解決） ⑦民主化や言論の自由が実現するために必要な条件を法則化し測定できる。すなわち民主化には、格差の縮小、社会分断の融和、教育・司法・警察の整備、報道言論の自由などが必要だ。（技能） ⑧政治体制やメディア環境の異なる国や社会との意思疎通に必要な態度が身につく。（態度）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ・基本教材及び参考図書等を熟読する（自習）【SBO①&amp;②】 ・課題に沿って、事例やデータを収集し、問題点を抽出、分析する（自主研究）【SBO②&amp;③】 ・抽出した問題点を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる（レポート作成）【SBO②&amp;③&amp;④】 1単位（課題レポート1本分）につき最低 45時間の学修時間を要する。 ・基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20時間 ・レポート執筆：10時間 ・レポートの推敲、教員の添削指導：15時間 1科目 4単位に対し、45時間×4の時間が必要ということになる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・学修の過程で、manaba folioの掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッション、メールなどで疑問点に関し、相談・質問する。（ディベート）【SBO②&amp;③&amp;④&amp;⑤】</p>		
スケジュール	<p>前期【教材1】： 「初稿」提出：レポート課題1は第11回（8月初め）、課題2は第13回（8月中旬）。 「最終稿」は課題1、課題2のいずれも「学事暦で定められた日（9月中旬）」までに提出する。 後期【教材2】： 「初稿」提出：レポート課題1は第11回（12月初め）、課題2は第13回（12月中旬）。 「最終稿」は課題1、課題2のいずれも「学事暦で定められた日（1月中旬）」までに提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や、ご自身の研究分野との関連性などを評価する。	80%
	観察記録	スケジュールの順守の度合い、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。	20%
履修者への要望	<p>米大統領選挙でトランプ氏が再選された。第一次のトランプ政権登場、コロナ禍、ウクライナ戦争、イスラエルをめぐる戦争の開始で情勢が急速に変化する時代を認識して欲しい。権威主義に関する研究書も毎年多数出版され一つの分析が翌年には若干古くなるような状態だ。フランシス・フクヤマは冷戦後の世界を定点観測してきた。しかし現在の立ち位置を分析する研究者の世界は現状分析に終始し、理論で完全に検証されるには至っていない。履修者にはそのことを踏まえ、自ら考えて欲しい。情報は比較することが望ましい。新聞は左派の『朝日新聞』、右派の『産経新聞』、経済界よりの『日本経済新聞』を3紙読む。日本が海外からどう見られているかを知るため、ニューヨーク・タイムズ（ネット版）の日本に関する記事を読むことをすすめる。庶民の世論を知る上で、ワイドショーや週刊誌にも注目する。どのメディアに接する時にも、情報に対して、以下の点を意識する。「事実なのか感想や意見、想像なのか」「過去に起きたことかこれから起きることか」「一次情報はどこの誰が、どの機関が、いつ発信したものなのか」。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：フランシス・フクヤマ（渡部昇一 訳・解説、佐々木毅 解説）            教材名：『新版 歴史の終わり [上]：歴史の「終点」に立つ最後の人間』『新版 歴史の終わり [下]：「歴史の終わり」後の「新しい歴史」の始まり』（三笠書房、2020年）&lt;旧版『歴史の終わり』（三笠書房、1992年）&gt;</p> <p>「世界は民主主義に収斂する」「民主化と経済発展は関係がある」と最初に論じた。原題：The End of History and the Last Manは冷戦崩壊の年、1989年に米国で発表された。以来、中国など社会主義国は豊かになれば民主化すると論じるとき根拠として利用されてきたのがこの論文だ。日本語版「歴史の終わり」は1992年に出版された。基本教材の新版は2020年に発行された。</p>
参考図書	<p>▼フランシス・フクヤマ（会田弘継 訳）『リベラリズムへの不満』（新潮社、2023年）冷戦終焉後の1992年に経済発展で西側経済との一体化が進む社会主義圏を見たフクヤマは「世界は民主主義に収斂する」と論じた。予測が外れた理由を論じるとともに、権威主義との闘いで変質する新派リベラリズムの問題を指摘した。</p> <p>▼イワン・クラステフ、スティーヴン・ホームズ（立石洋子 訳）『模倣の罠 自由主義の没落』（中央公論新社、2021年）。民主主義を凌駕する権威主義の台頭を、西側の「模倣」を軸に論じた。ロシアは模倣した言論解放と選挙制度を改悪し強権を温存した。中国は強権を変えず市場経済だけを「模倣」し発展した。米国は「模倣」で利益にタダ乗りされたと反発し、中露の発展阻止に動いた。</p> <p>▼エミリー・B・フィンレイ（加藤哲理 訳）『民主至上主義』（柏書房、2024年）。民主主義こそが至上だと主張し民主化できない国に圧力を加えた理想が権威主義に近づけ米国をも変えた現在地を分析した。</p> <p>▼安江伸夫『アップデートされた「反日」の法則』（集広舎、2024年）。冷戦後の日中関係の接近と離反の法則をなぞる。民主主義の深化で分断と弱体化が進む米国・日本などと独裁のまま大国化した中国との関係性の変転と中国の対日政策の変容を分析した。</p>
履修上のポイント	<p>「民主主義の後退」と「権威主義の席捲」への歴史の流れはこうだ。ロシアや東欧の一部は民主化から逆コースを歩き、中国は変革せず体制の生き残りを図る。米国はこの権威主義諸国の行く先を見越した。民主主義の西側は守勢に立たされている。米国もトランプ時代に民主主義を守るところか他国との駆け引きと国内ではポピュリズムにはまった。ロシアや中国など権威主義国の席捲、民主化・自由化から逆行した背景。西側では極論対立や権力者をチェックする議会やメディアの弱体化で民主主義が機能しないことを知る。日本がその双方の間に立っていることを意識する。</p>
レポート課題1	<p>「基本教材」を要約せよ。ただしフクヤマが『リベラリズムへの不満』で予想が裏切られていった背景を説明していることを意識する。（5000字程度）            留意点：民主主義の維持と、西側以外の国々が民主主義を導入する上での難しさを知る。</p>
レポート課題2	<p>フクヤマ『歴史の終わり』での予想がなぜ外れたかを『リベラリズムへの不満』を参考にしながら自らまとめる。その上で日本の進むべき道を示す。（5000字程度）            留意点：日本としては権威主義国家の存在を尊重し共存を図らざるを得ないだろう。共存の否定・分断は極端な場合は衝突につながる。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：▼ジョン・ダワー（三浦陽一 監訳）            教材名：『増補版 敗北を抱きしめて（上・下）』（岩波書店、2004年）。</p> <p>占領下の日本を米国は民主化させた。だが天皇制や官僚制度を尊重した制度設計、日本政府へのGHQの指示系統、サブカルチャーを使った世論誘導など周到な事前計画があった。日本は憎んだはずの米国のインパクトを克服し受容した。しかしこの日本での成功体験は米国による世界の民主化に対する過信に繋がった。この論考の反省に立って著者は『戦争の文化』を書いた。</p>
参考図書	<p>ジョン・ダワー（三浦陽一 訳、高杉忠明 訳）『戦争の文化（上・下）』（岩波書店、2021年）            原著は反テロ戦争の開始から米国が疲弊に至る10年をかけて執筆された。米国が持つ「加害行為を正当化する戦争文化の優越性」に対する反省だ。真珠湾攻撃、原爆投下、911テロ、イラク戦争という米国の戦争経験を検証し、米国がいかに自国に都合の良い考え方をしていたかを知る。米国の過信が日本で成功し中東で失敗した民主化についての分析にも通じる。</p>
履修上のポイント	<p>米国は結果的に、新興国における権威主義の台頭を招いた。民主主義を活かしきれず権威主義に対し脆弱だった。『敗北を抱きしめて』を著した後のジョン・ダワーは米国が自国の勝利を正当化してきた「戦争」や「挑戦」に疑問を呈している。「都合の良い思考」「内部の異論を排除」「外部の批判を受け付けない」「敵の動機や能力を過小評価する」「文化的・人種の偏見」などを上げる。米国が思い込んでいた「米国好み」「白人対非白人」の世界観を広げようとしてきた。今日、中国に挑戦する米国に日本は同盟国として共同対処しようとしている。その意味を評価する。</p>
レポート課題1	<p>著者が描いた「通史」を要約せよ。ただし『戦争の文化（上下）』を踏まえる。（5000字程度）            留意点：枝葉を捨象し、政府、世論、メディアの動きにこだわり、歴史の主旋律をつかむこと。</p>
レポート課題2	<p>ジョン・ダワーの問題意識にそって日本が外交で進むべき道を論じる。世界の分断の中でロシアが関わるウクライナ戦争は終わりが見えない。中東情勢もまた膠着状態にある。中国は台湾に進攻する可能性がある。弱くなった米国は世界の警察をやめて自国の権益のを中心と考えている。民主化の実現が難しい国々は西側ではなくロシアや中国に接近していく。            留意点：日本が米国秩序の中で「世界」を認識してきた過去を踏まえた上で展望する。</p>

## 基本教材1

第1回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第2回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第3回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題1のテーマを考察する。
第4回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題1の関連参考図書を渉猟する。
第5回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第6回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第7回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題2のテーマを考察する。
第8回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題1と課題2の関連を考察する。
第9回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題2の関連参考図書を渉猟する。
第10回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題2の目次を作成する。
第11回	レポート課題1について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第12回	レポート課題1に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題1を作成する。
第13回	レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第14回	レポート課題2に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題2を作成する。
第15回	レポート課題1・レポート課題2の最終稿を提出する。

## 基本教材2

第1回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第2回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第3回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題1のテーマを考察する。
第4回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題1の関連参考図書を渉猟する。
第5回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第6回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第7回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題2のテーマを考察する。
第8回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題1と課題2の関連を考察する。
第9回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題2の関連参考図書を渉猟する。
第10回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題2の目次を作成する。
第11回	レポート課題1について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第12回	レポート課題1に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題1を作成する。
第13回	レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第14回	レポート課題2に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題2を作成する。
第15回	レポート課題1・レポート課題2の最終稿を提出する。

科目名	開発政策論特殊研究	担当者	イチオカ タカシ 市岡 卓	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、一般的な国際協力論や開発論で学ぶような、国際協力・開発に関する機構、制度、各分野での動向や課題を越え、開発そのものに内在する問題に肉薄することを目的とする。すなわち、一般的な国際協力論や開発論の知識や理解を前提として、メタな視点（一步引いて遠い位置・高い位置から見る視点）から対象を見つめ直すことができるようになることを目的とする。</p> <p>メタな視線を持つことは、開発が行われる社会を冷めた目で見て突き放すものではなく、その社会に寄り添い、その社会を当事者にとってより良い場所にするものにつながるものである。</p> <p>具体的には、本講座において、開発関係機関の役割・行動や、開発の推進側と受け入れ側とのギャップについて考えることで、メタな視点を獲得することを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 開発論においてメタな視点を持つことの意味を理解し、メタな視点から開発に内在する問題について鋭く切り込むことができるようになる。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 ①教材・参考図書に示された事例から、開発の問題をメタな視点から見るとは具体的にどのようなことかを理解する。(知識) ②開発の問題の中から「パズル」（「不可解な謎」。基本教材2のp. iv参照。）を見つけ出す想像力を身に着ける。(技能) ③開発をめぐる常識を疑い、建設的な批判精神を持って考察する姿勢を身に着ける。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 ・教材・参考図書を熟読し、そこで示された関連文献も参考にしつつ、レポートのドラフトを作成する。ドラフトの前にスケルトン（骨子案）を作成すると、考察を進めやすい。【15時間／レポート1本】 ・さらに考察を深め、レポートの初稿案を作成し提出する。教員との意見交換を行い、さらに材料を集めたり考察を深めたりするべきポイントについて指摘を受ける。必要に応じ、受講者同士のディスカッションにより互いに学び合う場も設ける。【15時間／レポート1本】 ・教員からの指摘を踏まえて内容の修正・充実を図り、レポートの最終稿を完成させる。【15時間／レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・教員と十分に意見交換をしながら進める。 ・必要に応じ、レポート案についての受講者同士のディスカッションなど協働学修を取り入れる。(アクティブラーニング) ・具体的な事実に基づく考察が不可欠であるため、教材・参考図書以外の書籍、論文、記事等についても十分に調査を行う必要がある。国際開発学会等の学会誌に掲載された論文や、ネットメディアの記事もチェックすることが求められる。</p>		
スケジュール	<p>①受講開始から約1か月後の時点でレポート作成の方向性が定まらない場合は、教員と意見交換を行うこと。 ②レポートの初稿提出前のスケルトンあるいはドラフトの段階で、教員と意見交換を行うことを推奨する。 ③最終稿提出までにレポート案を提出してもらい、複数回の意見交換を行っていくので、遅くとも最終稿提出期限の1か月前には初稿を提出すること。 ④最終稿提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>①教材の内容を十分に理解できているか。 ②教材以外の資料、文献等を十分に調査できているか。 ③独自の考察ができているか。 ④主張したいことを論理立てて明確に表現できているか。</p>	80%
	観察記録	<p>①初稿提出の期限（最終稿提出の1か月前）が守られたか（減点項目）。 ②最終稿提出までに教員と複数回のレポート案の交換ができたか。</p>	20%
履修者への要望	<p>大学院での学び全体に言えることであるが、特に本講座で学修するテーマは、答のない難しいテーマである。従って、常識や既成概念にとらわれることなく、自由な発想でオリジナルな切り口を見つけ、臆することなく自在に主張を展開していただきたい。</p> <p>なお、本講座では、一般的な国際協力論や開発論の知識や理解を前提として、さらにハイレベルな学修を行う。従って、博士前期課程の「国際協力論特講」をすでに受講しているか、自習により同講座の内容に相当する知識を身に着けていることが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：松本悟・大芝亮編著            教材名：『NGOから見た世界銀行 ―市民社会と国際機構のはざま―』            (ミネルヴァ書房, 2013年) ISBN:978-4-623-06503-5 3,800円+税</p> <p>国際開発における世界銀行の役割については様々な議論があるが、本書は、世界銀行と関わってきたNGOの視点から見た世界銀行について論じるというユニークな方法論で構成されている。このような方法論を取ることで、本書は抽象論ではなくよりリアルに世界銀行の抱える課題を浮き彫りにしている。</p>
参考図書	<p>松本悟『調査と権力：世界銀行と「調査の失敗」』            (東京大学出版会, 2014年) ISBN:978-4-13-040268-2 5,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>世界銀行は国際開発に大きな役割を果たしているが、それは、様々な批判にさらされてきたように完全無欠の正義の味方ではないし、一方で、完全な悪役でもない。教材及び参考図書を参照した上で、中立的で無色透明な主体ではない世界銀行がどのような思惑をもって行動するのか、様々な関係者が世界銀行に何を求めるのか、また、それらのことが国際開発にどのような影響を及ぼすのかについて、自分でも材料を集めて調べ、考察を深めてもらいたい。</p>
レポート課題1	<p>現在の世界の状況、さらに今後の見通しを踏まえ、今後の国際社会における世界銀行の役割は何かについて論じる。(5,000字程度)            留意点：留意点：教材を精読し、さらに、自分で教材の刊行(2013年)以降の世界の状況変化について調べ、また、今後の変化についての見通しを立てた上で、論じる必要がある。</p>
レポート課題2	<p>もしあなたがNGOを作り、世界銀行をよりよい方向に変えていく活動ができるとすれば、あなたは具体的にどのような活動をしていくかについて論じる。(5,000字程度)            留意点：留意点：教材ではNGOの世界銀行に対する関わり方について三つの類型が示されている。これらのいずれの関わり方で臨むのかについて、まず決めてから論じる必要がある。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：佐藤仁            教材名：『野蛮から生存の開発論：越境する援助のデザイン』            (ミネルヴァ書房, 2016年) ISBN:978-4-623-07677-2 3,000円+税</p> <p>開発論の分野では第一人者である筆者が、その研究歴の中で考察してきた様々なアイデアに関する論考をまとめたもの。開発に関する一般的な見方や常識を問い直すユニークな発想が豊富に盛り込まれている。筆者が開発の対象となる社会やそこにいる人々を冷めた目で見ているのではないことを理解する必要がある。</p>
参考図書	<p>松本悟・佐藤仁『国際協力と想像力：イメージと「現場」のせめぎあい』            (日本評論社, 2021年) ISBN:978-4-535-55975-2 2,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>開発の現場では、開発・援助を推進する側と受け入れる側との間の認識のギャップから、様々なすれ違いが生じている。そのようなギャップやすれ違いを発見するためには、開発の問題を「メタな視点」から見る必要がある。「メタな視点」とは、一歩引いて遠い位置・高い位置から見る視点である。教材及び参考図書を精読した上で、「メタな視点」を自分なりに体得し、自分なりの「メタな視点」を持つことにトライしてもらいたい。</p>
レポート課題1	<p>あなたにとって、開発をめぐる「パズル(不可解な謎)」(教材p. iv参照。)とは何かを述べる。また、その「パズル」の答えは何だかについて論じる。(5,000字程度)            留意点：留意点：「パズル」は、開発一般に関することでも、特定の開発プロジェクトをに関することでも、どちらでもよい。「パズル」の答えについては、複数の答えの可能性を論じてよい。</p>
レポート課題2	<p>あなたなりに「経験していないことへの想像力」(参考図書「はしがき」pp. i-iii)を働かせ、現在行われている国際協力のあり方をどのように見直すべきかについて論じる。(5,000字程度)            留意点：留意点：教材及び参考図書の筆者たちが論じている問題を深堀りしてもよいが、別の視点を見つけ出ししてもよい。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（世界銀行をめぐるこれまでの議論）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（NGOの視点からみること）を行う
第3回	教材1に基づく学修③（世界銀行とNGOの関係史）
第4回	教材1に基づく学修④（世界銀行と協働するNGO（1））
第5回	教材1に基づく学修⑤（世界銀行と協働するNGO（2））
第6回	教材1に基づく学修⑥（世界銀行に内から働きかけるNGO（1））
第7回	教材1に基づく学修⑦（世界銀行に内から働きかけるNGO（2））
第8回	教材1に基づく学修⑧（世界銀行に外から働きかけるNGO（1））
第9回	教材1に基づく学修⑨（世界銀行に外から働きかけるNGO（2））
第10回	教材1に基づく学修⑩（世界銀行の役割への展望）
第11回	レポート課題1・2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第13回	レポート課題2について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第14回	レポート課題1・2について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第15回	レポート課題1・2の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（開発研究への取組みのあり方）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（メタな視線）を行う
第3回	教材2に基づく学修③（生活の質とは）
第4回	教材2に基づく学修④（貧困とは）
第5回	教材2に基づく学修⑤（事例研究の意義）
第6回	教材2に基づく学修⑥（分業が生み出すもの）
第7回	教材2に基づく学修⑦（「想定外」とは）
第8回	教材2に基づく学修⑧（届かない援助）
第9回	教材2に基づく学修⑨（資源の呪い）
第10回	教材2に基づく学修⑩（援助の「日本モデル」）
第11回	レポート課題1・2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第13回	レポート課題2について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第14回	レポート課題1・2について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第15回	レポート課題1・2の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

科目名	日中比較社会論特殊研究	担当者	タカツナ ヒロフミ 高綱 博文	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-------------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	本講義では、上海における日本人コミュニティの150年の歴史を主要なテーマとするが、併せて日中関係への視座を構築することも目的とする。中国の改革開放の最前線として未曾有の繁栄を誇る「国際都市」上海には、戦前最も多い時には約10万人の日本人が在留した。上海「共同租界」の一角には日本人コミュニティが形成され、日本人居留民は中国人社会のただ中に生活していた。本講義は戦前における上海日本人コミュニティの形成・発展・崩壊の歴史過程を中心に講述しながら、日中関係における「敵対」・「依存」・「相互理解」の錯綜した関係を歴史具体的な事例を通じて考察する。それによって、歴史的視点とより正確な歴史像把握の方法を身につけ、問題発見・解決力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>本講義は、基本教材として内山完造『花甲録』及びホワイティング『中国人の日本観』を取り上げ、日中関係史を歴史的に理解し、歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を学修する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>日中関係の歴史について現代的な視点から考察し、日中関係の新たな未来を創造することのできる人材を育成する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>(自主研究) 教材及び参考文献の検索と熟読 (レポート作成) レポートの作成・レポート推敲 (ディベート) 掲示板のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動) 学修時間：レポート課題1つにつき、凡そ45時間 (教材・参考文献の学修に20時間、レポート作成に10時間、レポートの推敲と最終稿の完成に15時間)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>・OERを視聴し、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	前期：基本教材の内山完造『花甲録』を学修し、前期レポート課題については9月の締切期日までに提出する。 後期：基本教材のホワイティング『中国人の日本観』学修し、後期レポート課題については1月の締切期日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材理解度15%, 論旨の一貫性15%, 要約力15%, 表現力15%, 解釈の妥当性15%	75%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等	25%
履修者への要望	教材を学修してレポートを作成する際には、学術論文を作成するトレーニングであるとの自覚に基づき社会科学の方法論を積極的に学修しようとする熱意を持つことを要望する。 なお、最終レポートは学事歴で定められた日まで提出して下さい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：内山完造 教材名：『花甲録』(平凡社, 2011年) ISBN:978-4-58-280807-0 3,300円+税</p> <p>本書は戦前の上海において内山書店を経営し、また日中友好と日中文化交流のかけ橋の役割を果たした内山完造の自伝であり、そして本書は上海日本人居留民社会史の最良のテキストである。</p>
参考図書	高綱博文『「国際都市」上海のなかの日本人』(研文出版, 2009年) ISBN:978-4-87-636297-4 6,500円+税
履修上のポイント	内山完造の自伝『花甲録』を、異文化社会としての中国社会と格闘した一人の日本人商人の記録として読むことができる。即ち、彼がどのように中国社会への理解を深め、多くの中国人の信頼を勝ち得て、中国でのビジネスに成功したのかについてテキストから読みとっていただきたい。
レポート課題1	内山完造の中国社会認識とその変化について論述しなさい。 留意点：『花甲録』を精読して先行研究とは異なる独自の論点を提示すること
レポート課題2	内山完造が上海で書店経営に成功した要因について考察しなさい。 留意点：『花甲録』を精読して先行研究とは異なる独自の論点を提示すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：アレク S. ホワイトティング 教材名：『中国人の日本観』（岩波書店, 2000 年）ISBN:978-4-00-600013-4 1,365 円+税 本書はアメリカの中国研究の碩学であるホワイトティングが日中両国の多くの人々との対話を通して、中国人の日本観とそれを規定する思考様式を分析したものである。
参考図書	毛里和子『日中関係』（岩波書店, 2006 年）ISBN:978-4-00-431021-1 800 円+税 入江昭『日中関係 この百年』（岩波書店, 1995 年）ISBN:978-4-00-001712-1 2,330 円+税
履修上のポイント	本書の特徴は、日中関係を第三者の目で分析したことにある。そして、中国における広範なインタビュー及び文献調査によって中国人の日本認識をできるかぎり明確にしようとしている。第三者から見た中国人の日本イメージを批判的に検討することを通じて、各自の日中関係への視座を構築することに努めること。
レポート課題1	テキストに描かれた中国人の日本イメージを要約し、そのイメージの形成要因について考察すること。 留意点：テキストに描かれた中国人の日本イメージを要約し、そのイメージの形成要因について考察すること。
レポート課題2	テキストの分析を踏まえて日中関係が「歴史の負の遺産」から脱却する途について考察すること 留意点：現実の緊張する日中関係を踏まえて考察すること。

#### 基本教材1

第1回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第2回	教材『花甲録』の学修
第3回	参考文献『「国際都市」上海のなかの日本人』の学修
第4回	課題1の資料検索と分析
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材『花甲録』の学修
第9回	参考文献『「国際都市」上海のなかの日本人』の学修
第10回	課題2の資料検索と分析
第11回	レポート課題2：初稿の作成
第12回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	まとめのディスカッション

## 基本教材2

第1回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第2回	教材『中国人の日本観』の学修
第3回	参考文献『日中関係』・『日中関係の100年』の学修
第4回	課題1の資料検索と分析
第5回	課題2の資料検索と分析
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	教材『中国人の日本観』の学修
第11回	レポート課題2：初稿の作成
第12回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第13回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	まとめのディスカッション

科目名	日中比較社会論特殊研究	担当者	マツシゲ ミツヒロ 松重 充浩	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-------------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>本講義の前期では、日本・中国・韓国・台湾の歴史認識が通時的・共時的に如何に形成・展開されたのかの把握を通じて、現代東アジア地域の安定化において避けて通れない「歴史問題」をめぐる思索と対話の前提創出に必要な知見の獲得をテーマとする。</p> <p>また、後期では、近代中国東北地域の歴史と同地を巡る日中関係史を主要な対象としつつ、当該地域史・関係史を再構成する上で前提となる「問題の所在」と分析視角の把握を通じて、歴史像再構成に必要な方法論に関する知見の獲得をテーマとする。</p> <p>前後期の以上の講義によって通じて、問題発見能力、史料批判能力、論理的整合性を持った立論力の修得ができるようになります。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>本講義は、「歴史認識」と近代中国東北地域社会を分析対象として取り上げ、近代東アジア史再構成の前提となる歴史的知見と、歴史像構築に必要な史料批判と方法論を学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①知識・解釈：歴史認識、中国近代史、近代日中関係史の理解に必要な各種事象・用語の先行研究成果をふまえた正確な内容把握と、歴史的事実を整合的に再構成していく上で有用となる方法論の利用方法を理解する。</p> <p>②技能：「記録」から如何なる歴史的事実を摘出し得るのかという史料批判と、摘出した事実を如何に整合的に再構成していくかの立論の技能を高める。</p> <p>③態度：ある事象に対峙する際に、その実態を二項対立的に単純化して把握するのではなく、それが内包する、時空を跨ぐ多元的重層性と他事象との相互連関・相互変容の実態を追究する姿勢を持てるようになる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および必要に応じて参考図書を熟読しレポート（初稿）を作成する（自習・レポート作成、SBO①②【15時間／レポート1本】）</li> <li>教員によるコメント・指導に基づき初稿を修正する（自習・レポート作成、SBO①②【15時間／レポート1本】）</li> <li>インタラクティブな学習の場（ディスカッション）を通じて、最終レポートに到達する。また、必要に応じて、個別対面指導やゼミ形式での議論の機会を設ける（自主研究・レポート作成・ディベート、SBO②③④【15時間／レポート1本】）</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成過程における受講者からの質疑は、manaba folioの全受講者用の掲示板機能（スレッド）を使って応答し、その過程を受講者全員への公開により問題意識を共有する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>①前期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和7年6月末を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。</p> <p>②後期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和7年12月中旬を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材理解度20%、論旨の整合性15%、要約力15%、表現力15%、解釈の妥当性15%	80%
	観察記録	提出期限の厳守、教材以外の文献・資料の活用状況、レポート添削への対応	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な学習遂行のため、履修登録をした院生は、速やかに担当教員（松重）に連絡すること。（matsushige.mitsuhiro@nihon-u.ac.jp）</li> <li>レポート作成に際して、参考文献（含、基本教材・参考図書）からの要約・引用を行う場合は、そのことを必ず註記で参照・引用頁数と共に明記すること。</li> <li>レポート作成は、前述した目標とは別に、博士論文作成に必要な書式等の基礎的技術修得のレッスンともなっている。また、自らの「問題の所在」と「課題の設定」をブラッシュアップするレッスンともなっており、この点の自覚を持って積極的な講義参加を求めたい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：田中仁（編）            教材名：『21世紀の東アジアと歴史問題：思索と対話のための政治史論』（法律文化社、2017年）ISBN:978-4-589-03840-1 3,300円（税込）</p> <p>本書は、「第I篇 20世紀中国政治の軌跡」「第II篇 アジアを『想像』する」「第III篇 韓国・台湾・中国の歴史認識」の3部構成からなり、日本・中国・韓国・台湾における歴史認識の実態を追究しており、東アジアに通用する「歴史の語り」を構想する上で前提となる知見を提供する。</p>
参考図書	<p>寺田浩明『中国法制史』（東京大学出版会、2018年）ISBN:978-4-13-032387-1 税込4,620円。</p> <p>本書は、「歴史問題」の背景にある「法」をめぐる日中間の認識構造を、その形成機序から解明すると同時に、その差異を如何に乗り越えるのかについての方向性も提示している研究成果。</p>
履修上のポイント	<p>まず、グローバル大国化した中国の前提となる中国近現代史の展開が如何なる「語り」を如何なる背景の中で導出されていたのかを確認し、同時に日本におけるアジア認識の特徴についても確認して下さい。次いで、韓国、台湾、中国の歴史認識が如何なる歴史的過程に規定されつつ形成されたのかを把握した上で、東アジアにおける歴史認識をめぐる共有認識の可能性に関する考察をおこなってください。</p>
レポート課題1	<p>中華民国と中華人民共和国の歴史の「語り」が如何に展開し、それらが如何なる要因により規定されるものだったのかを論述せよ。            留意点：中国近現代史が如何なる争点をもって展開したのかを理解した上で、歴史的事実が如何なる要因をうけて「語り」へ転化していくのかを考察して欲しい。</p>
レポート課題2	<p>日本、韓国、台湾、中国の歴史認識における特徴が如何なる背景で形成されたのかをふまえた上で、東アジア諸国間で共通の歴史認識を獲得する上での課題とその克服方法について論述せよ。            留意点：東アジア諸国における歴史認識が、それぞれ如何なる他者認識を通じて形成されているのかについて留意しつつ、その相対化の可能性を考察して欲しい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：加藤聖文・田畑光永・松重充浩（編）            教材名：『挑戦する満洲研究：地域・民族・時間』（一般社団法人国際善隣協会発行・東方書店〔販売〕、2015年）ISBN:978-4-497-21517-8 2,400円＋税</p> <p>本書は、「第1部 研究の視点」「第2部 満洲国時代の検証」「第3部 周辺と満洲」の3部構成からなり、中国東北地域において歴史的に展開した諸主体、諸事情、諸地域の相互連関・相互変容の実相解明を通じて、当該研究における「問題の所在」と「分析視角と方法」に関する新たな研究水準を提供する。</p>
参考図書	<p>安富歩・深尾葉子編『「満洲」の成立：森林の消尽と近代空間の形成』（名古屋大学出版会、2009年）ISBN:978-4-8158-0623-1 7,400円＋税。</p> <p>本書は、近代中国東北地域社会が、生態系を含む如何なる要因と構造により歴史的に形成されたかを明らかにした研究成果。</p>
履修上のポイント	<p>基礎教材2の読解にあたっては、まず、日本、中国、ロシア、モンゴル、朝鮮における諸主体が中国東北地域や「満洲国」に対して如何なる施策や活動を展開していたのかを、分析対象が持つ歴史的意義をふまえて、理解してください。次いで、中国東北地域が如何なる歴史的継承性を内包していたのかを理解した上で、それが、前述した日本などの諸主体と如何なる相互連関を切り結ぶものだったのかと、その相互連関が如何なる相互変容を喚起し得るものだったのかについての考察をおこなってください。</p>
レポート課題1	<p>「満洲国」に対する戦後日本人の「記憶」と「記録」のありようが、満洲国における日本人の活動・体験と如何なる連関をもって形成されているのかを論述せよ。            留意点：満洲国における日本人の活動・体験の実態が如何なるもので、それが戦後日本社会において如何なる意味を持ったのかを考察して欲しい。</p>
レポート課題2	<p>多民族居住空間であった中国東北地域において「満洲国」が持った歴史的意義を検討する上で、重要と思われる視点やテーマを、その根拠共に論述せよ。            留意点：中国人、モンゴル人、満洲人、朝鮮人、ロシア人、日本人などが、「満洲国」において如何なる相互連関・相互変容の可能性を持ち得るものだったのかに留意して考察して欲しい。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第2回	基本教材1の「総論」の学修。
第3回	基本教材1の「第I編」金子論文・水羽論文の学修。
第4回	基本教材1の「第I編」丸山論文・吉田論文の学修。
第5回	基本教材1の「第II編」瀧口論文・松重論文の学修。
第6回	基本教材1の「第II編」劉論文・高橋論文の学修。
第7回	基本教材1の「第III編」柳論文の学修。
第8回	基本教材1の「第III編」許論文の学修。
第9回	基本教材1の「第III編」江論文の学修。
第10回	基本教材1の全体的把握と残された課題の確認。
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第12回	レポート課題1に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第13回	レポート課題2に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第14回	レポート課題1・レポート課題2に関する全体的な把握を深める。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第2回	基本教材2の「第一部」松重論文・加藤論文の学修。
第3回	基本教材2の「第一部」塚瀬論文・菅野論文の学修。
第4回	基本教材2の「第二部」遠藤論文・白戸論文の学修。
第5回	基本教材2の「第二部」細谷論文・湯川論文の学修。
第6回	基本教材2の「第二部」大澤論文・佐藤論文の学修。
第7回	基本教材2の「第三部」鈴木論文の学修。
第8回	基本教材2の「第三部」青木論文の学修。
第9回	基本教材2の「第三部」麻田論文の学修。
第10回	基本教材2の全体的把握と残された課題の確認。
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第12回	レポート課題1に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第13回	レポート課題2に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第14回	レポート課題1・レポート課題2に関する全体的な把握を深める。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

科目名	経済理論特殊研究	担当者	ゴトウ ヤスオ 後藤 康雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

令和4年度以前の入学者は履修不可

【科目概要】

目的	<p>本講座は経済理論の体系、構造の理解と現実への応用を通じた、現代社会経済の諸課題に対する深い考察を行うことにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>① ミクロ経済学における、各経済主体の最適化行動として経済活動をモデル化する枠組みに沿って、経済社会の多様な側面を自ら解釈することができる</p> <p>② マクロ経済学における、経済全体の動向を集計レベルで捉えた上で各経済変数間の関係を理解する枠組みに沿って、経済成長等のマクロ経済現象を考察することができる</p> <p>③ 現実の経済データを統計的に解析する計量経済学の枠組みに沿って、国内外の経済現象を回帰分析等の手法によって分析し、得られた結果を自ら解釈することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 ミクロ、マクロ、セミマクロ（産業）の各視点の違いを理解し、経済現象を適切な理論モデルに基づいて考察できるようになる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 現代の標準的なミクロ、マクロ経済学の理論そのものの理解に加え、それらを援用することで現実の経済社会の課題と政策対応を考察し、評価できるようになることである。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材・参考資料等の十分な理解、関連情報の調査、整理、理解、レポート作成、教員と受講者、あるいは受講者同士のディスカッション、さらにレポート添削における教員と受講生によるディスカッションを重ねることにより、レポート原稿を最終的に完成させる。</li> <li>1つのレポート課題当たりにつき、完成に至るまで45時間以上の学修時間を要するものとする（以下を目安とする）。</li> <li>基本教材・関連教材の学修：20時間程度</li> <li>レポート執筆：10時間程度</li> <li>レポート原稿のリバイス～最終原稿の作成（教員による添削指導等を含め）15時間程度</li> <li>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</li> <li>基本教材の読解だけでなく、内容に関連するトピックや材料を自身で調べることが求められる。これには基本教材の読解の4、5倍の時間を要すると考えられる。</li> <li>経済学においては現実を見る視点が極めて重要であるため、経済に関する各種報道（新聞、雑誌、ネット記事等）や各種調査レポート（政府資料や民間調査機関の出版物）も有力な調査対象である。</li> <li>具体的な指導形態としては、manaba folio を活用した教員と院生との間のバイラテラルな個別指導を行う。</li> </ul>		
スケジュール	<p>課題ごとに以下の通り提出期限を設ける。やむを得ない事情により初稿期限までに提出が難しいと考えられる場合には、速やかにメール等で連絡を頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期・・・レポート課題1の初稿提出期限は6月末、最終原稿提出期限は学事暦前期締切日</li> <li>レポート課題2の初稿提出期限は8月末、最終原稿提出期限は学事暦前期締切日</li> <li>後期・・・レポート課題1の初稿提出期限は10月末、最終原稿提出期限は学事暦後期締切日</li> <li>レポート課題2の初稿提出期限は12月中旬、最終原稿提出期限は学事暦後期締切日</li> </ul>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各教材の内容とその背後にある理論を理解・修得し それらを踏まえて記述されていること</li> <li>②自身の意見や考えが読み手に伝わるように記述する努力とその成果が表れていること</li> <li>③教材の内容が適切に引用されていること</li> <li>④基本教材以外の資料を独自に調べ、活用していること（加点項目）</li> </ul>	80%
	観察記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終原稿の完成に至るまでに複数回のレポート交換をしていること</li> <li>・途中稿提出期限（最終提出 1 か月前）が守れているか（減点項目）</li> </ul>	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初稿提出に関する締め切りを遵守して下さい。</li> <li>・経済理論を、リアリティを持って理解するは、時々刻々と変化する現実の経済が恰好の素材となります。経済全体や個別の経済の課題を、常に政策的な問題意識をもってながめるように心がけてもらえればと思います。例えば、日本経済新聞、週刊東洋経済、週刊エコノミストなどは幅広い現実の経済トピックを網羅している媒体です。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：加藤 雅俊 教材名：スタートアップの経済学 -- 新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ
	ミクロ経済学の基本的な考え方である最適化、費用曲線、市場の失敗等に基づいて、「アントレプレナーシップ」や「起業」という社会的意義が大きい現実的なトピックを解説。理論モデルを提示した上でそれをサポートする実証的エビデンスが示され、経済学の枠組みに基づく考察の進め方の基本的枠組みも学べる。スタートアップの動向はひいては経済成長等を通じてマクロ経済にも影響するため、ミクロ経済的視点とマクロ経済的視点の双方から考察を広げることが可能である。
参考図書	『中小企業のマクロ・パフォーマンスー日本経済への寄与度を解明する』（後藤康雄）
履修上のポイント	主としてミクロ的視点から経済主体の意思決定について考える。ミクロ経済学においては、各経済主体が目的関数の最適化を図ると仮定するのが標準的な枠組みである。“事業を興す”という意思決定は、個人にとっての一大事であり、かつ企業活動の端緒でもある。個人（消費者）と企業を2大プレイヤーとみなすミクロ経済学の応用として格好の題材といえる。こうした各経済主体（個人、企業）の意思決定のあり方という視点で考察を進めていくことが有効である。
レポート課題1	わが国において起業活動が低迷を続けている背景について、経済学的な観点に立ち、また現実のデータをまじえながら整理する（5千字程度）。 留意点：教材の関連する箇所を精読し、さらに自らわが国の現状について調べ、経済学の視点からまとめること。
レポート課題2	わが国において起業活動を高めるために有効と考えられる方針や方策について、経済学的な観点に立ち、また国内外の現実の情報をまじえながら提案する（5千字程度）。 留意点：教材の関連する箇所を精読し適宜参考にすることに加え、自らの意見を明確にして、政策的な視点からまとめること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：渡辺 努 教材名：物価とは何か
	集計レベルの物価変動（インフレやデフレ）はマクロ経済学における極めて重要な論点のひとつである。本教材は、1990年代以降長らく続いたわが国のデフレ圧力を念頭に置きつつ、物価変動のメカニズムを理論的、実証的に考察するものである。従来、物価変動は集計レベルのマクロ的視点で考えられてきたが、近年、個々の財・サービスの価格の動向というミクロ的な視点と連携させて分析する方向が目覚ましい成果をあげている。本教材は、そうした新しい方向性にも十分目配りし、マクロ、ミクロ双方の視点から物価変動の考え方を整理し、政策のあり方など幅広い論点を網羅する。
参考図書	『世界インフレの謎』（渡辺努）
履修上のポイント	主としてマクロ的視点から、物価変動のメカニズムとそのわが国における動向について考える。マクロ経済学においては、主要な経済変数を集計レベルでとらえ、それぞれの因果関係を考慮の上、数理モデルとして表現するのが一般的な枠組みである。最終的にはこうした集計レベルに落とし込んでいくことが必須ではあるものの、その背後にあるメカニズムは、個々の経済主体の意思決定の積み上げであり、ミクロ的な最適化行動の視点もまた欠かせない。
レポート課題1	わが国においてバブル崩壊以降（特に2000年代以降）、デフレ圧力が長らく続いた背景について、経済学的な観点に立ち、また現実のデータをまじえながら整理する（5千字程度）。 留意点：教材の関連する箇所を精読し、さらに自らわが国の現状について調べ、経済学の視点からまとめること。
レポート課題2	わが国における今後の物価のコントロール（制御）のあり方として有効と考えられる方針や方策について、経済学的な観点に立ち、また国内外の現実の情報をまじえながら考察する（5千字程度）。 留意点：教材の関連する箇所を精読し適宜参考にすることに加え、自らの意見を明確にして、政策的な視点からまとめること。

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をする。 教材に基づく学修①(「スタートアップの経済学」の枠組み)
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②(第2章)を行う
第3回	教材に基づく学修③(第3章)
第4回	教材に基づく学修④(第4章)
第5回	教材に基づく学修⑤(第5章)
第6回	教材に基づく学修⑥(第6章)
第7回	教材に基づく学修⑦(第7章)
第8回	教材に基づく学修⑧(第8章)
第9回	教材に基づく学修⑨(第9章)
第10回	教材に基づく学修⑩(第10章)
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、レポートの初稿を提出する
第12回	レポート課題1に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第13回	レポート課題2に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに関する全体的な認識・理解を深化させる
第15回	レポート課題1・レポート課題2についての自身の考えを教員と共有し、最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をする。 教材に基づく学修①(「物価変動の経済学的理解」の枠組み)
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②(第1章)を行う
第3回	教材に基づく学修③(第2章 1、2節)
第4回	教材に基づく学修④(第2章 3節)
第5回	教材に基づく学修⑤(第3章 1、2節)
第6回	教材に基づく学修⑥(第3章 3～5節)
第7回	教材に基づく学修⑦(第4章 1、2節)
第8回	教材に基づく学修⑧(第4章 3節)
第9回	教材に基づく学修⑨(第4章 4、5節)
第10回	教材に基づく学修⑩(第5章)
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、レポートの初稿を提出する
第12回	レポート課題1に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第13回	レポート課題2に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに関する全体的な認識・理解を深化させる
第15回	レポート課題1・レポート課題2についての自身の考えを教員と共有し、最終レポートを提出する

科目名	国際経済政策論特殊研究	担当者	リック ユウゴン 陸 亦群	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	1990年代以降の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進む一方で、地域統合に向けた活発な動きも見られるようになった。東アジアでは、企業の生産活動がグローバル化した結果、部品や中間財の貿易が増大し、域内貿易依存度がEUやNAFTAと同水準の高さに達している。それに伴い、新しい国際分業関係が形成されている。この地域では、新たな経済的ダイナミズムが生まれ、EUやNAFTAのような経済統合とは異なる形での「事実上の統合」が進展している。本講座では、国際分業構造の変化や産業集積が地域経済の発展に与える影響に着目し、理論的および実証的な観点から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 最新理論および実証分析手法を修得する。仮説の提起・検証のプロセスを理解する。 グローバル化時代下の経済政策が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論知識を修得し、国際経済政策問題の歴史的理論的アプローチを理解する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 経済政策と経済開発問題の推移を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 (自習) 基本教材リーディング 学修時間：12時間 (自主研究) 研究論文サーベイ、参考文献の検索 学修時間：12時間 (ディベート) オンラインディスカッション 学修時間：12時間 (研究課題報告などの協働学習) ピア・レスポンス 学修時間：12時間 (レポート作成) レポート作成及びレポート推敲 学修時間：12時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 基礎理論の指導や質疑応答はオンラインディスカッションを行う。 研究課題報告についてはグループディスカッションを行う。</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事歴で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限(提出期限1か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期にメールなどを使って連絡すること。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	研究文献サーベイ、図書資料の把握程度を重視し、問題設定、問題提起の方法、論理的展開、独創性、参考引用の適切性などを評価する。	80%
	観察記録	ディスカッション、ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	基本教材1については、単に教材を読み、理解し、それをまとめるだけでは不十分である。先行研究を徹底的に調査し、既存の理論をしっかりと押さえた上で、他者の見解を鵜呑みにするのではなく、批判的に吸収する姿勢が求められる。常に「なぜか」と問い、自分なりの考えをどのように示すかが重要である。基本教材2については、先行研究の調査を通じて、既存の理論や諸説を整理し理解を深めると同時に、統計データの収集やデータベースの構築、実証分析手法の確立が求められる。また、自分なりの仮説を立て、それをどのように検証するかが鍵となる。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：馬田啓一，木村福成編著 教材名：『国際経済の論点』（文真堂，2012年）ISBN:978-4-83-094771-1 2,800円+税</p> <p>本教材は、WTOと経済連携、貿易と直接投資、自由貿易と企業行動、通貨と金融危機、新興国と開発の5部から構成されている。具体的には、貿易構造の多角化と東アジアにおける中間財供給、東アジアにおける生産・流通ネットワークの重要性、海外直接投資と空洞化の問題、アンチダンピング、欧州政府債務危機の根底にある課題、さらには躍進する新興国と「中所得国の罠」など、国際経済環境における不確実性が高まる中で注目される論点を取り上げている。本教材では、これらの現状や問題点を整理し、それぞれの課題について考察を行っている。</p>
参考図書	<p>石川幸一，馬田啓一，清水一史編著『アジアの経済統合と保護主義』（文真堂，2019年） ISBN: 978-4-8309-5052-0 2,800円+税 若杉隆平編著『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』（文真堂，2020年） ISBN: 978-4-8309-5077-3 2,500円+税 木村福成編著『これからの東アジア-保護主義の台頭とメガFTAs-』（文真堂，2020年）ISBN: 978-4-8309-5098-8 2,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>企業の生産活動のグローバル化、中間財供給、工程間分業、新しい国際分業、国際経済秩序、自由貿易体制、FTA戦略といったキーワードを正確に理解することは、グローバルな政策課題の変遷を把握する上で重要である。</p>
レポート課題1	<p>グローバル生産ネットワークの形成および広域経済連携の現状と課題について説明しなさい。 留意点：教材のWTOと経済連携、貿易と直接投資を理解するとともに、広域経済連携の現状を突き止め、国際経済秩序、自由貿易体制下の通商戦略展開を踏まえて課題を説明すること。</p>
レポート課題2	<p>日本企業の生産活動のグローバル化、アジアを取り巻く経済環境の変化を踏まえて、分断リスクに向き合う国際経済政策のあり方について論じなさい。 留意点：中間財供給、工程間分業といったキーワードを理解し、新しい国際分業の特徴を的確に捉え、アジアの経験、貿易摩擦等を踏まえて論じることが望ましい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：園部哲史，大塚啓二郎 教材名：『産業発展のルーツと戦略-日中台の経験に学ぶ-』（知泉書館，2004年） ISBN:978-4-90-165434-0 4,500円+税</p> <p>グローバル化の進展に伴い、発展途上国の工業化や産業発展を考える際には、産業集積の経済的意義を考慮する重要性が一層高まっている。産業集積をいかに産業の発展へと結びつけるかが、重要な課題である。本書は、情報の非対称性に関する経済理論、契約や組織の理論、経済地理学や産業集積の理論、農村工業化論といった既存の理論に基づき、アジアの経験、特に日本、中国、台湾におけるいくつかの事例研究を手がかりに、理論・実証・政策の総合的な視点から産業発展のプロセスを理論化したものである。現場のマイクロデータを活用し、内生的産業発展論の視点から産業集積の発展過程を解明するとともに、空間経済学の視点から開発戦略に関する政策的示唆を提示している。</p>
参考図書	<p>伊藤聖聖『現代中国の産業集積-「世界の工場」とボトムアップ型経済発展』（名古屋大学出版会，2015年）ISBN:978-4-83-094582-3 2,500円+税 高中公男訳『グローバル・バリューチェーン-新・南北問題へのまなざし-』（日本経済新聞社，2019年）ISBN: 978-4-8158-0823-5 5,400円+税 森田果『実証分析入門』（日本評論社，2014年）ISBN: 978-4-535-55793-2 3,000円+税 陸亦群・前野高章・羽田翔・安田知絵『現代開発経済入門』（文真堂，2020年）ISBN:978-4-83-095082-7 2,300円+税</p>
履修上のポイント	<p>空間経済学の産業集積理論と内生的産業発展論の2つの理論を結びつける視点から、産業発展を動的に説明する論理を構築し、それを開発戦略の取り組みへと結びつける点が重要である。また、仮説の提起、統計的検証、結論の要約といった科学的な論述スタイルは特筆すべき特徴である。さらに、実証モデルや分析の枠組みに適したデータベースの構築を含む計量分析手法の学習も重要なポイントとなる。</p>
レポート課題1	<p>産業発展と産業集積に関連する基礎理論およびその分析枠組みを把握し、産業集積の本質とは何かを明らかにした上、東アジアの特徴を解明し、そして本教材における産業集積ないし産業発展の動態的变化に関わる捉え方の問題点を明らかにする。 留意点：産業集積理論と内生的産業発展論を理解したうえで、産業発展の動態的变化に関わる捉え方の賛否を論じること。</p>
レポート課題2	<p>これまでの実証分析手法を参考にしながら、アジアにおける産業集積と経済発展との関連性について、自分なりの仮説を立て、一カ国もしくは数カ国を対象に実証モデルを構築し、それに適する統計データを収集し実証分析を行い、仮説を検証する。 留意点：仮説の提起、データ収集、仮説検証、結果分析といった実証分析手法を構築してほしい。</p>

## 基本教材1

第1回	基本教材の学修：WTOと経済連携
第2回	基本教材の学修：貿易と直接投資
第3回	基本教材の学修：自由貿易と企業生産活動のグローバル化
第4回	課題論文の検索と分析
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	基本教材の学修：通貨と金融危機
第10回	基本教材も学修：新興国と経済開発
第11回	課題論文の検索と分析
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	基本教材の学修：産業集積理論と課題設定
第2回	基本教材の学修：内生的産業発展論
第3回	基本教材の学修：産業立地と産業発展
第4回	課題論文の検索と分析
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	基本教材の学修：産業集積の比較研究
第10回	基本教材も学修：内生的産業発展論の構築に向けて
第11回	課題論文の検索，仮説提起，実証分析モデルの構築
第12回	レポート課題2：データ収集，仮説検証，初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	国際経済政策論特殊研究	担当者	マエノ タカアキ 前野 高章	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-------------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。1990年代以降顕著に観察されている企業の海外市場への進出と中間財貿易の拡大は、企業による生産ネットワークの構築による生産拠点の国際的分散と地域的集積をもたらし、その結果、経済のグローバル化の恩恵を享受した。近年の世界市場では自由貿易と保護貿易がともに強調され、グローバル経済はさらに変化し続けている。その変化の要因はさまざまであるが、関税障壁や非関税障壁といった貿易障壁の変化が主な要因といえる。本講座は、企業のグローバル市場への進出要因と国際分業構造の変化に着目しながら、グローバル経済の変化を理論・実証・政策の面から分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 最新理論および実証分析手法を修得する。仮説の提起・検証のプロセスを理解する。 企業の国際活動を促進させる通商政策が国内市場と国外市場にもたらす影響を客観的に捉えるために国際経済と経済政策の理論知識を修得し、国際経済政策の課題や特殊性について理論的に理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 基礎理論の指導や質疑応答はオンラインでのインタラクティブな指導を行う。 課題の読み込み、初稿作成、レポート遂行を通じて、1課題あたり45時間程度を要する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 基礎理論の指導や質疑応答はオンラインディスカッションを行う。 研究課題報告についてはグループディスカッションを行う。</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、最終提出期日は学事歴で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出すること。もしそれが難しいと思える場合には、できるだけ早く必要な質問等をメールあるいはmanaba folioなどを使って連絡すること。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を正確に理解し、学術的に整理し、自分の意見を加えてまとめられているかどうかを基準とする。	80%
	観察記録	レポートの事前準備や最終提出までに複数回のレポート交換ができていかなどといったレポート作成のプロセスを基準とする。必ず時間的に余裕を持って提出すること。	20%
履修者への要望	基本教材を理解したうえで、その他の関連文献などから国際経済政策に関する知識を修得し、レポートをまとめること。教材を要約するだけでは不十分とみなす。また、レポート作成・提出に関しては添削や質疑応答に関する十分な時間を確保するよう心掛けること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：石川幸一，馬田啓一，清水一史編著            教材名：『岐路に立つアジア経済』（文眞堂，2021年）            ISBN 978-4-8309-5130-5 2,800円+税</p> <p>本教材は，Ⅰ. 米中対立に翻弄されるアジア，Ⅱ. パンデミック（コロナ感染拡大）の影響，Ⅲ. アジアの経済統合の行方，Ⅳ. ニューノーマル（新常态）への模索の4部門から構成されている。グローバル化により経済的恩恵を受けていた時期から，アメリカと中国の対立およびパンデミックによる世界的な負の影響が生じる時期に至り，その点をふまえ岐路に立つアジア経済の現状と課題，政策的な対応と今後の展望等について様々な視点から考察している。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木村福成編著『これからの東アジア-保護主義の台頭とメガFTAs-』（文眞堂，2020年） ISBN: 978-4-8309-5098-8 2,500円+税</li> <li>・長谷川聰哲監修『米国通商政策史』（文眞堂，2022年） ISBN 978-4-8309-5113-8 10,000円+税</li> <li>・石川幸一，馬田啓一，清水一史編著『アジアの経済統合と保護主義』（文眞堂，2019年） ISBN: 978-4-8309-5052-0 2,800円+税</li> <li>・ジョン・マクラレン著 柳瀬明彦訳『国際貿易-グローバル化と政策の経済分析』（文眞堂，2020年） ISBN: 978-4830951039 3,000円+税</li> <li>・『通商白書』各年版（経済産業省HPを参照すること） (<a href="https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html">https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html</a>)</li> </ul>
履修上のポイント	東アジア諸国の経済成長過程においてアジア通貨危機，世界金融危機，コロナ危機，米中対立，といった世界規模での出来事とにより加速された保護主義的動きに加え，EUの東方拡大，CPTPPやRCEPといった自由貿易協定の締結といった自由貿易への動きをアジア諸国はどのように捉えているかをおさえること。
レポート課題1	これまでの東アジア諸国（東南アジアも含む）の貿易の拡大はどのような特徴があるかを明らかにし，パンデミックが東アジア地域にどのような経済的影響をもたらしたのかを整理し，アジア地域は外生的な経済的影響にどう対応すべきかを論述せよ。 留意点：アジア地域がFDIと貿易により経済成長を拡大してきたことを整理し，様々な世界的な出来事が東アジア経済にもたらした影響の特徴を整理すること。
レポート課題2	米中対立やパンデミックを経験した東アジア諸国は，それ以前までに順調に進めてきた貿易と投資の促進による経済統合への歩みをどのように進めていくべきかと考えるか。保護貿易と自由貿易の観点を踏まえながら論述せよ。 留意点：保護貿易と自由貿易のメリット・デメリットを把握し，経済統合の効果を理論的に解釈すること。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：馬田啓一，浦田秀次郎，木村福成編著            教材名：『変質するグローバル化と世界経済秩序の行方』（文眞堂，2023年）            ISBN 978-4-8309-5231-9 2,800円+税</p> <p>本教材は，Ⅰ. 米中対立とサプライチェーン再編，Ⅱ. ロシアのウクライナ侵攻と経済制裁，Ⅲ. さらなる地域経済連携への模索，Ⅳ. グローバル化と経済安全保障への対応の4部門から構成されており，近年のグローバル経済の包括したものである。前半は，アメリカと中国およびロシアとウクライナの対立が世界経済にもたらしている影響について，後半は，通商政策における地政学的なリスクおよび経済安全保障について，専門領域ごとにまとめられている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョン・マクラレン著 柳瀬明彦訳『国際貿易-グローバル化と政策の経済分析』（文眞堂，2020年） ISBN: 978-4830951039 3,000円+税</li> <li>・長谷川聰哲監修『米国通商政策史』（文眞堂，2022年） ISBN 978-4-8309-5113-8 10,000円+税</li> <li>・石川幸一，馬田啓一，清水一史編著『検証・アジア経済』（文眞堂，2017年） ISBN: 978-4-8309-5052-0 2,800円+税</li> <li>・清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』（有斐閣，2017年） ISBN: 978-4641165175 2,800円+税</li> <li>・『通商白書』各年版（経済産業省HPを参照すること） (<a href="https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html">https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index_tuhaku.html</a>)</li> </ul>
履修上のポイント	世界の経済成長を牽引してきたアジア地域でのサプライチェーンや経済連携の動きが米中問題，ロシア・ウクライナ問題によりどのような影響を受けてきているかを経済学的視点から考え，さらに近年特に注目されている地政学的リスクと経済安全保障についてどのように学術的に解釈しているかを理解すること。
レポート課題1	アメリカ・中国の対立とロシア・ウクライナ問題が世界経済にもたらす影響について論述せよ。 留意点：東アジアでの国際的サプライチェーンの特徴を理論的に解釈し，生産ネットワークの成長要因とそれがどのような経済的恩恵をもたらしたのかを最初に論述すること。
レポート課題2	地政学的リスクおよび経済安全保障について世界経済ではどのような動きがみられるかを論述せよ。 留意点：地政学的リスクおよび経済安全保障に対する世界経済での動きと日本での動きを比較しながらまとめしていくこと。

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第2回	教材および参考図書に基づく学修①（アジア地域の貿易構造）
第3回	教材および参考図書に基づく学修②（米中対立とアジア経済）
第4回	教材および参考図書に基づく学修③（パンデミックと貿易依存関係）
第5回	教材および参考図書に基づく学修④（パンデミックと地域経済）
第6回	教材および参考図書に基づく学修⑤（アジアの経済統合とAEC・RCEP）
第7回	教材および参考図書に基づく学修⑥（アジアの経済統合と産業集積）
第8回	教材および参考図書に基づく学修⑦（アジアの経済統合とASEAN）
第9回	教材および参考図書に基づく学修⑧（新常态と中国の発展戦略）
第10回	教材および参考図書に基づく学修⑨（サプライチェーンと経済安全保障）
第11回	教材および参考図書に基づく学修⑩（アジア地域の経済的連携と協力）
第12回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容を整理し、初稿を提出する。
第13回	レポート課題1に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第14回	レポート課題2に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを整理し、最終レポートを提出する。

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第2回	教材および参考図書に基づく学修①（米中対立とデカップリング）
第3回	教材および参考図書に基づく学修②（米中対立の生産ネットワークへの影響）
第4回	教材および参考図書に基づく学修③（米中対立とGVCsの変化）
第5回	教材および参考図書に基づく学修④（ロシア・ウクライナ対立の世界経済への影響）
第6回	教材および参考図書に基づく学修⑤（中国の対外開放・外交戦略）
第7回	教材および参考図書に基づく学修⑥（地域経済連携と地政学的リスク）
第8回	教材および参考図書に基づく学修⑦（地域経済連携とRCEPおよびCPTPP）
第9回	教材および参考図書に基づく学修⑧（通商政策と国際的制度設計）
第10回	教材および参考図書に基づく学修⑨（自由貿易と経済安全保障）
第11回	教材および参考図書に基づく学修⑩（日本経済の経済安全保障）
第12回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容を整理し、初稿を提出する。
第13回	レポート課題1に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第14回	レポート課題2に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを整理し、最終レポートを提出する。

科目名	国際経営論特殊研究	担当者	イノウエ ヨウコ 井上 葉子	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	国際ビジネスにおける古典の基礎知識から最新の知識まで事例を交えて講義する。具体的には、国際的なビジネス環境や国際市場における経営戦略、国際ビジネスに関係する法と規制、グローバルな組織管理など、国際経営に関連するさまざまな側面を深く探求する。最新の研究、事例分析、論文執筆、プロジェクトの実施などを通じて、国際ビジネスにおける専門知識を深めることを目的とする。			
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな視点から、ビジネスに接するマインドと知識を習得する。</li> <li>・クリティカルシンキングの養成：受講者に異なる国・文化におけるビジネス環境を分析してもらい、問題解決能力やクリティカルシンキングを養う。</li> </ul> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門的知識の獲得：国際経営に関する専門知識および各理論を理解する</li> <li>2) 研究スキルの向上：研究方法論やデータ分析のスキルを磨く機会を提供し、独自の研究プロジェクトを実施する能力を身につける。</li> <li>3) 現実世界への適用：国際ビジネスの実務において、習得した知識とスキルを活用できるよう、実務的な視点を持つ。</li> </ol>			
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>既存研究の文献・資料を幅広く読む ビジネスの現状を理解する 理論と現状を常に照らし合わせることで、思考力を養成する 課題図書を読み込み、初稿作成・推敲・最終原稿作成をあわせて、レポート1本あたり45時間の学修を要する</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>グーグルクラスルームなどを活用して、できるだけ多くの学生に寄り添った形で講義を進める。</p>			
スケジュール	<p>【初稿提出期限】</p> <p>前期課題：レポート1は5月末、レポート2は8月末 後期課題：レポート1は10月末、レポート2は12月末</p> <p>【最終提出期限】</p> <p>いずれも学事暦で定める最終提出期限までに提出すること</p>			
成績評価	種別	評価基準		割合
	レポート	既存研究の調査 独自性 既存研究と結論の相関性		90%
	観察記録	講義ルール レポート 講義への参加意欲		10%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ビジネスの基本原則を理解するために、経済学、経営学、国際関係、国際マーケティングなどの基本的なコースの受講を勧める。</li> <li>・国際ビジネスの最新トレンドや国際政治、経済の動向を追跡し、業界の最新情報に敏感になる。</li> <li>・国際ビジネスに関連する実際のケーススタディを分析し、プロジェクトを実施して実務的なスキルを発展させる。</li> <li>・仕事で培った知識や経験を講義に活かし、manabaあるいはGoogle classroomを通じて積極的に発言する。</li> </ul>			

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：江夏健一編集            教材名：【シリーズ国際ビジネス】3 グローバル企業の市場創造 中央経済社 2008年            ISBN:978-4-502-66470-0</p> <p>ある事例は知識移転という視点から、ある事例は親会社と子会社という視点から市場創造というテーマに接近している。さらに、新しい市場をつくりだすための組織的な仕組みについても言及し、市場創造とそれをつくりだす組織の仕組みの両方を視野に入れて分析した事例集</p>
参考図書	国際ビジネス 1: グローバル化と国による違い チャールズ・W.L. ヒル
履修上のポイント	教科書には多くの情報が書かれているが、すべての情報が同じ重要度を持っているわけではないので、重要なポイントを押さえながら理解することが大切になる。 学修したあと、自分が理解できたかどうかを確認することも大切。理解できなかった箇所があれば、再度読み直すか、他の参考書を利用するなどして、理解を深めること。
レポート課題1	課題図書から各自の興味のある章を一つ選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。
レポート課題2	課題図書から、レポート課題で選んだ章と異なる章のうち、各自の興味のある章を一つ選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：江夏健一編集            教材名：国際ビジネス理論 (シリーズ国際ビジネス)            5 国際ビジネス研究の新潮流 中央経済社 2008年            ISBN:978-4-502-39810-0</p> <p>国際ビジネス研究におけるきわめて重要な課題やニューフロンティアの課題を扱い、国際ビジネス研究における新しい課題や潮流、その方向性について示唆が得られるよう第一線の研究者が解説する。</p>
参考図書	国際ビジネス 1: グローバル化と国による違い チャールズ・W.L. ヒル
履修上のポイント	教科書には多くの情報が書かれているが、すべての情報が同じ重要度を持っているわけではないので、重要なポイントを押さえながら理解することが大切になる。 学修したあと、自分が理解できたかどうかを確認することも大切。理解できなかった箇所があれば、再度読み直すか、他の参考書を利用するなどして、理解を深めること。
レポート課題1	課題図書から各自の興味のある章を一つ選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。
レポート課題2	課題図書から、レポート課題で選んだ章と異なる章のうち、各自の興味のある章を一つ選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。

基本教材1

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の理解するために学生と教員と討論
第3回	教材の学修 (第1章～第3章)
第4回	教材の学修 (第4章～第7章)
第5回	中間ディスカッション
第6回	レポート課題1
第7回	レポート課題1資料収集
第8回	レポート課題1作成進捗確認
第9回	レポート課題1提出
第10回	教材の学修 (第8章～第11章)
第11回	教材の学修 (第12章～第15章)
第12回	ディスカッションレポート課題2
第13回	レポート課題2資料収集
第14回	レポート課題2作成進捗確認
第15回	レポート課題2提出

## 基本教材2

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の理解するために学生と教員と討論
第3回	教材の学修（第1章～第3章）
第4回	教材の学修（第4章～第7章）
第5回	中間ディスカッション
第6回	レポート課題3
第7回	レポート課題3資料収集
第8回	レポート課題3作成進捗確認
第9回	レポート課題3提出
第10回	教材の学修（第8章～第11章）
第11回	教材の学修（第12章～第14章）
第12回	ディスカッションレポート課題4
第13回	レポート課題4資料収集
第14回	レポート課題4作成進捗確認
第15回	レポート課題4提出

科目名	流通経営論特殊研究	担当者	カトウ コウジ 加藤 孝治	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>本講座は流通産業の構造、流通企業の経営問題に対する深い理解を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>①流通産業の知識の修得を通じて、社会の構造変化の実態とそれに対応する企業の活動につき、自ら学ぶ ②流通経営の知識を持つことで、現在のネットワーク技術の革新とそれに対する企業行動を理解し、今後の産業の方向性を自ら考えることができる ③国内外の流通業界の動向についてより深い見地から理解し、流通研究・産業研究に対する研究視点を得るとともに、新たな学術的アプローチに向けて、自ら道をひらくことができる</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 流通企業経営に必要な企業戦略・組織運営に加え、産業構造に関する専門性を理解する</p> <p>【行動目標(SBOs)】 ①学修者が流通産業に関する知識を幅広く学び、その内容を列挙するとともに、それぞれの知識を関係づけて理解する(知識) ②具体的な企業の経営活動に対して、学んだ知識を活かして、深く洞察することで理解を一層深め、自らの研究に使うことができる技能に高める(技能) ③産業構造の変化や企業活動が、理論通りに進まない状況に対し、どこにその原因があるかを配慮する(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ・教材精読に留まらず、内容を理解し、関連する研究領域を探索することを自らやってみることで、理解は深まる。そのため、基本教材の精読の3～5倍の時間を使い関連資料を探しつつ、しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。 ・基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポートドラフトを作成する【15時間/レポート1本】 ・提出レポートに対するコメントに基づき深い考察を行う必要がある。指導・考察のサイクルを複数回やり取りすることで理解が深まる。この時点で、基本教材・副教材以外の参考資料を、学修者が自ら探し出すことが求められる【15時間/レポート1本】 ・インタラクティブな学習の場(ディスカッション)となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的にレポートが作成される。それまでに与えられた課題以外の追加資料との整合性、先行研究との比較を通じた自主的なインプットによる深い理解に到達することができる【15時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 具体的な企業事例に基づく研究が必要であり、各自が教材以外の関連書籍を探し、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。</p>		
スケジュール	<p>①提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要があるため、初回提出期限は課題提出期限1.5か月前までとする。(前期：7月末、後期11月末) ②受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿提出期限までに課題提出が難しいと考えた場合には、レポート作成に必要な質問を、メールあるいはレポート提出システム(manaba)を使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	①教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか(加点項目)	80%
	観察記録	①最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ②途中稿提出期限(最終提出1か月前)が守れているか(減点項目)	20%
履修者への要望	<p>履修者への要望 本講座の対象となる流通企業とは、小売企業にとどまらず、卸売(中間流通)企業あるいは物流企業も対象である。広く流通活動に携わる企業に基づく活動・研究として考える必要がある。履修にあたり、流通産業の実態に関する十分な理解が必要であることは言うまでもないが、あわせて、修士レベルの経営理論の知識があることを前提とする。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：Philip Kotler, Kevin L. Keller, Alexander Chernev(著), 恩藏直人(監修・翻訳)            教材名：「コトラー&amp;ケラー&amp;チェルネフ マーケティング・マネジメント [原書16版]」(丸善出版, 2022年) ISBN:978-4621307472 8,500円+税</p> <p>教材はマーケティングの定番テキストであり、マーケティング活動に留まらず、幅広く流通企業経営に必要な不可欠な問題点を取り上げ、同分野の必読書として精読することが望まれる</p>
参考図書	<p>①フィリップ・コトラー, ゲイリー・アームストロング, 恩藏直人「コトラー, アームストロング, 恩藏のマーケティング原理」(丸善出版, 2014年)            ②Michael Levy, Barton Weitz, Dhruv Grewal “Retailing Management 11th Edition” McGraw-Hill Education (2022/3/18)</p>
履修上のポイント	<p>参考図書②はアメリカの流通企業経営に係るテキストで、アメリカに留まらず世界の最新の流通産業の実態に触れているものである。産業に係る研究を進めるためには、常に、最新の情報を入手する必要があることを理解してほしい。            なお、レポート課題に取り組むためには、提示している教材以外に独自に書籍・論文などを探し、問題を深堀する必要がある。</p>
レポート課題1	<p>流通企業の経営者に課されている意思決定上の課題は何か。あなたの考えに基づき列举して整理せよ。(5000字程度)            留意点：企業経営者に課される課題は多い。流通産業では、古くからある課題に加えて、最新の変化によって直面することになった課題まで幅広く難しい問題に直面している。今、何を意思決定しなくてはいけないのか、一つずつ丁寧に考察することを通じて、産業の実態を明らかにする。本講義を通じて、当初に仮説として設定した「課題」について検証することとなる。</p>
レポート課題2	<p>顧客の期待に対して流通企業はどのように反応することができるか。(5000字程度)            留意点：まず、顧客は流通企業に対して何を期待しているのだろうか、ということを考えてうえで、その期待に応えるための流通企業側のアクションを示すことが求められる。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：Philip Kotler, Kevin Lane Keller(著), 恩藏直人監修            教材名：「コトラー&amp;ケラー&amp;チェルネフ マーケティング・マネジメント [原書16版]」(丸善出版, 2022年) ISBN:978-4621307472 8,500円+税</p> <p>教材はマーケティングの定番テキストであり、マーケティング活動に留まらず、幅広く流通企業経営に必要な不可欠な問題点を取り上げ、同分野の必読書として精読することが望まれる</p>
参考図書	<p>中野幹久「サプライチェーン・マネジメント論」(中央経済社, 2016年)</p>
履修上のポイント	<p>参考図書はサプライチェーンについて考える場合の参考にしてほしい            流通企業経営における問題点を幅広く考える必要があるレポート課題に取り組むためには、提示している教材を読むだけでは不十分であり、独自に書籍・論文などを探し、問題を深堀する必要がある。            追加的な参考資料については、自らの問題意識を明確にしたうえで、担当教員と相談しつつ絞り込んでいってほしい</p>
レポート課題1	<p>サプライチェーンの構成要素の一員である流通企業はどのように行動すべきか(5000字程度)            留意点：サプライチェーンは、製造業から消費者までの商品のつながりである。効率的なサプライチェーンを実現するために、各経済主体が担う役割を整理するとともに、現在、サプライチェーンにおいて起こっている変化を捉えて、望ましい流通企業の行動を示すことが求められる。</p>
レポート課題2	<p>情報処理及びネットワーク技術の革新により、流通企業が活用できるツールが大きく変化している。今後の社会変化の中で流通企業はどのように対処していくべきだと考えるか、あなたの考えを示しなさい(5000字程度)            留意点：流通産業では最先端の情報技術の活用に取り組んでいる。インターネットを利用した製販配連携や、人工知能を利活用した販売戦略、在庫管理など、流通企業が利用するツールの変化を調べ上げたうえで、流通企業経営に重要な視点を示すことが求められる。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をする 教材に基づく学修①（21世紀のマーケティングの定義）
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し認識を共有する 教材に基づく学修②（マーケティング戦略とマーケティング計画の立案）
第3回	教材に基づく学修③（情報収集と環境調査）
第4回	教材に基づく学修④（マーケティング・リサーチの実行と需要予測）
第5回	教材に基づく学修⑤（顧客価値，顧客満足，顧客ロイヤルティの創造）
第6回	「学修の進捗状況」を教員と共有する 教材に基づく学修⑥（消費者市場の分析）
第7回	教材に基づく学修⑦（ビジネス市場の分析）
第8回	教材に基づく学修⑧（市場セグメントとターゲットの明確化）
第9回	教材に基づく学修⑨（ブランド・エクイティの創出）
第10回	教材に基づく学修⑩（ブランド・ポジショニングの設定）
第11回	教材に基づく学修⑪（競争への対処）
第12回	レポート課題1・2について考察した内容をまとめ，初稿を提出する
第13回	レポート課題1・2に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	教材に基づく学修⑫（製品戦略の立案）
第2回	教材に基づく学修⑬（サービスの設計とマネジメント）
第3回	教材に基づく学修⑭（価格設定戦略と価格プログラムの策定）
第4回	教材に基づく学修⑮（バリュー・ネットワークおよびチャネルの設計と管理）
第5回	教材に基づく学修⑯（小売業，卸売業，ロジスティクスのマネジメント）
第6回	「学修の進捗状況」を教員と共有する 教材に基づく学修⑰（統合型マーケティング・コミュニケーションの設計とマネジメント）
第7回	教材に基づく学修⑱（マス・コミュニケーションのマネジメント：広告，販売促進，イベント，パブリック・リレーションズ）
第8回	教材に基づく学修⑲（人的コミュニケーションの管理：ダイレクト・マーケティングと人的販売）
第9回	教材に基づく学修⑳（新製品の開発）
第10回	教材に基づく学修㉑（グローバル市場への進出）
第11回	教材に基づく学修㉒（ホリスティック・マーケティング組織のマネジメント）
第12回	レポート課題1・2について考察した内容をまとめ，初稿を提出する
第13回	レポート課題1・2に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	ファミリービジネス論特殊研究	担当者	シナト テルオ 階戸 照雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

令和4年度以前の入学者は履修不可

【科目概要】

目的	<p>本科目では、ファミリー企業のビジネス・経営につき、海外の豊富な具体的な企業ケース・スタディも交えて、考察してゆくことで、以下の能力を習得することを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 ファミリー企業経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために必要な経営上の応用的な知識を修得することを一般目標とする。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 企業を巡るファミリービジネス論は当然として、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。</li> <li>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</li> <li>教材の学修：20時間</li> <li>レポート執筆：10時間</li> <li>レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導等を含む)：15時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。</li> <li>manaba folioの掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題1 初稿提出期限：6月末 ★最終稿提出期限=学事暦前期締切日 ・レポート課題2 初稿提出期限：8月末 ★最終稿提出期限=学事暦前期締切日</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題1 初稿提出期限：10月末 ★最終稿提出期限=学事暦後期締切日 ・レポート課題2 初稿提出期限：12月中旬 ★最終稿提出期限=学事暦後期締切日</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする(論旨明確さ、独創性、文章表現の妥当性、引用の適切性等)。	80%
	観察記録	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。	20%
履修者への要望	<p>・初稿の提出は締め切りを遵守すること。</p> <p>・必須ではないものの、博士前期(修士)課程までの段階で、ファミリービジネス関連科目を履修していることが望ましいのは言うまでもない。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠雄編著、階戸照雄他著            教材名：『日本のファミリービジネス—その永続性を探る—』（中央経済社、2016年）            ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税</p> <p>前期は基本的なところではあるが、ファミリー企業の現状と課題につき、理解を深めることに重点を置く。このため、データ・理論面だけではなく、実際のファミリー企業像が得られるよう、具体的な企業についての知識を得るように努める。</p>
参考図書	<p>ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版、1999年）            ISBN:978-4-94-774630-6 2,800円+税            全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社、2004年）            ISBN:978-4-49-255514-9 1,800円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファミリー企業の定義からその実態までの数々のデータを基に、理解を深める。</li> <li>2. 一般的な企業とファミリー企業の経営課題の違いを十分理解する。</li> <li>3. 一般的な企業と比較して、ファミリー企業のファミリーガバナンスの問題点を考える。</li> </ol>
レポート課題1	<p>ファミリー企業における事業承継の重要性につき述べよ。            留意点：1社以上の具体例を説明すること。日本企業と海外企業の事例があれば、好ましい。</p> <p>留意点：『日本のファミリービジネス』は旧版、新版（未刊）どちらを購入してもレポート課題には影響ない。</p>
レポート課題2	<p>ファミリー企業における、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の必要性につき、説明せよ。            留意点：1社以上の具体例を含めること。日本企業と海外企業の事例があれば、好ましい。            留意点：『日本のファミリービジネス』は旧版、新版（未刊）どちらを購入してもレポート課題には影響ない。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：ランデル・カーロック、ジョン・ワード（訳者）階戸照雄            教材名：『ファミリービジネス 最良の法則』（ファーストプレス社、2015年）            ISBN:978-4-90-433681-6 3,800円+税</p> <p>後期は、前期で習得した知識をベースにして、基本教材（『ファミリービジネス 最良の法則』）で広範囲に扱われている、ファミリーガバナンスを中心に知識を深めていく。本書は優れた実務的な経験を踏まえた理論書であり、深い理解が望まれる。できれば、原書の通読をお願いしたい。</p>
参考図書	<p>階戸照雄、加藤孝治編著『ファミリーガバナンス』（中央経済社、2020年）            ISBN:978-4-502-34471-8 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欧米のファミリー企業の現状につき、深い知識を得る。</li> <li>2. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。</li> <li>3. 公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。</li> <li>4. ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。</li> </ol>
レポート課題1	<p>コーポレートガバナンスとの違いを明確にしつつ、ファミリーガバナンスを論述しなさい。</p> <p>留意点：1社以上の具体例を含めること。</p>
レポート課題2	<p>ファミリービジネスにおける3円モデルとPPPモデルを比較しながら、論述しなさい。</p> <p>留意点：PPPモデルの優位性につき明示すること。</p>

## 基本教材1

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第1章）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第2章）を行う
第3回	教材に基づく学修③（第3章）
第4回	教材に基づく学修④（第4章）
第5回	教材に基づく学修⑤（第5章）
第6回	教材に基づく学修⑥（第6章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材に基づく学修⑦（第7章）
第8回	教材に基づく学修⑧（第8章）
第9回	教材に基づく学修⑨（第9章）
第10回	教材に基づく学修⑩（終章）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材2

第1回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜファミリービジネスは悪戦苦闘しているのか）を行う
第2回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（ファミリー計画と事業計画の策定を同時進行させる）を行う
第3回	教材に基づく学修③（ファミリーの価値観と企業文化）
第4回	教材に基づく学修④（ファミリーとビジネスのビジョン：ファミリーのコミットメントを探る）
第5回	教材に基づく学修⑤（ファミリーの戦略：ファミリーの参加に関するプランニング）
第6回	教材に基づく学修⑥（ビジネス戦略：会社の将来の計画）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第7回	教材に基づく学修⑦（ファミリービジネスを成功へと導くための投資）
第8回	教材に基づく学修⑧（ファミリービジネス・ガバナンスと取締役会の役割）
第9回	教材に基づく学修⑨（ファミリーガバナンス：ファミリー集会とファミリー協定）
第10回	教材に基づく学修⑩（木を植える人々）
第11回	レポート課題1・レポート課題2について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	レポート課題1に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	レポート課題2に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	レポート課題1・レポート課題2の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	レポート課題1・レポート課題2に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	比較文学特殊研究	担当者	アキクサ シュンイチロウ 秋草 俊一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------	-----	------------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

### 【科目概要】

目的	比較文学の後継ディシプリンとして注目をあびている「世界文学」について考えるうえで重要な最新の英語の学術書を前期後期一冊ずつ一年かけて精読していく。世界文学を考えるうえで概念モデルとしての「エコロジー」がどこまで有効なのか、先行するカザノヴァ・モレットティの経済モデルと比較して考えてみてほしい。 以上の書籍の通読、レポートの作成を通じて、専門的な英文読解能力、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力を身に付けることを目指す。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 英語の学術書を精読し、内容について批判的に議論できるようになること。 英語を含む参考文献・引用・注の体裁をととのえた学術論文の執筆形式に習熟すること。 【行動目標(SBOs)】 英語の学術書を数か月で通読できる語学力の獲得。内容を適切に要約・説明しうる翻訳力の獲得。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間      レポート執筆：15時間 レポート推敲(教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システムのLMSを用いる。そのうえで面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し、ディスカッション、課題レポートについての報告をおこなうことが推奨される。		
スケジュール	前期：6月10日までに教材1のレポート課題(1)初稿を提出。 7月10日までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 8月10日までに教材1のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材1のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10月10日までに教材2のレポート課題(1)初稿を提出。 11月10日までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 12月10日までに教材2のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材2のレポート課題(2)最終稿を提出。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。	80%
	観察記録	メール、LMS、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。	20%
履修者への要望	前期はやや大変と思われるかもしれないが、英語で学術文献を精読できることは博士論文執筆の最低条件であるので、一年をかけて二冊の学術書を読むことで英語読解力を養成してほしい。		

### 【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：Ben Hutchinson 教材名：Comparative Literature: A Very Short Introduction, Oxford UP. 2018. ISBN-10: 9780198807278  著者はケント大学の教授。本書は有名なオックスフォード大学出版会のA Very Short Introductionのシリーズで、比較文学について概略を紹介したもの。世界文学や翻訳研究にも触れられている。
参考図書	パスカル・カザノヴァ『世界文学空間』(藤原書店, 2002) レベッカ・ウォルコヴィッツ『生まれつき翻訳』(松籟社, 2022)
履修上のポイント	比較文学という学問についての概略を学んでほしい。当然ながら引用されている文献や関連文献にも目を通すと理解が深まるので推奨したい。
レポート課題1	Comparative Literature: A Very Short Introductionから三章を選んで内容を要約し、自分の意見を述べなさい(4500字以上)。  留意点：つまりアカデミックな書評を書くというもので、当然ながら先行の書評が参考になるはずである。学術論文の体裁を守ること。三章といえども、もちろん全体を読んだうえで選ぶこと。
レポート課題2	Comparative Literature: A Very Short Introductionでの議論・アプローチを参考にして、自分で文学作品を一つ以上とりあげて論じなさい(6000字以上)。  留意点：扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわない。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：Alexander Beecroft 教材名：An Ecology of World Literature. Verso. 2015. ISBN-10: 1781685738  著者はサウスカロライナ大学の教員で、古代ギリシアと古代中国双方の専門家である。世界文学を「エコロジー（生態系）」の比喩で読み解こうとした最新の学術書。
参考図書	フランコ・モレッティ『遠読——<世界文学システム>への挑戦 新装版』（みすず書房，2024）
履修上のポイント	世界文学を経済や歴史のシステムの観点から定義したフランコ・モレッティ『遠読』と教材を比べて読んでみる。ほかにも当然ながら引用されている文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦してほしい。
レポート課題1	An Ecology of World Literatureから三章を選んで内容を要約し、批判的に自分の意見を述べなさい（5000字以上）。 留意点：つまりアカデミックな書評を書くというもので、当然ながら先行の書評が参考になるはずである。三章といえども、もちろん全体を読んだうえで選ぶこと。
レポート課題2	An Ecology of World Literatureでの議論を参考にして、自分で文学作品を一つ以上とりあげて論じなさい（6000字以上）。 留意点：扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわない（ただし前期とは違う作品を選ぶこと）。

### 基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1のIntroduction
第2回	教材の学修：基本教材1の1章
第3回	教材の学修：基本教材1の2章～3章
第4回	教材の学修：基本教材1の4章
第5回	教材の学修：基本教材1の5章
第6回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポート対象作品の選定と読解
第11回	レポート対象作品の先行研究のまとめ
第12回	レポート対象作品について教員とディスカッション
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2のIntroduction
第2回	教材の学修：基本教材2の1章～2章の学修
第3回	教材の学修：基本教材2の2章～3章の学修
第4回	教材の学修：基本教材2の4章～5章の学修
第5回	教材の学修：基本教材2の5章～6章の学修
第6回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポート対象作品の選定と読解
第11回	レポート対象作品の先行研究のまとめ
第12回	レポート対象作品について教員とディスカッション
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	翻訳論特殊研究	担当者	アキクサ シュンイチロウ 秋草 俊一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	---------	-----	------------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>文芸思想のひとつである翻訳研究を行う上で必要な知識をえるための文献を読む授業。前期は代表的な翻訳研究者ローレンス・ヴェヌティのモノグラフを、後期は、「新しい比較文学」を標榜する学術書を精読していく。Translationは翻訳について考える上で必要なトピックが一通り触れられており、参考になる。また、アプターの著作は概念モデルとしての「翻訳」が、さまざまな事象を考えるうえでどこまで有効なのか、手がかかりになる。後期にかんしては受講者の関心、進捗状況に応じて柔軟に教材を選定することも考えたい。</p> <p>以上の書籍の通読、レポートの作成を通じて、専門的な英文読解能力、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 英語の学術書を精読し、内容について批判的に議論できるようになること。 英語を含む参考文献・引用・注の体裁をととのえた学術論文の執筆形式に習熟すること。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 英語の学術書を数か月で通読できる語学力の獲得。内容を適切に要約・説明しうる翻訳力の獲得。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間      レポート執筆：15時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システムのLMSを用いる。そのうえで面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し、ディスカッション、課題レポートについての報告をおこなうことが推奨される。</p>		
スケジュール	<p>前期：6月10日までに教材1のレポート課題(1)初稿を提出。 7月10日までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 8月10日までに教材1のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材1のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10月10日までに教材2のレポート課題(1)初稿を提出。 11月10日までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 12月10日までに教材2のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材2のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。	80%
	観察記録	メール、LMS、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。	20%
履修者への要望	<p>前期はやや大変と思われるかもしれないが、英語で学術文献を精読できることは博士論文執筆の最低条件であるので、一年をかけて二冊の学術書を読むことで英語読解力を養成してほしい。</p>		

【レポート課題】

<b>基本教材 1</b>	
教材の概要	<p>著者名：Lawrence Venuti 教材名：The Translator's Invisibility: A History of Translation, New York: Routledge, 2008. ISBN-10: 0415394538</p> <p>総ページ数は300頁ほどの、翻訳研究にとって有意義なモノグラフ。実例も豊富で、テーマ別に議論されており、推奨できる内容である。</p>
参考図書	<p>マシュー・レイノルズ『翻訳——訳すことのストラテジー』秋草俊一郎訳、白水社、2019年、2,300円＋税。ISBN-10: 4560096856 ローレンス・ヴェヌティ『翻訳のスキヤンダル』秋草俊一郎・柳田麻里訳、フィルムアート社、2022年、2,600円＋税。ISBN: 978-4-8459-2106-5。</p>
履修上のポイント	<p>当然ながら、引用されている文献、関連文献にも、余裕があれば目を通してほしい。どのような議論が前提とされているのかわからないと理解ができないことも多い。</p>
レポート課題1	<p>課題図書から、任意の章を三つ、要約しなさい（各1500字、合計4500字以上）。</p> <p>留意点：どの受講者がどの章を要約するかは、相談によって決定する。</p>
レポート課題2	<p>課題図書での議論を参考にして、自分で文学作品・芸術作品（映像作品などふくむ）を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい（6000字以上）。</p> <p>留意点：扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわない。</p>

**基本教材 2**

<b>教材の概要</b>	<p>著者名：Emily Apter                  教材名：Against World Literature: On the Politics of Untranslatability, New York: Verso, 2013.                  ISBN-10: 1844679705</p> <p>著者は「翻訳不可能性」をキーワードに、「世界文学」に対して批判的な態度をとっている。翻訳研究という立場からは、ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』のようなスタンダードな入門書とはかなり毛色が異なる内容である。</p>
<b>参考図書</b>	エミリー・アプター『翻訳地帯——新しい人文学の批評パラダイムにむけて』慶應義塾大学出版会，2018年。5, 500円＋税。ISBN-10: 4766425189
<b>履修上のポイント</b>	前記と同じ。
<b>レポート課題1</b>	課題図書のPart Oneの内容を要約しなさい（4000字以上）。もちろんPart Two以降も読むこと。 留意点：受講者が複数いる場合，Part Threeの要約を課すこともある。
<b>レポート課題2</b>	課題図書の議論を参考にして，自分で文学作品・芸術作品（映像作品などふくむ）を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい（6000字以上）。 留意点：扱う作品は日本語含め，どんな作品でもかまわないが，前期とは異なるものを選ぶこと。

**基本教材1**

<b>第1回</b>	教材の学修：基本教材1のIntroduction
<b>第2回</b>	教材の学修：基本教材 1 の1章～2章
<b>第3回</b>	教材の学修：基本教材 1 の3章～4章
<b>第4回</b>	教材の学修：基本教材 1 の5章～6章
<b>第5回</b>	教材の学修：基本教材 1 の7章
<b>第6回</b>	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
<b>第7回</b>	レポート課題1：初稿の作成
<b>第8回</b>	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
<b>第9回</b>	レポート課題1：最終稿の作成
<b>第10回</b>	レポート対象作品の選定と読解
<b>第11回</b>	レポート対象作品の先行研究のまとめ
<b>第12回</b>	レポート対象作品について教員とディスカッション
<b>第13回</b>	レポート課題2：初稿の作成
<b>第14回</b>	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
<b>第15回</b>	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2のIntroduction
第2回	教材の学修：基本教材2のPart1
第3回	教材の学修：基本教材2のPart2
第4回	教材の学修：基本教材2のPart3
第5回	教材の学修：基本教材2のPart4
第6回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポート対象作品の選定と読解
第11回	レポート対象作品の先行研究のまとめ
第12回	レポート対象作品について教員とディスカッション
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	アジア文化特殊研究	担当者	シミズ トオル 清水 享	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【旧カリ名】東アジア文化特殊研究

【科目概要】

目的	中国における文化人類学と歴史学の研究史について学ぶ。中国の文化人類学研究は漢族および「少数民族」についてその文化や社会を多角的に研究してきた。こうした中国の文化人類学研究のその蓄積と特徴について総合的に考察する。さらに長い歴史を持つとされる中国についての歴史学的な視点を振り返り、それを整理し、把握する。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 中国における文化人類学および歴史学の研究史を把握する。中国の文化、社会、歴史のさまざまな研究の蓄積とその展開について把握・理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 本科目を学修することを通じて、自ら学び、世界の現状を理解し、それを述べる力を身につけるとともに、自ら考えて、問題を発見し、その問題を解決し、省察力をもって、説明できるようにする。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 レポート1本あたり45時間(教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間、レポート推敲と最終稿完成15時間、教員の添削指導を含む)</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 テーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿など、段階的に担当者とやり取りを進めながらレポートを作成する。レポート1本につき教材学修に15時間、レポート執筆に15時間、教員の添削指導を含めたレポート添削に15時間をかけることを目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング→図書館等を利用し、参考文献を調査してレポートを作成する調査学習。基本教材の精読の上、自分の関心のあるテーマを選び、学習を深める。さらに関連文献を参照しながら、この関心のあるテーマに沿ってレポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期は基本教材1のレポート課題2編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 後期は基本教材2のレポート課題2編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 前後期ともに早めにテーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿についてできるだけ早めに担当者とやり取りをはじめ、初稿は前後期ともに提出期限の2週間前までに提出のこと。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材の理解、レポート課題選定および内容の妥当性を評価。	80%
	観察記録	レポート作成に向けての課題の取り組み方やその課題解決への積極性などを評価。	20%
履修者への要望	履修者は積極的に課題に取り組んでほしい。基本教材を精読することはもちろんのこと、基本教材以外の関連文献も、より多く参照し、精読した上でレポートを作成してほしい。このレポートをステップとして博士論文作成に取り組めるようにしてほしい。		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	<p>著者名：瀬川昌久、西沢晴彦編訳 教材名：『中国文化人類学リーディングス』（風響社、2006年） ISBN:4-89489-041-0 3,000円＋税</p> <p>本教材は中国における文化人類学研究で重要であると考えられている論考をまとめたものである。ラドクリフ=ブラウン、レイモンド・ファース、費孝通、マリノフスキー、フリードマン、スキナー、林耀華、エブリー、ワトソン、陳其南、ウォード、ハレルといった錚々とした先達の論考が掲載されている。</p>
参考図書	<p>末成道男編『中国文化人類学解題』（東京大学出版会、1995年） ISBN:978-4-13-056046-7 末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピーブルズの現在 01東アジア』（明石書店、2005年） ISBN:4-7503-2031-5 西澤治彦・河合洋尚編『フィールドワーク 中国という現場、人類学という実践』（風響社、2017年） ISBN:978-4-89489-242-2</p>
履修上のポイント	全体を精読し、さらに各論考を通読すること。中国における文化人類学の研究の動向や問題点を全体的に把握し、漢民族研究、「少数民族」研究などの研究史を考察すること。また各論考末に挙げられている参考文献も適宜参照して考察を進めてほしい。
レポート課題1	漢民族についての文化人類学研究史 留意点：中国における漢民族研究がどのように進められたか、その全体を振り返る。
レポート課題2	「少数民族」についての文化人類学研究史 留意点：中国における「少数民族」研究がどのように進められたか、その全体を振り返る。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：吉澤誠一郎監修、石川博樹[ほか]編著 教材名：『論点・東洋史学』（ミネルヴァ書房、2022年） ISBN:978-4-623-09217-8 3,600円+税
	本教材はアジアの歴史研究の概要について広くまとめ、その論点を指摘したものである。
参考図書	礪波 護、岸本美緒、杉山正明編『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会、2006年） ISBN:978-4-8158-0527-2 年一回発行される「〇〇年の歴史学界 回顧と展望」『史学雑誌』史学会
履修上のポイント	全体を通読し、アジア史における中国歴史研究の概要を知り、その上で履修者自身の関心がある箇所、あるいは履修者自身の研究に関わる部分を精読すること。そしてできるだけ多くの参考文献を参照しつつ、履修者自身の関心がある部分、あるいは履修者自身の研究に関わるものをテーマとして設定し、その研究史をまとめること。基本教材は広くアジア史全体を概観しているが、レポートのテーマは中国史あるいは他の東アジア史および東南アジア史あるいは中央アジア史に限定する。
レポート課題1	アジア史研究の動向と課題について(その1) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。
レポート課題2	アジア史研究の動向と課題について(その2) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。レポート課題1とは別にテーマを設定すること。

### 基本教材1

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の学修(序論を読み込む)
第3回	教材の学修(I～IIのうち、漢民族に関する部分を読み込む)
第4回	教材の学修(III～IVのうち、漢民族に関する部分を読み込む)
第5回	レポート課題1の作成(草稿)
第6回	レポート課題1の作成(初稿の完成)
第7回	レポート課題1の添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1の最終稿の作成
第9回	教材の学修(序論を再び読み込む)
第10回	教材の学修(I～IIのうち、少数民族に関する部分を再び読み込む)
第11回	教材の学修(III～IVのうち、少数民族に関する部分を再び読み込む)
第12回	レポート課題2の作成(草稿)
第13回	レポート課題2の作成(初稿の完成)
第14回	レポート課題2の添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2の最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第2回	教材の学修(はじめに、序説、Ⅰを読み込む)
第3回	教材の学修(Ⅱ～Ⅲを読み込む)
第4回	教材の学修(Ⅳ～Ⅴを読み込む)
第5回	レポート課題1の作成(草稿)
第6回	レポート課題1の作成(初稿の完成)
第7回	レポート課題1の添削指導に対しての修正稿の作成
第8回	レポート課題1の最終稿の作成
第9回	教材の学修(はじめに、序説、Ⅰを再び読み込む)
第10回	教材の学修(Ⅱ～Ⅲを再び読み込む)
第11回	教材の学修(Ⅳ～Ⅴおよび第Ⅱ部を再び読み込む)
第12回	レポート課題2の作成(草稿)
第13回	レポート課題2の作成(初稿の完成)
第14回	レポート課題2の添削指導に対しての修正稿の作成
第15回	レポート課題2の最終稿の作成

科目名	言語教育学特殊研究	担当者	ホサカ トシコ 保坂 敏子	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>グローバル化が進展し、世界的な人の移動が盛んになった現在、言語教育のあり方が問い直されている。本講義ではグローバル時代の言語教育の在り方をクリティカルな視点から検討する姿勢と、文化観や価値観の異なる相手と共生するための言語教育について提案できる能力の涵養を目的とする。具体的には、日本の英語教育に対するクリティカルな論考と日本語教育に対するクリティカルなアプローチ、さらには、ヨーロッパの言語教育が目指す方向性に触れることで、現在の言語教育に関する問題意識を深め、自分自身のフィールドの問題点を見出し、授業計画が立案できるようになることを目的とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 グローバルな視座に立った言語教育やその研究に必要な専門性(知識・技能・態度)を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化社会の教育に対するクリティカルな視座を理解する。</li> <li>・ヨーロッパで提唱されている市民性形成のための相互文化的能力を育む言語教育という視座を理解する。</li> <li>・それらの視座について、クリティカルに論考する。</li> <li>・自分自身の言語教育の現場について、クリティカルに検討し、改善点を考察する。</li> <li>・自分自身の教育現場に配慮して、目指すべき言語教育の方向と具体的なカリキュラム(案)・コース(案)を作成する</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 (自習)教材の熟読：15時間 (自習研究)参考文献の検索と熟読：10時間 (レポート作成)レポート作成・レポート推敲：15時間 (ディベート)掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス(受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動)：5時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を行う。</li> <li>・manaba folioの掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>・図書館、インターネットで自立的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1 締切：6月15日(初稿) 前期締切日(最終稿)</li> <li>・レポート課題2 締切：8月15日(初稿) 前期締切日(最終稿)</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1 締切：10月15日(初稿) 後期締切日(最終稿)</li> <li>・レポート課題2 締切：12月15日(初稿) 後期締切日(最終稿)</li> </ul>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	<p>論旨明確さ、内容の妥当性・独創性、構成・文章表現の妥当性、引用文献の適切性等</p> <p>★前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。</p> <p>★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。</p>	80%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。</li> <li>・初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。</li> <li>・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数(参考文献、注を除いたもの)を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：久保田竜子            教材名：『グローバル化社会と言語教育 クリティカルな視点から』            (くろしお出版, 2015) ISBN:978-4874246689 2,600円+税</p> <p>本書は、多様性社会における日本の英語教育をめぐる問題と現在の日本語・日本文化教育の問題について、クリティカルな視点から分析して論じるだけでなく、言語教育の方向性についても具体的に提言を行っている。筆者は、日本の英語教育と北米の日本語教育に関わってきた北米在住の応用言語学の専門家で、英語の論文を日本語に訳したものである。複数の教育環境で、複数の言語を教えてきた知見であり、語種に関わらず、グローバル時代の言語教育を再検討する刺激となる。</p>
参考図書	<p>佐藤慎司・高見智子・神吉宇一・熊谷由理 編            『未来を創ることばの教育をめざして 内容重視の批判的言語教育 (Critical Content-Based Instruction) の理論と実践』            (ココ出版, 2015) ISBN 978-4-904595-69-5 3,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>多様性社会における言語教育の問題について、英語教育、あるいは、日本語教育など一つの言語の問題としてではなく、多様な言語を視野に入れた、幅広い視点から検討すること。自分が従事する言語の教育と他の言語の問題と比較しながら、視野を広めた上で、自分のフィールドの問題についての論考を深めていただきたい。また、基本教材1で採り上げた問題以外についても理解を深めるため、参考図書にも触れていただきたい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1の中で著者が指摘した日本の英語教育や現在の日本語・日本文化の教育の問題点の中から3つ取り上げ、それぞれ筆者の主張をまとめたうえで、それらに対する自分の考えを論じること。(3,000字～4,000字)</p> <p>留意点：筆者のクリティカルな論考について、クリティカルに論じること。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1を参考に、自分が携わる言語教育のフィールド、あるいは、自分か今まで受けてきた言語教育の問題などを取り上げ、クリティカルな視点から論じること。(3,000字～4,000字)</p> <p>留意点：基本教材の章のタイトルを参考に、問題とするテーマを絞って、論を展開すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：マイケル・バイラム (著) 細川英雄 (監修) 山田悦子・古村由美子 (訳)            教材名：『相互文化的能力を育む外国語教育—グローバル時代の市民性形成をめざして—』            (大修館書店, 2015) ISBN: 978-4469245967 2,800円+税</p> <p>本書は、CEFRに代表されるヨーロッパの言語教育政策を牽引してきた重鎮バイラムが2008年に発表した”From Foreign Language Education to Intercultural Citizenship: Essays and Reflections”の全訳である。言語教育が、文化を含め市民性の形成、社会参加などの広い枠組みでとらえなおす必要性を主張するものである。言語教育の政治性についても明快に示している。CEFRを基に異文化間能力・相互文化的能力の育成を検討する際の基本的枠組みとして位置づけられる。</p>
参考図書	<p>・細川英雄・尾辻恵美・マルチェッラ・マリ奥特ティ (編集)            『市民性形成とことばの教育—母語・第二言語・外国語を超えて』            (くろしお出版, 2016) ISBN: 978-4874247051 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>筆者の「外国語教育はスキルの伝授で終わってはならない」という主張の理由や背景を、参考図書も参照しながら考えること。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2でバイラムが主張する「相互文化的市民性」教育の概要と意義について整理したうえで、2章、3章で指摘されている日本の英語教育の問題について自分の考えを論じなさい。(3,000字～4,000字)</p> <p>留意点：「相互文化的市民性」の育成を主張する背景など、誕生の背景や目的、具体的な方法など、要点をわかりやすくまとめること。</p>
レポート課題2	<p>基本教材2の論考を基に、「相互文化的市民性」のという観点から、自分が実践している言語教育のコースなど具体的な事例を振り返り、自分の考えを論じなさい。(3,000字～4,000字)</p> <p>留意点：基本教材2の示す「相互文化的市民性」の枠組に照らすこと。「相互文化的市民性」そのものについても、クリティカルな視点を持つこと。</p>

## 基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の1章～2章
第2回	教材の学修：基本教材1の3章～4章
第3回	教材の学修：基本教材1の5章～6章
第4回	教材の学修：基本教材1の7章～8章
第5回	レポート課題1：初稿の作成①
第6回	レポート課題1：初稿の作成②
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	教材の学修：基本教材1の1章～8章の振り返り
第11回	レポート課題2：初稿の作成①
第12回	レポート課題2：初稿の作成②
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の1章～2章
第2回	教材の学修：基本教材2の3章～4章
第3回	教材の学修：基本教材2の5章～6章
第4回	教材の学修：基本教材2の7章～8章
第5回	教材の学修：基本教材2の9章～10章
第6回	教材の学修：基本教材2の11章～12章
第7回	教材の学修：基本教材2の13章～14章
第8回	レポート課題1：初稿の作成
第9回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第10回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	言語学特殊研究	担当者	カワシマ マサシ 川嶋 正士	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	---------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

### 【科目概要】

目的	大学院博士後期課程における言語学の専門的な研究を行います。本講座では、英文法の包括的な専門書を共通の基底として、言語理論について、経験科学のと実践的英語教育の範疇において、学際的な側面から考察することを目的としています。		
到達目標	<b>【一般目標(GIO)】</b> 言語理論の方法論を、英語の言語事実の研究を通じ、実践的に学修することを目標とする。 <b>【行動目標(SBOs)】</b> ・英語の語法・意味について専門的知識を深める。 ・文を単位とした普遍的な言語理論に通底する統語的分析方法について理解できる。		
学修方略 (方法)	<b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> 教材と関連文献の学修 (15 時間) リポート課題初稿作成 (15 時間) リポート課題最終稿の完成 (15時間) 指導教員の添削や討論を含む ＊学修時間はリポート課題1 件あたりの目安時間 <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> ・manaba folio を通じて、リポート課題提出の討論などの協働学習を行う。 ・manaba folio を通じて教員とインタラクティブな学習を行う。 ・manabfolioの観察記録に基づき自身の学修を振り返る。 ・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。		
スケジュール	<前期> ・リポート課題 1 締切 6 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日) ・リポート課題 2 締切 8 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日) <後期> ・リポート課題 1 締切 11 月 15 日 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日) ・リポート課題 2 締切 12 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日)		
成績評価	種 別	評価基準	割合
	リポート	形式 (構成, スタイルの一貫性, 引用の仕方, 表現の簡素さと適切さ), 内容 (論旨展開と結論の提示の明快さ, 先行研究の参照度と獨創性, 課題把握の適切性) ＊後期のリポート課題2は最終試験として初稿で評価する。 ＊その他のリポートは、最終稿で評価する。	80%
	観察記録	討論への貢献, 指導教員の添削への対応など	20%
履修者への要望	・指導教員のコメントや討論のフィードバックを反映し、レポートを完成させてください。 ・先行研究や引用と新規な知見は明確に区別してください。 ・書式は、APAもしくはMLAの最新のマニュアルに準じてください。 ・受講生間で積極的に情報交換や議論を行ってください。		

### 【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名 : Randolph Quark, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik 教材名 : A Comprehensive Grammar of The English Language Pierson (Paperback : 1985年刊行のハードカバー版をお持ちの方は、再購入には及びません) 伝統文法の金字塔ともいえる名著。30年近く前に刊行されたが、いまだこの著を超える英文法書は見られない。各項目は、精密に記述され、時には言語理論を用いた合理的な分析も示される。特に、高等教育機関で英語学や言語学を講じようとする者には必携。
参考図書	Rondley Huddleston and Geoffrey K. Pullum著 The Cambridge Grammar of the English Language Cambridge University Press
履修上のポイント	教材の第1, 2章は、言語研究における文法の根本に関することなので、十分理解し、研究してください。
レポート課題1	第1章の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい (伝統文法や経験科学に基づく言語理論との対比を行ってください)。 英文法を通じ、言語学における文法を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせて考察してください。 留意点 : 少なくとも先行研究1点との対比を含めます。4,000~5,000字でまとめてください。
レポート課題2	第2章の概要をまとめ、研究対象とする項目について理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。 留意点 : 少なくとも先行研究1点との対比を含めます。4,000~5,000字でまとめてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：Randolf Quark, Sidney Greenbaum, Geofferey Leech and Jan Svartvik 教材名：A Comprehensive Grammar of The English Language Pierson (Paperback：1985年刊行のハードカバー版をお持ちの方は、再購入には及びません)  伝統文法の金字塔ともいえる名著。30年近く前に刊行されたが、いまだこの著を超える英文法書は見られない。各項目は、精密に記述され、時には言語理論を用いた合理的な分析も示される。特に、高等教育機関で英語学や言語学を講じようとする者には必携。
参考図書	Rondley Huddleston and Geofferey K. Pullum著 The Cambridge Grammar of the English Language Cambridge University Press
履修上のポイント	教材の第10章は、文構造の根本に関する事なので、十分理解し、研究してください。
レポート課題1	第10章（10.1-10.33）の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい（伝統文法や経験科学に基づく言語理論との対比を行ってください）。 英文法を通じ、言語学における文法を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせて考察してください。 留意点：少なくとも先行研究1点との対比を含めます。4,000~5,000字でまとめてください。
レポート課題2	第10章（10.34-10.70）の概要をまとめ、研究対象とする項目について理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。  留意点：少なくとも先行研究1点との対比を含めます。4,000~5,000字でまとめてください。

### 基本教材1

第1回	教材の第1章（1.1-1.18）を読み、言語研究と文法について考える
第2回	教材の第1章（1.19-1.42）を読み、英語の特色や変異について考える
第3回	教材の第1章を振り返り、レポート課題1の構想を練る
第4回	教材の第1章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題1の下書きをする
第5回	レポート課題1の初稿を執筆する
第6回	レポート課題1の初稿を推敲し、提出する
第7回	教材の第2章（2.1-2.24）を読み、文の要素と節構造について考える
第8回	教材の第2章（2.25-2.62）を読み、句、語類、文の基本様式について考える
第9回	レポート課題1の添削指導をもとに最終稿を作成する
第10回	教材の第2章を振り返り、レポート2の構想を練る
第11回	教材の第2章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題2について下書きする
第12回	レポート課題2の初稿を執筆する
第13回	レポート課題2の初稿を推敲し、提出する
第14回	第1章から第2章でレポート課題1と2について参照し、考察した個所を振り返る
第15回	レポート課題2の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する

## 基本教材2

第1回	教材の第10章（10. 1-10. 17）を読み，節とその機能について考える
第2回	教材の第10章（10. 18-10. 33）を読み，節の意味役割について考える
第3回	教材の第10章（10. 1-10. 33）を振り返り，問題意識を持った個所を研究する
第4回	教材の第10章（10. 1-10. 33）を範囲とし，レポート課題1の下書きをする
第5回	レポート課題1の初稿を執筆する
第6回	レポート課題1の初稿を推敲し，提出する
第7回	教材の第10章（10. 34-10. 45）を読み，主語と動詞の一致について考える
第8回	教材の第10章（10. 46-10. 53）を読み，一致全般や意味制限について考える
第9回	レポート課題1の添削指導をもとに最終稿を作成する
第10回	教材の第10章（10. 54-10. 70）を読み，各動詞の特徴について考える
第11回	教材の第10章（10. 34-10. 70）のうち，問題意識を持った個所を研究し，レポート課題2の下書きをする
第12回	レポート課題2の初稿を執筆する
第13回	レポート課題2の初稿を推敲し，提出する
第14回	第10章でレポート課題1と2について参照し，考察した個所を振り返る
第15回	レポート課題2の添削指導をもとに最終稿を作成し，提出する

科目名	異文化間コミュニケーション論特殊研究	担当者	オガワ ナオト 小川 直人	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	--------------------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>異文化間コミュニケーション研究において、文化普遍主義に基づく文化間比較は、1980年代から2000年代にかけて多く行われ、異文化間に存在する様々なコミュニケーションの相違を明らかにした。それらの相違を理解する際に使用された理論的枠組みの多くは、G・ホフステードの研究によって抽出されたものである。</p> <p>そこで本講座では、G・ホフステードによって提示された理論的枠組みについて認識し考察するとともに、彼の考える異文化間コミュニケーション研究についても理解を深めることを目的とする。</p> <p>この目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく、高い倫理観を習得するとともに、倫理的及び批評的な思考能力を始め、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 文化背景の異なる人たちとのコミュニケーションにおいて必要となる、様々な知識を獲得するとともに、応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 異文化間に存在するコミュニケーションの相違について、理論的に説明することができる。</li> <li>- 異文化間コミュニケーションの効果性について、理論的に評価することができる。</li> <li>- 異文化間コミュニケーション能力について理論的に説明し、評価することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 (自習) 教材の熟読、OERによる自律的学習：15時間 (自主研究) 参考文献の検索と批判的リーディング：10時間 (レポート作成) レポートの作成：20時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>- manaba folioを通じて、教員からインタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>- 図書館、インターネットで文献資料を検索し、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; レポート課題1 締切：6月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 締切：8月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p> <p>&lt;後期&gt; レポート課題1 締切：10月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 締切：12月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	要約の正確さ、要約の構成、文章表現の妥当性、考察の独創性、引用の適切性、論旨の明確さ、注のつけ方の適切さ	80%
	観察記録	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート添削への対応	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 要約問題については、課題の章を熟読し、定めた文字数に、バランスよくまとめること。</li> <li>- 考察では、次の2点が重要となる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 要約した章に用いられている専門用語を用いて、考察を展開する。</li> <li>2) テーマに関する知識と経験を基に考察する。経験が無い場合、経験するとしたらどうするかなど、考察する。</li> </ol> </li> <li>- 教科書・推薦書以外の文献からの引用も勧める。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：G. ホフステード・G. J. ホフステード・M. ミンコフ（岩井八郎・岩井紀子 訳） 教材名：『多文化世界：違いを学び未来への道を探る』（有斐閣，2013年） ISBN：978-4-641-17389-7 3,900円＋税
	文化間比較研究で明らかになった文化間に存在するコミュニケーションの相違を説明することのできる「国民文化の次元」を提示したことで有名な研究に新たな視点を加えた『Cultures and Organizations: Software of the Mind (3rd ed.)』の翻訳書である。
参考図書	H. C. トリアンデイス『個人主義と集団主義：二つのレンズを通して読み解く文化』（北大路書房，2002年） ISBN：4-7628-2241-8 3,600円＋税
履修上のポイント	教科書の中の国民文化の次元に関する4つの章を扱う。日本人の特性を軸に、それぞれの次元に基づいて、異文化の人々のコミュニケーション行動に対する理解へと繋げていくことが重要となる。そういった観点からレポートを作成し、自身の異文化間コミュニケーション能力の向上へと繋げる。また、授業で扱わない章についてもよく読んで理解しておくこと。
レポート課題1	要約：教科書の第3章、第4章の2つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら2つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。
レポート課題2	要約：教科書の第5章、第6章の2つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら2つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：G. ホフステード・G. J. ホフステード・M. ミンコフ（岩井八郎・岩井紀子 訳） 教材名：『多文化世界：違いを学び未来への道を探る』（有斐閣，2013年） ISBN：978-4-641-17389-7 3,900円＋税
	文化間比較研究で明らかになった文化間に存在するコミュニケーションの相違を説明することのできる「国民文化の次元」を提示したことで有名な研究に新たな視点を加えた『Cultures and Organizations: Software of the Mind (3rd ed.)』の翻訳書である。
参考図書	西田司『不確実性の理論家たち：バーガーとグディカンスト』（八朔社，2024年） ISBN：978-4-86014-116-5 1,800円＋税
履修上のポイント	教科書の中の国民文化の次元に関する2つの章と、多文化共生に関する2つの章を扱う。日本人の特性を軸に、それぞれの次元に基づいて、異文化の人々のコミュニケーション行動に対する理解へと繋げていくことが重要となる。そういった観点からレポートを作成し、自身の異文化間コミュニケーション能力の向上へと繋げる。また、授業で扱わない章についてもよく読んで理解しておくこと。
レポート課題1	要約：教科書の第7章、第8章の2つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら2つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。
レポート課題2	要約：教科書の第11章、第12章の2つの章を読んで、その内容を3,000字程度で要約する。
	考察：これら2つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000字程度で考察する。 留意点：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。

**基本教材1**

第1回	教材の学修：基本教材1の第3章
第2回	教材の学修：基本教材1の第4章
第3回	参考図書の学修
第4回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第5回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材1の第5章
第10回	教材の学修：基本教材1の第6章
第11回	図書館での検索資料の学修
第12回	図書館での検索資料の学修
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

**基本教材2**

第1回	教材の学修：基本教材2の第7章
第2回	教材の学修：基本教材2の第8章
第3回	参考図書の学修
第4回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第5回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第6回	レポート課題1：初稿の作成
第7回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	教材の学修：基本教材2の第11章
第10回	教材の学修：基本教材2の第12章
第11回	図書館での検索資料の学修
第12回	図書館での検索資料の学修
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	第二言語習得論特殊研究	担当者	コヤマギ カオル 小柳 かおる	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-------------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>第二言語習得論は、日本語教育をはじめとする外国語教育に関わる研究者や教員にとって非常に重要な分野である。本講義では特に教室指導による第二言語習得 (Instructed Second Language Acquisition: ISLA) という教室学習者を念頭に置いた分野の基本的な理論の枠組みや、教室指導のタイプや学習者要因 (言語適性や動機づけ) が習得に及ぼす影響について調べた先行研究にあたり、研究動向を広く学ぶ。そして、それらを基に、自分の分野に理論を応用できる能力を養うことを目的とする。また、ISLAの研究を行うための分析方法を学び、自身の研究に応用できる能力を身につける。</p> <p>以上の目的を達成することにより、言語教育における問題点の把握と解決策を提案する能力、論理的に考察する能力、新しい課題に挑戦する能力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 第二言語習得に関する理論を理解し、研究に応用できる能力を身につける。 習得研究に必要な研究・分析方法を理解し、応用できる能力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二言語習得の基本的な理論と最新の研究動向を説明できる。</li> <li>・第二言語習得の理論を自分の研究に応用できる。</li> <li>・先行研究における未解決の問題を見つけ、新たな研究課題を導き出すことができる。</li> <li>・研究目的に沿った適切な研究方法を選択することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 (自習) 教材と関連文献を熟読する。15時間 (自主研究) レポート課題のため、先行研究を検討する。10時間 (レポート作成) レポートを執筆する。10時間 (ディベート) 他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5時間 (ディベート) 他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>・manaba folioを通じて、教員とインタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・manaba folioを利用し、ポートフォリオに基づき自身の学習を振り返る。</li> <li>・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1 締切：6月15日 (初稿) (最終稿提出期限：学事歴で定められた日)</li> <li>・レポート課題2 締切：8月15日 (初稿) (最終稿提出期限：学事歴で定められた日)</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1 締切：10月15日 (初稿) (最終稿提出期限：学事歴で定められた日)</li> <li>・レポート課題2 締切：12月15日 (初稿) (最終稿提出期限：学事歴で定められた日)</li> </ul>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	形式 (構成、引用のし方、適切な表現)、内容 (論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性)	80%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスを元にレポートを完成させることが求められる。</li> <li>・無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：小柳かおる・峯布由紀            教材名：『認知的アプローチから見た第二言語習得』（くろしお出版，2016）            ISBN：978-4-87424-683-2 3,700円＋税</p> <p>教室指導による第二言語習得（Instructed Second Language Acquisition：ISLA）の中心的理論である認知的アプローチによる研究動向をまとめたものである。海外で行われた日本語以外の言語の研究成果も含まれており、この分野の最新の知識を得ることができる。</p>
参考図書	<p>小柳かおる『第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと』（くろしお出版，2020）            ISBN：978-4-87424-831-7 1,800円＋税            小柳かおる『改訂版 日本語教師のための新しい言語習得概論』（スリーエーネットワーク，2021）            ISBN：978-4-88319-883-2 1,600円＋税</p>
履修上のポイント	<p>小柳かおる『第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと』（くろしお出版，2020）            ISBN：978-4-87424-831-7 1,800円＋税            小柳かおる『改訂版 日本語教師のための新しい言語習得概論』（スリーエーネットワーク，2021）            ISBN：978-4-88319-883-2 1,600円＋税</p>
レポート課題1	<p>基本教材の第4章で紹介されているような教育的介入（例 リキャスト、強要アウトプット）について一つ取り上げ、なぜそのような介入が習得に重要だと思うか、また、そのような教育的介入を今後も研究課題として追求する意義について、自身の考えや展望を述べる。（3000字～4000字）</p> <p>留意点：専門が日本語教育でない場合は、他の言語についてでもかまわない。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1の内容を参考に、テーマを選び、先行研究の問題の所在を明らかにして、自身の研究課題（research questions）を導き出す。（3000字～4000字）</p> <p>留意点：教育的介入のテクニックを選択し、研究の背景や先行研究の論点を論じること。必要であれば、実験の対象者、教育的介入の対象となる言語形式について論じてよい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：小柳かおる・向山陽子            教材名：『第二言語習得の普遍性と個別性』（くろしお出版，2018）            ISBN978-4-87424-762-4 3,500円＋税</p> <p>第二言語習得には普遍的な学習メカニズムが存在するが、一方で、学習者の言語能力の到達度には個人差が大きい。それは、学習に持ち込まれる学習者の特性（認知能力や学習意欲など）が異なるからだと考えられる。本書では、習得への影響が最も大きいとされる言語適性と動機づけの研究が紹介されている。また、習得分野の研究者が提唱するタスクベースの教授法及びタスクに関わる習得研究についても学ぶことができる。</p>
参考図書	<p>小柳かおる『改訂版 日本語教師のための新しい言語習得概論』（スリーエーネットワーク，2021）            ISBN：978-4-88319-883-2 1,600円＋税            島田めぐみ・野口裕之『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房，2017）            ISBN：978-4-89476-862-8 1,600円＋税</p>
履修上のポイント	<p>前期で学んだことに加え、個人差の問題や教育現場との接点になる教授法との関連を扱い、ISLAについてさらなる理解を深めることを目指している。できれば英語で書かれた国際学術誌の論文を読み、最先端の研究にも触れてほしい。参考図書の『外国語教育研究ハンドブック』は量的研究の分析方法を紹介しているので、論文を読みながら参照してほしい。</p> <p>ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、ISLAに関する理解を深める。</p>
レポート課題1	<p>基本教材の第1章から第3章、さらに中でも特に興味を持ったテーマについて関連する論文を読み、認知的な学習メカニズムや言語適性としての認知的な基本的能力について、考えたことをまとめる。（3000字～4000字）</p> <p>留意点：専門が日本語教育でない場合は、他の言語についてでもかまわない。</p>
レポート課題2	<p>ISLAの分野で関心のあるテーマを取り上げ、実験計画を立案する。研究の背景、研究課題（仮説）、参加者、研究方法などをまとめること。（3000字～4000字）</p> <p>留意点：ISLAの分野であれば、前期に扱った授業内容（教育的介入の効果）からテーマを選択してもかまわない。</p>

## 基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1章, 第2章
第2回	教材の学修：基本教材1の第4章
第3回	関連論文の熟読
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の第3章
第9回	教材の学修：基本教材1の第5章
第10回	関連論文の熟読
第11回	問題の所在の検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・リスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材の第1章, 第2章
第2回	教材の学修：基本教材の第3章
第3回	関連論文の熟読
第4回	レポート課題1：初稿の作成
第5回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第6回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第7回	レポート課題1：最終稿の作成
第8回	教材の学修：基本教材1の第4章
第9回	教材の学修：基本教材1の第5章
第10回	研究計画の立案
第11回	研究計画の立案
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・リスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	言語教育方法論特殊研究	担当者	シマダ メグミ 島田 めぐみ	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-------------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

令和4年度以前の入学者は履修不可

【科目概要】

目的	2016年から2018年の間に発行された『日本語教育』に掲載された論文のうち約4割において統計手法が用いられている。自分自身の研究で統計手法を用いなくても、統計手法が用いられた先行研究を理解するために統計手法の知識は重要である。一方、SCATやM-GTAなどの質的分析法を用いた研究も盛んに行われており、これらの手法に関する知識も求められる。そこで、本科目では、言語教育学における方法論を学ぶ。前期は、統計手法について学び、さらに、実際のデータを用いて分析を行い、報告文書を書く。後期は、質的研究について学んだのち、統計手法あるいは質的分析の手法を用いた研究をデザインすることを学ぶ。以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	<b>【一般目標(GIO)】</b> 言語教育学の方法論の基礎となる理論、理念に関わる知識を理解し、応用する力を修得する。 <b>【行動目標(SBOs)】</b> ・基本的な統計手法および質的分析について説明することができる。 ・統計手法・質的分析手法を用いた研究事例を正しい理解に基づいて説明することができる。 ・データを分析し、結果を正しく解釈し、報告文書を作成することができる。 ・目的に即した分析手法を選択し、その手法を用いた研究をデザインすることができる。		
学修方略 (方法)	<b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> (自習) 動画教材を視聴し、教材と関連文献を熟読する。15時間 (自主研究) 課題に関し、事例研究を実施する。10時間 (レポート作成) レポートを執筆する。10時間 (ディベート) 他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5時間 (ディベート) 他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> ・manaba folio上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 ・manaba folioを通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folioを利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 ・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題1 締切：6月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日) ・レポート課題2 締切：8月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日) <後期> ・レポート課題1 締切：10月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日) ・レポート課題2 締切：12月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日)		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	受講者に配布する評価ルーブリックに基づく。評価ルーブリックでは、レポートごとに、「考え」「つながり」「応用」の段階を設けている。また、いずれのレポートについても、論旨の明快さ、課題把握の適切性も評価の観点に加える。 *後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは、最終稿にて評価する。	80%
	観察記録	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等	20%
履修者への要望	・教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 ・無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：島田めぐみ・野口裕之            教材名：『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房）            ISBN: 978-4-89476-862-8 1,600円+税</p> <p>日本語教育専攻の大学院生を主な対象者として書かれた統計分析の入門書である。日本語教育分野における研究例を取り上げているが、日本語教育分野に限定した内容ではない。数式を使わずに説明しているため、統計初心者にとっても理解しやすい。</p>
参考図書	<p>中野博幸・田中敏『フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析』（技術評論社）            ISBN: 978-4-7741-5019-2 1,880円+税            島田めぐみ・野口裕之『統計で転ばぬ先の杖』（ひつじ書房）            ISBN: 978-4-8234-1028-4 1,400円+税</p>
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計に馴染みのない履修者にとって書籍だけで学ぶのは難しいかもしれない。そのため、基本教材の内容を講義する動画教材数本を提供するので、必要に応じ視聴をすることを勧める。</li> <li>・レポート2では、無料で提供されている統計ソフトjs-STARを用いて、実際に計算した上で、適切に報告文書を作成する。js-STARの使い方、結果の解釈の仕方について、動画教材を提供するので、必ず視聴してから課題に取り組んでほしい。</li> <li>・動画教材へのアクセス方法は、授業開始後、manaba folioを通して知らせる。</li> <li>・ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。</li> </ul>
レポート課題1	<p>統計分析（相関分析以外）が用いられた研究論文を2編読み、十分理解した上で要約する。その際、教材で学んだことと関連づけて解説すること。また、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。2編は、同じ手法を用いているもの、あるいは異なる手法だが同じテーマのもの、など何らかの共通項があるものを選ぶこと。（3,000字～4,000字）            留意点：言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文のURLあるいはPDFファイルも提出すること。</p>
レポート課題2	<p>相関分析、t検定、カイ二乗検定それぞれについて、統計ソフト（js-STAR）で計算し、その報告文書を書く。相関分析、t検定、カイ二乗検定それぞれのデータは与えられたものを用いる。            留意点：計算に用いるデータは、manaba folioを通して提示する。また、文字数の制限は設定しないので、適切な情報量を判断すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：八木真奈美・中山亜紀子・中井好男            教材名：『質的言語教育研究を考えよう』（ひつじ書房）            ISBN: 978-4-8234-1042-0 2,200円+税</p> <p>言語教育における質的研究の手法に関する書籍である。ナラティブ・インクワイアリ、エスノグラフィ、ライフストーリー、M-GTA、ケーススタディーの5つの方法論の研究例を紹介されている。実際に筆者の経験に基づき、具体的なプロセスが示されている。</p>
参考図書	<p>大谷尚『質的研究の考え方—研究方法論からSCATによる分析まで』（名古屋大学出版会）            ISBN: 978-4-8158-0944-7 3,500円+税            木下康仁『定本 M-GTA—実践の理論化をめざす質的研究方法論』（医学書院）            ISBN: 978-4-260-04284-0 3,200円+税            佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践—』（新曜社）            ISBN: 978-4-8234-1028-4 1,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>質的研究にはさまざまな方法がある。実際にその手法を用いるためには、まずは、提唱者による文献を読むことが必要である。参考図書に一部あがるが、SCATについては『質的研究の考え方—研究方法論からSCATによる分析まで』、M-GTAについては『定本 M-GTA—実践の理論化をめざす質的研究方法論』を読んでほしい。</p>
レポート課題1	<p>質的分析の手法を用いた研究論文を1編あるいは2編読み、十分理解した上で要約する。その際、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000字～4,000字）            留意点：言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文のURLあるいはPDFファイルも提出すること。</p>
レポート課題2	<p>自分の興味のあるテーマを設定し、研究目的、データ収集の方法、分析の方法を含めた実験計画を立てる。統計分析を用いたものでも質的分析を用いたものでも構わない。（3,000字～4,000字）            留意点：言語教育学あるいは言語学に関するテーマとすること。</p>

## 基本教材1

第1回	教材の学修：基本教材1の第1章～第3章，動画教材の視聴
第2回	教材の学修：基本教材1の第4章～第6章，動画教材の視聴
第3回	教材の学修：基本教材1の第7章～第8章，動画教材の視聴
第4回	論文の講読
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	動画教材の視聴
第10回	動画教材の視聴
第11回	データの計算
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	教材の学修：基本教材2の第1章～第4章
第2回	教材の学修：基本教材2の第5章～第7章
第3回	教材の学修：基本教材2の第8章～補章
第4回	論文の講読
第5回	レポート課題1：初稿の作成
第6回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第7回	レポート課題1：ピア・レスポンス
第8回	レポート課題1：最終稿の作成
第9回	実験計画の検討
第10回	実験計画の検討
第11回	実験計画の検討
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：ピア・レスポンス
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	社会哲学特殊研究	担当者	イシハマ ヒロミチ 石浜 弘道	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

### 【科目概要】

目的	今日の激変する社会の構造を分析し、そのあるべき姿を探求することは私たちの喫緊の課題であろう。そこで学修者にとって今日何が現代社会の根本的な問題なのか、どうしたらそれを自分自身の力で解決することができるのか、日本人として何ができるのか。これらを社会哲学のテキストを読み解くことを通して、理論的に考察し、その社会倫理的な実践に向かう視点を養う。		
到達目標	<b>【一般目標(GIO)】</b> 学修者が今日の社会の諸問題を哲学者の指摘を参考にしつつ深く理解することで、多様な国家や民族そして文化の存在価値を踏まえて共生というあるべき社会の姿を論理的に修得する。 <b>【行動目標(SBOs)】</b> 学修者は社会のあるべき姿を理解する過程で、まず既存の社会が抱える諸問題を客観的に記述する(知識・解釈)。そのために世界の多くの文化、民族の多様な価値を哲学的に深く考察し、そこから現実に行っている諸問題を列挙し、さらに解決を指摘する(知識・問題解決)。		
学修方略(方法)	<b>【学修方略(LS)と学修時間】</b> ・学修者は今日の社会の諸問題に意識的に取り組み、テキストにあるように哲学者が論究する問題について、それらが具体的にどのようなものかを自ら調べ、さらにその問題を掘り下げ解決を目指して行動に移すことができる。たとえば、マス・メディア等でそれらの問題を把握することにもテキスト理解と同様の時間を使う(自習)【15時間/レポート1本】。 ・さらに自分の近辺でも同様の問題があるかどうか調べる。可能であれば自らもその問題の解決に参加(自主研究)【10時間/レポート1本】。 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上(レポート作成)【10時間/レポート1本】。 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安(ディベート)【10時間/レポート1本】。  <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> ・manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しレポートを作成する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題 初稿は7月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：教材2のレポート課題 初稿は11月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	テキストを正しく理解し、課題どおりのレポートとしての的確に書かれていること	80%
	観察記録	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること	20%
履修者への要望	レポートの課題に関連したテキストの部分のみでなく全体を通してじっくりと読み理解すること、さらにそこで述べられている諸問題を身近な問題として具体的にに取り組むことが望ましい。		

### 【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	著者名：小坂国継、他編 教材名：『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房、2012年） ISBN 978-4-623-06110-5 C3010 3,500円+税  近現代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円+税 加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社、2001年）ISBN:4-7907-0876-4 2,000円+税 さらに哲学者について詳しく知るためには、清水書院<人と思想シリーズ>の各哲学者の入門書が適切。
履修上のポイント	テキストは内容上2部構成となっている。その1部は近現代の哲学の流れがコンパクトに紹介されているので、自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、上記の参考図書で確認することが思想内容を的確に理解するうえで望ましい。
レポート課題1	テキストの第1部から自分が興味があると思う章を選び、要約しなさい。 留意点：選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること
レポート課題2	テキストの第1部から自分が興味があると思う章を選び、要約しなさい。(ただし課題1と異なるもの) 留意点：選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること

**基本教材 2**

<b>教材の概要</b>	<p>著者名：小坂国継、他編                  教材名：『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房，2012年）                  ISBN 978-4-623-06110-5 C3010 3,500円+税</p> <p>近現代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。</p>
<b>参考図書</b>	<p>ロールズ『正義論』紀伊國屋書店、小松奈美子『医療倫理の扉』北樹出版、中谷常二『ビジネス倫理学』晃洋書房、小坂国継『環境倫理学ノート』ミネルヴァ書房、高橋準『ジェンダー学への道案内』北樹出版、金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、渡辺学『ユングにおける心と体験世界』春秋社、坂本百大『科学哲学』北樹出版</p>
<b>履修上のポイント</b>	<p>テキストは内容上2部構成となっているので、ここでは第2部の中で自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている思想家の原典（上記参考図書）に触れることによって、課題を深く理解することが望ましい。</p>
<b>レポート課題1</b>	<p>テキストの第2部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。</p> <p>留意点：図書館、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でその問題を自ら調べ、批判的に考察することが望ましい。</p>
<b>レポート課題2</b>	<p>テキストの第2部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい（ただし課題1と異なるもの）。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。</p> <p>留意点：図書館、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でその問題を自ら調べ、批判的に考察することが望ましい。</p>

**基本教材1**

<b>第1回</b>	教材の学修と、本科目の課題の理解
<b>第2回</b>	課題として取り上げる題材の検討
<b>第3回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（生の哲学から実存主義の流れ）
<b>第4回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（現象学と解釈学）
<b>第5回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（プラグマティズムとホワイトヘッドの哲学）
<b>第6回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（ウィトゲンシュタインと構造主義）
<b>第7回</b>	関連する文献の検索とその内容の学修
<b>第8回</b>	近現代の社会思想の歴史的推移とその諸問題に関する哲学的考察
<b>第9回</b>	レポート課題1：初稿の作成
<b>第10回</b>	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
<b>第11回</b>	レポート課題1：最終稿の作成
<b>第12回</b>	レポート課題2：初稿の作成
<b>第13回</b>	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
<b>第14回</b>	レポート課題2：最終稿の作成
<b>第15回</b>	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材2の学修；ロールズの正義論
第4回	基本教材2の学修；医療、ビジネス、環境の倫理
第5回	基本教材2の学修；ジェンダー問題と心の科学、現代の技術論
第6回	上記の考察を踏まえて、今日最も重要と思う社会問題についての学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	関連する社会上の諸問題についての哲学的観点からの考察
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	宗教哲学特殊研究	担当者	イシハマ ヒロミチ 石浜 弘道	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	従来、宗教は私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし今日、既成宗教が過激となることで狂信や迷信に陥り、あるいは為政者の支配の道具となり暴走し悲惨な事件を起こしている。そこで本科目では宗教思想の歴史を把握すること、そして宗教の本質的な在り方、そのあるべき姿とは何かを問うことを第一の目的とし、さらにその具体的な事例としてキリスト教『聖書』に見られるイエスの足跡を解説することで、彼が伝えたかった真の宗教の世界をその原点に立ち返って考えたい。さらにその視点をもとに、今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、今日の宗教的諸問題を客観的に判断し、そのあるべき姿を社会に発信できる能力を養う。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 学修者はキリスト教を主とした宗教思想の理解を通して、既存の宗教から不可欠に生じる諸問題を正確に把握し、あるべき宗教の姿と多様な宗教それぞれの固有の存在価値を論理的に理解する。 【行動目標(SBOs)】 学修者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に説明できるようにする(知識・解釈)。さらに宗教本質論と同時に宗教多元論の立場をも考察し、宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実の諸問題を指摘し、さらにその解決を列挙できるようにする(知識・問題解決)。		
学修方略(方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 ・学修者は宗教の本質への考察を踏まえて、宗教の具体的な例としてのキリスト教の学修を通して宗教のあるべき姿を学ぶ(自習)【15時間/レポート1本】。 ・さらにその本質の逸脱から生じる今日の諸事件(宗教過激派やカルト系宗教など)を分析することにも時間を割き、宗教の特性とその今日的意味を幅広く学ぶことに心がける(自主研究)【10時間/レポート1本】。 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上(レポート作成)【10時間/レポート1本】。 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安(ディベート)【10時間/レポート1本】。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しレポートを作成する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題 初稿は7月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：教材2のレポート課題 初稿は11月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	テキストを正しく理解し、課題ごとのレポートとしての的確に書かれていること	80%
	観察記録	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること	20%
履修者への要望	哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的面においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえで有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。		

【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	著者名：ジャン・グロンダン 教材名：『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ、2015年）ISBN:10-4560509999 1,296円＋税 本書は宗教の本質を伝統的な理性と信仰という側面から、かつ古代ギリシャから現代までの歴史的な考察により、キリスト教的背景を持ちながらも宗教にありがちな一面的な見方を脱却し、宗教の普遍性と多元論的な見方の可能性を内容とする。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店、1986年）ISBN:4-00-000314-3 1,900円＋税 波多野精一『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫、2012年）ISBN:978-4-00-331453-1 1,260円＋税
履修上のポイント	哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。またテキストについてもできれば哲学的な背景が必要なので、上記のような哲学史の入門書で基礎知識を得ておくとう理解が容易となる。
レポート課題1	テキスト第1章から第3章を読み、宗教の本質とは何かを述べなさい。 留意点：上記の参考図書(ヒック、波多野)と比較することによって、テキストの立ち位置や内容がより明確となる。
レポート課題2	①テキスト4、5章を要約し哲学と宗教の関わりを述べなさい。 ②またはテキスト6、7章を要約し、どのように宗教が哲学に移行していったかを述べなさい。 (①②どちらか一方のみ選択) 留意点：思想的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより深く理解できる。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：日本聖書協会編            教材名：『新約聖書・新共同訳 NI240』（日本聖書協会、2013年）            ISBN:978-4-8202-3201-8 500円+税            その他の版、出版社でも可</p> <p>『聖書』はキリスト教を知る上での最良の書物であると同時に西洋思想に大きな影響を与えた基本的な文献である。そこには「福音書」という形でイエスつまりキリスト教の教祖の足跡が描かれ、彼の信仰的生き方を表す数々の言葉が述べられている。それに続く多くの書簡には使徒たちによってイエスのキリスト（救い主）としての信仰上の意味が語られている。</p>
参考図書	<p>石浜弘道『芸術と宗教』（北樹出版、2012年）ISBN:978-4-7793-0347-0 1,600円+税            ニーチェ『反キリスト者』（ニーチェ全集14、ちくま学芸文庫2021年）            ISBN:978-4-480-08084-4 1,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>『聖書』を学ぶことはキリスト教を知る上でもっとも大切なことであるが、その信仰的な内容の特殊性と普遍性を批判的に吟味することは他の諸宗教の意味を考える場合に参考となる。そのためには、宗教がしばしば陥る教条主義的な面を克服する多元論的な発想を踏まえ、かつ個々の宗教の普遍性の追求と批判的考察が必要であるという点を視野にいれ考えること。</p>
レポート課題1	<p>『新約聖書』に含まれている四福音書の中でイエスが語った神の愛・アガペー（弱者・罪人への愛・ルカ福音書15章、隣人愛・マルコ福音書12章、無制約的愛・ルカ福音書6章）はどのようなものであるかを述べなさい。その際、聖書の引用には章、節を明記すること。</p> <p>留意点：イエスは神の愛のそれぞれを譬えを通して人々に語っている点に注意。</p>
レポート課題2	<p>『新約聖書』に含まれているパウロの書簡「ローマの信徒への手紙」3章～6章に述べられているキリスト教の主要なテーマであるの贖罪思想について、その内容を、罪と信仰と神の愛をキーワードとして、聖書の箇所を引用しながら説明しなさい。その際、聖書の引用には必ず章、節を明記すること。</p> <p>留意点：可能であれば参考図書のニーチェ『反キリスト者』（特に38～42節、45～47節51節、58節）を参考に、パウロの神学思想の問題点をも考察に加えることで理解が深まる。</p>

#### 基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材（宗教の本質とその普遍性）の検討
第3回	基本教材1の学修；「宗教の本質についての概念的考察」
第4回	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（宗教の本質についての歴史的考察）
第5回	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（宗教と哲学との関係の考察）
第6回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	宗教の歴史的推移とそのあるべき姿に関する学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材2の学修；『聖書』を通してのキリスト教に関する全般的考察
第4回	基本教材2の学修；「新約聖書・福音書」からイエスのアガペーとは何かを学修
第5回	基本教材2の学修；「新約聖書・パウロ書簡」からパウロの歴史的功績を理解
第6回	基本教材2の学修；パウロ神学を中心とする贖罪思想を学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	関連するキリスト教の歴史的考察
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生命倫理特殊研究	担当者	イズミ リュウタロウ 泉 龍太郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------	-----	---------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	医療・ライフサイエンス分野の技術革新が著しい現代社会では、生命倫理に関し、これまでに無かったような新たな課題が生じている。このような課題に対し、どのような知見を基に、どのように考えれば良いか、という方法論を身に付ける。教材、参考図書を提示してあるが、必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。 課題としては、遺伝子改変技術とその人体応用、生体モニタリング技術とプライバシー、抗加齢・不老化の技術と死ぬ権利等を取り上げ、近未来の技術動向を踏まえて、これらの課題に対する考察を行う。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することを修得する。 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることを修得する。 【行動目標(SBOs)】 生命倫理に関する課題を取り上げ、その問題点を整理し最新の知見を基に、その課題に取り組む方向性を見いだす方法論を身に着ける。		
学修方略 (方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 学修方略(LS)：レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。 学修時間：レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学習時間を要するものとする。 ・教材の学修：20時間 ・レポート執筆：10時間 ・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピアレスポンスを含む）：15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲課程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者の質疑に対して応答し、その過程を受講者全員に公開する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題(1)の締切り：7月末（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限 レポート課題(2)の締切り：8月末（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限 後期：教材2のレポート課題(1)の締切り： 11月中旬（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限 レポート課題(2)の締切り：12月中旬（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、記述の論理性、自分自身の専門分野との関連性を評価する。	75%
	観察記録	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。	25%
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい（izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp）。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします。 4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 注：本レポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：ユヴァル・ノア・ハラリ 著（柴田裕之訳）            教材名：『ホモ・デウス -テクノロジーとサピエンスの未来-』            （河出書房新社[河出文庫；上・下2巻]、2022年）            上：ISBN: 978-4-309-46758-0 価格；900円+税            下：ISBN: 978-4-309-46759-7 価格；900円+税</p> <p>現在の技術動向と人類（＝ヒト）の行動特性を踏まえた上で、人類が今後、この技術動向を用いて、どのような方向に向かうのかを考察した書。</p>
参考図書	<p>ジュニアファー・ダウドナ他著 『人類が進化する未来』            （PHP新書 2021年） ISBN: 978-4-569-85073-3 価格；920円+税            生命倫理に関わる各種倫理指針（厚生労働省ホームページ等）  <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html</a></p>
履修上のポイント	<p>教材に記載された技術動向、及び現在の各種の倫理指針等を踏まえ、今後、生命倫理に関して生じる新たな課題に、どのように対処することが適切なのか、という観点から考察を行う。その際、人類（＝ヒト）としての行動特性も考慮すると同時に、レポート作成者の意見も明確にする。</p>
レポート課題1	<p>遺伝子改変技術を用いて、疾患の治療に限らず、人体機能の向上に用いようとする、いわゆる「human enhancement」について、その功罪に関し、対象となるヒト個人の観点から論じること（3,000～4,000字程度）。            留意点：総論的な観点だけでなく、具体的な人体機能、または遺伝子を取り上げること。</p>
レポート課題2	<p>課題1の「human enhancement」について、人間集団の観点から、賛成と反対の両方の立場を含めて論じること（3,000～4,000字程度）。            留意点：総論的な観点だけでなく、具体的な人体機能、または遺伝子を取り上げること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：課題1と同様            教材名：課題1と同様</p> <p>現在の技術動向と人類（＝ヒト）の行動特性を踏まえた上で、人類が今後、この技術動向を用いて、どのような方向に向かうのかを考察した書。</p>
参考図書	<p>ミチオ・カク 著（斉藤隆央訳） 『2100年の科学ライフ』            （NHK出版 2012） ISBN: 978-4-14-081572-4 価格：2,600円+税            デイビット・クリスチャン著（水谷淳・鍛原多恵子訳） 『未来とは何か』            （News Picks Publishing 2022） ISBN: 978-4-910063-25-6 価格：2,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>技術的進展の著しい医療・生命科学分野においては、これまで存在しなかった、新たな倫理的課題が生じることが十分に予想される。将来技術を予測し、それに対する対応策を考える。</p>
レポート課題1	<p>脳波等の生体信号の解析により、ヒトの思考内容を読み取り、また言語や既存の通信手段を介さず、相手に直接思考内容を伝えることが可能となる技術開発が進められており、近未来の実用化が目指されている。この技術が実用化された場合、プライバシーの問題を含め、倫理的に課題と考えられる点について論じること（3,000～4,000字程度）。            留意点：個人、及び人間集団の、両方の観点から論じること。</p>
レポート課題2	<p>教材、参考図書、あるいはそれ以外の文献・テキスト等で記載されている将来技術において、上記の課題以外で倫理的に問題になると考えられる案件を具体的に一つ取り上げ、それについて論じること（例：「不死化の技術と死ぬ権利」、「人間拡張技術」；3,000～4,000字程度）。            留意点：取り上げる案件とその倫理的課題については、現在の科学的知見に基づくこと。</p>

## 基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題についての理解
第2回	課題として取り上げる題材（疾患）の検討
第3回	基本教材1の学修：「生命倫理」について（定義）
第4回	基本教材1の学修：課題として取り上げた題材について（個体レベル）
第5回	基本教材1の学修：課題として取り上げた題材について（集団レベル）
第6回	関連する安楽死や脳死に関する事例の検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	ヒトの意識変容・行動変容に関する学習
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題についての理解
第2回	課題として取り上げる題材（疾患）の検討
第3回	基本教材2の学修：ヒト・生命体の細胞レベルでの学習
第4回	基本教材2の学修：ヒト・生命体の個体レベルでの学習
第5回	基本教材2の学修：ヒト・生命体の集団レベルでの学習
第6回	関連する日本における厚生労働省指針の検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修および海外との比較
第8回	関連する倫理指針および社会的な事例の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	近現代哲学特殊研究	担当者	オカヤマ ケイジ 岡山 敬二	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>本講座は、現代社会の形成を促してきた近代の世界観や価値観のなりたちや、その可能性と限界を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>大量破壊兵器や環境破壊、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、近現代の技術文明がもたらした様々な課題の意味を探り、これに適切に対応するために、人間や生命、自然や社会の営みのすべてを一律に、技術的に計算・予測可能な資材や人材と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすことができる。</p> <p>近代にはじまる技術文明の社会に生きている現代的状況を見据えながら、日常生活や科学知の自明な前提を超えて、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおすことができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 近代以降の世界観、価値観の自明性の問題点を根本から見つめなおすために、既成の価値や観点到に縛られずに様々な立場や視点を理解、想像し、それらを柔軟に比較・検討することができる哲学的な考察態度を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 i. 西洋の存在論をめぐる哲学的な問題を理解し説明することができる。(知識・解釈) ii. 西洋文明が招いた様々な問題の根拠を理解し説明することができる。(知識・想起) iii. 近現代社会の様々な問題の解決の可能性を多角的な視野から指摘することができる。(知識・問題解決) iv. 近現代社会の諸問題について、様々な立場や見解の比較・検討・考察を実施することができる。(技能) v. 様々な立場や見解を配慮し、自らの考えをうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションすることができる。(態度・習慣)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 ①基本教材及び参考文献の熟読(自習)【SBO i.】:【10時間以上/レポート1本】 ②レポートの課題に沿った、基本教材の読解と解釈(自主研究)【SBO ii.】:【10時間以上/レポート1本】 ③レポートの作成(レポート作成)【SBO iii.】:【10時間以上/レポート1本】 ④manaba folioを利用した複数回のレポート添削による教員とのディスカッションを重ねての、レポートの推敲と最終稿の完成(ディベート)【SBO iv.&amp; v.】:【15時間以上/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆく。</p>		
スケジュール	<p>最終稿の提出は、学事歴で定められた日を期限とする。これは、あくまで最終稿の期限であり、初稿は、その前に提出する。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。 前期(基本教材1):レポート課題1(7月15日)/レポート課題2(8月15日) 後期(基本教材2):レポート課題1(11月15日)/レポート課題2(12月15日)</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	教材の適切な読解・解釈を踏まえた、レポート課題に沿う論述・表現であるか。	70%
	観察記録	複数回の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているか。	30%
履修者への要望	<p>教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をしても、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないかを自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによって始めて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：マルティン・ハイデガー 教材名：『ニーチェⅠ 美と永劫回帰』（平凡社ライブラリー，1997年）
	プラトン以来、「存在とは何か」を問うてきた西洋哲学（形而上学）の存在論の歴史のなかにニーチェを位置づけなおし、ニーチェ哲学との対決を通して、伝統的な存在論の解体を試みる一連の講義の邦訳です。そのうち、「芸術としての力への意志」（第一講義）と「同じものの永遠なる回帰」（第二講義）の二つの講義が収録されています。ニーチェの芸術観や永遠回帰思想について存在論の歴史という観点から独自の解釈が施されてゆきます。
参考図書	木田元『ハイデガー』（岩波現代文庫，2001年） ISBN:978-4-00-600067-7 1,000円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993年） ISBN:978-4-00-430268-4 800円＋税 高田珠樹『ハイデガー 存在の歴史』（講談社学術文庫） ISBN: 978-4-06-292261-6 1,200円＋税
履修上のポイント	第一講義は、おもに、ニーチェ最晩年の遺稿『力への意志』にまとめられた断片を手がかりにして、ニーチェの哲学の再構築が試みられています。「力への意志」とその現象形態としての芸術との関係、ニーチェの芸術観が、存在論の歴史という観点から、どう解釈されてゆくのかをおさえてください。第二講義では、ニーチェの『悦ばしき知識』と『ツァラトゥストラはこう語った』を丹念に読みときながら、永遠回帰説に独自の解釈が施されてゆきます。とくに『ツァラトゥストラはこう語った』第三部の「幻影と謎」「恢復しつつある者」の解釈がこの講義の圧巻であり、おさえどころです。
レポート課題1	「力への意志」と芸術（美）との関係について、形而上学という点から論説してください。 留意点：ニーチェの芸術論に対して、カントの美学、ニーチェのワーグナー批判、プラトンの芸術論がどう位置づけなおされるのかをおさえてください。
レポート課題2	「同じものの永遠なる回帰」と「力への意志」の関係について、存在者の全体という点から論説してください。 留意点：本質存在と事実存在との区別がプラトン、アリストテレス以後の形而上学の歴史を規定するとはどういうことかをおさえてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：マルティン・ハイデガー 教材名：『ニーチェⅡ ヨーロッパのニヒリズム』（平凡社ライブラリー，1997年） ISBN:978-4-582-76184-9 1,553円＋税
	プラトン以来、「存在とは何か」を問うてきた西洋哲学の存在論の歴史のなかにニーチェを位置づけなおし、ニーチェ哲学との対決を通して、伝統的な存在論の解体を試みる一連の講義の邦訳です。そのうち、「認識としての力への意志」（第三講義）と「ヨーロッパのニヒリズム」（第四講義）の二つの講義が収録されています。ニーチェの真理論、ニヒリズム論について存在論の歴史という観点から独自の解釈が施されてゆきます。
参考図書	木田元『ハイデガー』（岩波現代文庫，2001年） ISBN:978-4-00-600067-7 1,000円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993年） ISBN:978-4-00-430268-4 800円＋税 高田珠樹『ハイデガー 存在の歴史』（講談社学術文庫） ISBN: 978-4-06-292261-6 1,200円＋税
履修上のポイント	第三講義では、ニーチェの真理論が論じられています。プラトン以来の伝統的な形而上学における真理観とニーチェの真理論がどういう意味で対比されているのかをおさえてください。第四講義では、ニーチェのニヒリズム論が集中的に解釈されています。プラトン以後の西洋哲学の全体がプラトニズムすなわちニヒリズムであり、それを克服するニーチェの試みもプラトニズムの枠内にあるとはどういうことかをおさえてください。
レポート課題1	真理が一つの価値、一種の誤謬であるとはどういうことかについて、「力への意志」という点から論説してください。 留意点：「力への意志」にとっての二つの価値の関係と相違、伝統的な真理観とニーチェの真理論との対比の意味をおさえてください。
レポート課題2	ニーチェ哲学が西洋形而上学の完成形態であるとはどういうことかについて、「ヨーロッパのニヒリズム」という点から論説してください。 留意点：プラトン以来のヨーロッパの哲学史が「存在忘却」の歴史であり、その歴史の終局にニーチェの哲学も位置づけられることの意味をおさえてください。

## 基本教材1

第1回	本科目の課題の理解
第2回	基本教材，参考図書に関連箇所の検討
第3回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第4回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の熟読
第5回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第6回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の熟読
第11回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第12回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

## 基本教材2

第1回	本科目の課題の理解
第2回	基本教材，参考図書に関連箇所の検討
第3回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第4回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の熟読
第5回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第6回	レポート課題1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第7回	レポート課題1：初稿の作成
第8回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第9回	レポート課題1：最終稿の作成
第10回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の熟読
第11回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第12回	レポート課題2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第13回	レポート課題2：初稿の作成
第14回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第15回	レポート課題2：最終稿の作成

科目名	社会思想史特殊研究	担当者	イシハマ ヒロミチ 石浜 弘道	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	--------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

### 【科目概要】

目的	千変万化する現代社会において、ともすれば自己のアイデンティティを失いがちな私たちの日々の営みの中で、そうした激変する社会の構造を分析し、そのあるべき社会の姿を探求することは喫緊の課題であろう。それはまた哲学が伝統的になしてきたことである。哲学はその時代時代の問題状況と組みつき、人類の普遍的な在るべき姿を示してきたのである。そこで学修者にとって今日何が現代社会の哲学上の根本問題なのか、どうしたらそれを自らの力で解決できるのか、日本人として歩むべき方向をどのように指導すべきなのか。これらを社会思想史の知的営みの中から考えることができるようにする。		
到達目標	【一般目標(GIO)】 学修者が今日の社会の諸問題をテキストの指摘を参考にしつつ正確に理解することで、多様な国家や民族そして文化の存在価値を踏まえて共生というあるべき社会の姿を論理的に習得する。 【行動目標(SBOs)】 学修者は社会のあるべき姿を理解する過程で、まず既存の社会が抱える諸問題を客観的に述べる(知識・解釈)。そのために世界の多くの文化、民族の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実に起こっている諸問題の説明し、さらに解決を指摘する(知識・問題解決)。		
学修方略(方法)	【学修方略(LS)と学修時間】 ・学修者は今日の社会の諸問題に意識的に取り組み、テキストにあるように哲学者が取り上げる問題について、それらが具体的にどのようなものを自ら調べ、さらにその問題を掘り下げ解決を目指して行動に移すことができる。たとえば、マス・メディア等でそれらの問題を把握することにもテキスト理解と同様の時間を使う(自習)【15時間/レポート1本】。 ・さらに自分の近辺でも同様の問題があるかどうか調べる。可能であれば自らもその問題の解決に参加(自主研究)【10時間/レポート1本】。 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上(レポート作成)【10時間/レポート1本】。 manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安(ディベート)【10時間/レポート1本】。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等进行分析・解説しレポートを作成する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題 初稿は7月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：教材2のレポート課題 初稿は11月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること	80%
	観察記録	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること	20%
履修者への要望	レポートの課題に関連したテキストの部分のみでなく全体を通してじっくりと読み理解すること、さらにそこで述べられている諸問題を身近な問題として具体的に取り組むことが望ましい。		

### 【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：山脇直司 教材名：『ヨーロッパ社会思想史』（東京大学出版会、1992年） ISBN:978-4-13-012051-7-C3010 2,200円+税  本書は社会思想の種々の潮流を通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかを概説的に述べている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから混迷する現代社会の解決に不可欠であるという哲学の意義を再発見することができる。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円+税 加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社、2001年）ISBN:4-7907-0876-4 2,000円+税
履修上のポイント	テキストを通読することにより、全体の流れの中で自分が選んだ課題の章とそこでの立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、新聞等身近なもろもろの資料から調べ、可能であればフィールドワークをすることが望ましい。
レポート課題1	テキスト全体から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点：選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること
レポート課題2	テキスト全体から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい(ただし課題1の章と重複しないこと)。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点：選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること

**基本教材 2**

<b>教材の概要</b>	著者名：イマヌエル・カント 教材名：『永遠平和のために/啓蒙とは何か』（光文社古典新訳文庫、2006年） ISBN:978-4-334-75108-1C0198 648円＋税
	『永遠平和のために』においてカントは永遠平和の実現に関し、6つの予備条項と確定条項として国家法、国際法、世界市民法において尊重されるべき原則を挙げ、今日にも通用する個人の人権や自由の尊厳、共和制、国際連合等の平和のための不可欠の条項を謳っている。 『啓蒙とは何か』 「啓蒙とは何か。それは人間が、みずから招いた未成年の状態から抜け出ることだ」とカントが述べている。つまり私たちが自ら所有する理性を使う勇気をもつことが人格としての人間の在り方であり、それは今日の脆弱な側面を有する大人社会において自律的人間とはいかにあるべきかを示すものとなっている。
<b>参考図書</b>	小牧治『カント』（清水書院、2000年） ISBN:978-4389410155 1,080円＋税 熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年） ISBN:4-00-431007-5 860円＋税
<b>履修上のポイント</b>	カントのテキストは難解なものが多いが、ここに取り上げたカントの二つの論文は、一般人を対象としたもので比較的読みやすい。しかしやはり哲学書なので熟読し理解することが必要である。そのためにも上記の参考図書は役立つ。
<b>レポート課題1</b>	『永遠平和のために』でカントが述べている「あるべき平和」とはどのようなものなのかを主に第1章を中心に述べなさい。またその内容が今日の日本の政治状況と比較して、日本はどうあるべきかについて述べなさい。  留意点：世界の平和に日本はどのように貢献できるかという観点から考えること。
<b>レポート課題2</b>	『啓蒙とは何か』でカントが述べている「啓蒙」つまり理性の自律とはどのようなことを述べなさい。 留意点：今日の情報過多な時代においてカントが言う「人間は自ら考えるべきである」ということが意味する批判的思考力を重視。

**基本教材1**

<b>第1回</b>	教材の学修と、本科目の課題の理解
<b>第2回</b>	課題として取り上げる題材の検討
<b>第3回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（社会思想の歴史を学修）
<b>第4回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（社会の諸問題に関する考察）
<b>第5回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（諸問題に対する哲学による把握）
<b>第6回</b>	基本教材1の学修；課題として取り上げた題材について（諸問題に対する哲学による解決）
<b>第7回</b>	関連する文献の検索とその内容の学修
<b>第8回</b>	社会思想の歴史的推移とその諸問題に関する学修
<b>第9回</b>	レポート課題1：初稿の作成
<b>第10回</b>	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
<b>第11回</b>	レポート課題1：最終稿の作成
<b>第12回</b>	レポート課題2：初稿の作成
<b>第13回</b>	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
<b>第14回</b>	レポート課題2：最終稿の作成
<b>第15回</b>	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材2の学修；カントの社会思想に関する全般的学修
第4回	基本教材2の学修；カントの教材の正確な理解
第5回	基本教材2の学修；カントの教材におけるあるべき平和のあり方
第6回	基本教材2の学修；カントの教材における啓蒙の意味
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	関連するカント思想の哲学史的観点からの考察
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	比較心理学特殊研究	担当者	マナベ カズチカ 眞邊 一近	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	比較心理学は、動物と動物、ヒトと動物を、様々な側面（生理、発達、知覚・感覚、認知、行動など）において比較検討し、系統発生の歴史、適応的意義、および行動の発達などを明らかにしようとする分野である。動物心理学や生物心理学とも呼ばれる。近年は、ヒトの「こころ」の進化に焦点を当てた比較認知科学が盛んになってきている。「比較心理学特殊研究」では、さまざまな動物を対象とした実験的研究を通して、ヒトと動物の共通性や相違について学び、ヒトの「こころ」の進化について考えることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>ヒトと動物の比較研究を学ぶ中で、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観、論理的かつ批判的な思考力、問題を発見し解決策を提案する力を身につける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>(1) 比較心理学の目的・方法論を学ぶ中で、情報収集、知識獲得の方法を修得する。(知識・問題解決、技能)</p> <p>(2) 実際の研究論文を読んで、その目的、方法、結果、研究の意義などが説明できるようになる。(知識・問題解決、技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。資料収集・テキストの学習に20時間、レポートをまとめるのに10時間、manaba-folioを使用したレポートの遂行作業に15時間、計45時間程度の準備学修時間を要します。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・manaba folioの掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。</li> <li>・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ10月末と11月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム（manaba）に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？	75%
	観察記録	1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？	25%
履修者への要望	<p>レポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、レポート提出のためにチェック項目にチェックを入れてから提出して下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：1) 渡邊茂 2) 眞邊一近            教材名：1) 『心の比較認知科学』（ミネルバ書房, 2000年）            ISBN:4-623-03179-9 2,857円 + 税            2) 『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社、2023年第3刷版）            ISBN: 978-4-7819-1441-1 2,600円+税</p> <p>第1図書、はヒトの心を動物研究から論ずることの意義と、ヒトの認知および言語の進化の道筋について論じた書である。第2図書は、比較心理学研究で用いられる行動実験の基礎である学習について概説した書である。</p>
参考図書	渡辺茂『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』（共立出版, 1997年） ISBN:978-4-32-002857-9 2,400円 + 税
履修上のポイント	前期は、比較心理学の考え方とその研究対象および研究方法についての学修を主眼とします。
レポート課題1	基本教材1-1の第1章（心の相対主義）と第4章（概念から理論へ）を要約し、自身が考えたことを述べよ。 留意点：字数配分は要約を75%、コメントを25%程度でまとめる。
レポート課題2	基本教材1-2の2章（2.11）、3章（3.14）、4章（4.14）に紹介されている動物精神物理学研究について研究方法が分かるように要約せよ。 留意点：各章の内容は動画で配信するので参考にしてください。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：1) 眞邊一近 2) Manabe, K., &amp; Dooling, R. J. (2020) 3) atanabe, S., Sakamoto, J., &amp; Wakita, M. (1995)            教材名：1) 『聴覚行動実験』（資料：manabaで配信）            2) A psychophysical approach to measuring the threshold for acoustic stimulation in zebrafish (Danio rerio). The Journal of the Acoustical Society of America, 147(2), 1059-1065.            3) Pigeons' discrimination of paintings by Monet and Picasso. Journal of the Experimental Analysis of Behavior, 63(2), 165-174.</p> <p>後期の第1教材と第2教材は、動物の聴覚研究についてのレビューと研究論文である。第3教材は、ハトがモネとピカソの絵を弁別できることを示した研究論文である（各教材は、PDFファイルでダウンロード可能）。</p>
参考図書	渡辺茂『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』（共立出版, 1997年） ISBN:978-4-32-002857-9 2,400円 + 税
履修上のポイント	後期は、比較研究の具体的な研究について学修します。
レポート課題1	第1教材で示されている動物の聴覚研究の方法について概説した後、第2教材の実験について目的・方法・結果についてまとめよ。 留意点：第2教材については、日本語の解説と実験動画を配信するので、参考にしてください。
レポート課題2	第3教材は、参考図書『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』の著者の論文である。ハトがモネとピカソの絵を弁別できることをどのように実証したのか？その方法を概説し、この研究の意義について自身が考えたことを述べよ。 留意点：目的・方法・結果が分かるようにまとめてください。参考図書も参考にしてください。

## 基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	基本教材1-1の学修：第1章について学修
第3回	基本教材1-1の学修：第4章について学修
第4回	基本教材1-2の学修：第1章から第4章まで動画を視聴し学修
第5回	基本教材1-2の学修：第1章から第2章の該当箇所を学修
第6回	基本教材1-2の学修：第3章から第4章の該当箇所を学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	レポート課題の構成、内容についての立案検討
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	基本教材2-1の学修：解説を読んで動物の聴覚研究の研究方法について理解する
第3回	基本教材2-2の学修：実験の手続き・方法を解説する
第4回	基本教材2-3の学修：実験の目的・方法・結果を理解する
第5回	基本教材2-3の学修：論文の考察を読んでこの研究の意義について考える
第6回	参考図書に関する学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	レポート課題の構成、内容についての立案検討
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	産業・組織心理学特殊研究	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	--------------	-----	----------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	本講義では、職場でコア人材となった従業員が行うリーダーシップ行動について、適切なリーダーシップ行動を行うには何が必要なのかについて心理学の視点から論考する。まず、職場のパフォーマンスを促進するリーダーシップとは何かについて概観し、次いで自己概念からリーダーの有り様を考察することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</li> <li>論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、悲観的な思考ができる。</li> <li>リーダーシップ・協働力：集団の中で連携しながら、協働者の力を引き出し、支援できる。</li> </ul> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーシップ研究の歴史的な変遷を理解し、組織における重要性を理解することができる。</li> <li>これまでどのようなリーダーシップが研究の対象となり、それらの特色が何かについて理解することができる。</li> <li>本講義で得られた知見と、自分が経験したり見聞きした職場での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。</li> <li>リーダーシップ行動に関する学術文献を検索し、自分の興味に近い学術論文を読んで、レポートに纏めることができる。</li> <li>どのようなリーダーシップをとれば組織のパフォーマンスが向上するのかについて、自分の興味に近い学術論文を読んでレポートに纏めることができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに20時間以上、学術論文の読み込みに10時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに15時間以上を目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの推敲過程において、Manaba folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</li> <li>オープンエデュケーション教材 (OER) を基本教材の補助として視聴する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題1の草稿は7月末、課題2は8月末を目処に提出できるように学習をすすめる。いずれの課題も9月中旬の課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題1の草稿は11月中旬、課題2は12月中旬を目処に提出できるように学習を進める。いずれの課題も2026年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、（原則的に）0点となります。 ・教材の引き写しは評価の対象外とします。	79%
	観察記録	・最終提出までにレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。	21%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。</li> <li>基本教材1および2のレポート課題（2）については、英語の翻訳能力を評価するわけではありませんが、日本語としてあまりに不自然なレポートは評価が低くなることは承知しておいてください。くれぐれも、かつて大学入試の受験英語でやった愚直な翻訳のような文章にはしないで下さい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：石川 淳 教材名：『リーダーシップの理論』（中央経済社，2022年） ISBN: 978-4-502-41861-7 2,800円＋税
	本書は，リーダーシップに関する理論を歴史的に回顧しながら解説したものである。本書の構成は，以下の通りである：1章；理論をしているかどうかで差がつく時代の到来，2章；120年の研究を一気に読む，3章；資質アプローチ研究，4章；行動アプローチ研究，5章；コンティンジェンシー・アプローチ研究，6章；変革型アプローチ研究，7章；その他のリーダーシップ研究，8章；リーダーシップ持論2.0へ
参考図書	・堀尾志保・館野泰一『これからのリーダーシップ』日本能率協会マネジメントセンター 2020年 ISBN: 978-4-8207-2784-2 2,000円＋税 ・金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所 2002年 ISBN: 4-569-61941-X 780円＋税
履修上のポイント	本文だけでなく引用文献のリストにどのような論文があるかチェックしてもらいたい。
レポート課題1	基本教材2について，2章から8章の各章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を平均800字を目安に要約し，全体についてのコメントを400字程度で行うこと（合計6,000字で収めること）。
レポート課題2	基本教材1の2章から8章の文中に引用されている文献のうち，自分の研究テーマと関連あるかもしくは興味関心のあるものを2編選び，各々の論文の内容を3,000字～4,000字でまとめること。 留意点：学術論文データベース（例えばEBSCO, Science Direct, J-Stage）を用いると，効率よく論文を探ることができる。ただし，データベースに登録されていない論文もある。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：田中堅一郎 教材名：『自己概念から考えるリーダーシップ リーダーの多面的自己概念と発達に関する心理学的研究』（風間書房，2021年） ISBN:978-4-7599-2395-7 5,000円＋税
	本書は，リーダーの自己概念とリーダー発達の視点から行われたリーダーシップ研究について心理学を中心に紹介し，著者が行なったリーダーの自己概念とリーダー発達についての研究を紹介したものである。序章，8章とエピソードから構成されており，各章のタイトルは以下の通り：1章「これまでのリーダーシップ論には何が足りなかったのか」，2章「リーダー発達の視点からリーダーシップを考える」，3章「リーダーの自己概念とリーダー発達」，4章「実証研究1：的確なリーダー行動に自己概念はどう影響するか」，5章「実証研究2：どうすれば多様な自己概念を獲得できるか」，6章「実証研究3：自己複雑性は変革型リーダーシップを促すか」，7章「リーダー発達研究の今後の展開」，8章「リーダー発達研究から学ぶべきこと」。
参考図書	・金井壽宏『仕事で「一皮むける」 関経連「一皮むけた経験」に学ぶ』光文社 2002年 ISBN: 4-334-03170-6 740円＋税 ・坂田桐子（編）『社会心理学におけるリーダーシップ研究のパースペクティブⅡ』ナカニシヤ出版 2017年 ISBN:978-4-7795-1215-5 4,500円＋税 ・渡辺豊彦『医療組織のトップ・マネジャー』白桃書房 2022年 ISBN: 978-4-561-26761-4 3,182円＋税
履修上のポイント	本文だけでなく引用文献のリストにどのような論文があるかチェックしてもらいたい。
レポート課題1	基本教材2について，2章から8章の各章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を平均800字を目安に要約し，全体についてのコメントを400字程度で行うこと（合計6,000字で収めること）。
レポート課題2	基本教材2の文中に引用されている論文について，自分の研究テーマと最も近い話題と思われるものを2編選び，各々の論文内容と自分の研究テーマとの関連性を（日本語で）3,000字～4,000字でまとめること。 留意点：学術論文データベース（例えば，EBSCO-host, Science Direct, J-Stage）を用いると，効率よく論文を探ることができる。ただし，データベースに登録されていない論文もある。

## 基本教材1

第1回	リーダーシップの理論を知ることの意義を学ぶ（第1章）
第2回	資質的アプローチ研究の推移・変遷を知る（第2章）
第3回	行動アプローチによる研究事例を学ぶ（第3章）
第4回	コンティンジェンシー・アプローチによるリーダーシップ理論（第4章）
第5回	変革型リーダーシップに関連する理論を学ぶ（第6章）
第6回	6章以外のリーダーシップ理論について学ぶ（第7章）
第7回	著者（石川淳）の考えるリーダーシップ論（第8章）
第8回	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第9回	レポート課題1の最終レポート作成
第10回	演習課題(1)：自分の研究テーマと基本教材2との関連を考え、引用文献リストの中から関連性の高い論文を検索する。
第11回	演習課題(2)：検索された論文のうち、最も関心のある論文を2編選択する。
第12回	演習課題(3)：選択された論文(1)を要約する
第13回	演習課題(4)：選択された論文(2)を要約する
第14回	レポート課題2の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

## 基本教材2

第1回	これまでのリーダーシップ研究と新たな研究基軸（序論，第1章）
第2回	リーダー発達から考えるリーダーシップ（第2章）
第3回	リーダーの自己概念とリーダー発達（第3章）
第4回	リーダーの自己概念が及ぼすリーダー行動（第4章）
第5回	どうすれば多様な自己概念を獲得できるか（第5章）
第6回	リーダーの自己複雑性は変革型リーダーシップを促進するか（第6章）
第7回	リーダー発達研究の今後の展開（第7章，第8章）
第8回	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第9回	レポート課題1の最終レポート作成
第10回	演習課題(1)：自分の研究テーマと基本教材1との関連を考え、引用文献リストの中から関連性の高い論文を検索する。
第11回	演習課題(2)：検索された論文のうち、最も関心のある論文を2編選択する。
第12回	演習課題(3)：選択された論文(1)を要約する
第13回	演習課題(4)：選択された論文(2)を要約する
第14回	レポート課題2の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する。
第15回	レポート課題2の最終レポート作成

科目名	行動分析学特殊研究	担当者	マナベ カズチカ 真邊 一近	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	-------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>ヒトの行動は、実体験による学習、観察による学習および教示による学習により変容します。この教示による学習による行動変容は、言語的に記述された行動随伴性に従う行動という意味で、ルール支配行動とも呼ばれ、ヒトに特有で効率的な学習を可能にしています。一方、誤ったルールの提示により誤った行動が形成・維持される場合もあります。行動分析学特殊研究では、自身の誤った言語的ルールにより形成された病理である鬱の形成メカニズムの基礎として注目されている「刺激等価性」の理解を目的とします。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>1) 「ルール支配行動」について説明できる。 2) 「刺激等価性」について説明できる。 3) 鬱のメカニズムとしての「刺激等価性」と「ルール支配行動」について説明できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>1) ルール支配行動の定義の習得 2) 刺激等価性の定義の習得 3) ルール支配行動の臨床的意義についての理解 4) 刺激等価性研究の発展史の理解 5) 刺激等価性研究における基礎と応用の関連の理解 6) 刺激等価性の臨床への展開の理解</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>まずは、課題に従って基本教材と参考書を読み、草稿を仕上げ提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。刺激等価性とルール支配行動の学習等において、資料収集・テキストの学習に20時間、レポートをまとめるのに10時間、manaba-folioを使用したレポートの遂行作業に15時間、計45時間程度の準備学修時間を要します。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。</li> <li>・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：ルール支配行動の定義と研究史</p> <p>1) ルール支配行動の定義の理解 2) ルール支配行動の臨床的意義の理解</p> <p>課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：刺激等価性研究とルール支配行動研究の現在における意義</p> <p>1) 刺激等価性の基礎研究と応用研究の理解 2) ルール支配行動の基礎研究と応用研究の理解</p> <p>課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) リポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「リポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？	75%
	観察記録	1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？	25%
履修者への要望	<p>行動分析学の基礎から臨床応用へのつながりを学び、応用においても基礎の学習が必要であることを理解するようにしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：眞邊一近 教材名：『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社、2023年第3刷版） ISBN: 978-4-7819-1441-1 2,600円+税
	行動分析学の基礎となる学習心理学の概説と、ルール支配行動による言語の病理について日本語で解説したテキストである。
参考図書	ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』（二瓶社、2008年） ISBN:978-4-93-119968-2 4,000円+税 アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社、2004年） ISBN: 78-4-93-119915-6
履修上のポイント	ルール支配行動の定義と臨床的意義を学ぶことを主眼として下さい。
レポート課題1	行動変容を引き起こす3種の「学習」についてまとめよ。 留意点：テキストに掲載されている内容に基づいて、行動変容を引き起こす3種の「経験」についての概説を書いて下さい。
レポート課題2	3種のルール支配行動とは何かについてまとめよ。 留意点：テキストに掲載されている内容に基づいて、ルール支配行動の定義についての概説を書いて下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：武藤崇 教材名：『アクセプタンス&コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』（ブレーン出版（株）、2006年） ISBN:978-4-89-242836-4 3,500円+税
	本書は、刺激等価性研究やルール支配行動研究から発展した関係フレーム理論に基づいて開発されたアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）についての解説書である。
参考図書	原井宏明『対人援助職のための認知・行動療法：マニュアルから抜け出したい臨床家の道具箱』（金剛出版、2010） ISBN-13:978-477241165 3,500円+税
履修上のポイント	臨床での実践が、基礎研究に基づいていることを学ぶことを主眼としてください。
レポート課題1	刺激等価性について概説せよ。 留意点：応用行動分析学は、基礎研究から得られた知見の上に成り立っています。基礎研究の重要性が分かるようにまとめて下さい。基礎研究についてまとめた以下の論文が参考になります。山崎由美子、(1999). 動物における刺激等価性. 動物心理学研究, 49(2), 107-137. <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/janip1990/49/2/49_2_107/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/janip1990/49/2/49_2_107/_pdf/-char/ja</a>
レポート課題2	アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）への展開について概説せよ。 留意点：関係フレーム理論におけるルール支配行動や刺激等価性の位置づけについて概説して下さい。

基本教材1

第1回	行動分析学の基礎の学修
第2回	行動変容を引き起こす3種の「経験」の学修
第3回	言語行動（マンド、タクト、イントラバーバル、エコーイックなど）の学修
第4回	ルール支配行動（トラッキング、反トラッキング）の学修
第5回	ルール支配行動（プライアンス、反プライアンス）の学修
第6回	ルール支配行動（オーギュメンティング）の学修
第7回	言行一致訓練の意義についての学修
第8回	ルール支配行動の臨床的意義についての学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	刺激等価性の定義の理解
第2回	刺激等価性研究の基礎研究（動物研究等）の学修
第3回	刺激等価性研究の応用研究（特殊教育等）の学修
第4回	関係フレーム理論における「相互的内包」、「複合的内包」、「刺激機能の変換」の学修
第5回	関係フレーム理論における「関係」の学修
第6回	アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）の学修
第7回	関係フレーム理論とルール支配行動研究および刺激等価性研究の関連性についての学修
第8回	行動分析学の基礎研究と応用研究の連関の理解
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	教育学特殊研究	担当者	キタノ アキオ 北野 秋男	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	---------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>本講義は、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、レポートの作成、掲示板でのディスカッション、ピア・レスポンス(受講者同士が、草稿段階で相互にレポートを点検し、推敲する協働活動を行う)、レポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものものとする。教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：15時間。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考えや意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論など行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。</p>		
スケジュール	<p>提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。通年30コマ分(半期15コマ分)の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。	80%
	観察記録	Zoomへの参加やメールのやりとりの回数・内容(観察記録)なども考慮します。	20%
履修者への要望	<p>指定した参考図書は「学力」や「学力テスト政策」に言及した研究である。一読してもらいたい。レポートは、タイトルを付けて章(節)に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。Zoomでの面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、zoomでの面接も行う。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：①北野秋男・下司 晶・小笠原喜康 ②北野秋男・上野昌之編著            教材名：①『現代学力テスト批判－実態調査・思想・認識論からのアプローチ』東信堂（2018年）2,700円＋税            ②『ニッポン、クライシス－マイノリティを排除しない社会へー』学事出版（2020年）3,000円＋税</p> <p>『現代学力テスト批判』は、現代の学力テスト政策を批判的に検討し、本来のあるべき「学力」や「学力テスト」のあり方を検証したものである。文部省「全国学力・学習状況調査」の問題点と「地方学力テスト」の歴史的構造を述べる内容である。『ニッポン、クライシス』は、学力格差に見られる新自由主義的な教育改革のあり様の背景や特徴を解説したものである。</p>
参考図書	<p>佐藤 仁・北野秋男編著『世界のテスト・ガバナンス－日本の学力テストの行く末を探る－』東信堂（2021年）、川口俊明「全国学力テストはなぜ失敗したのか」岩波書店（2020年）、志水宏吉『全国学力テスト』岩波ブックレット（2009年）</p>
履修上のポイント	<p>本書は、現代のわが国の学力テスト政策の問題点を国と地方自治体に区分して論じたものである。学力テスト政策は、「学力向上策」における有効なツールとして、世界的な潮流となっているが、同時に、その問題点や課題も多い。わが国の場合は、2007年から「全国・学力学習状況調査」が実施されたが、その調査方法や問題構成、情報公開の仕方、テスト結果の利活用などが問題視され、専門家の間でも議論になっている。学力のあり方を新自由主義的な側面からも検討する必要がある、その政策内容は日本社会のあり様を考える上でも喫緊の課題でもある。</p>
レポート課題1	<p>テキストの『現代学力テスト批判』の「第1部」（1章～3章）を読んで、わが国の国と地方自治体における学力テスト政策を批判的に検証する。また、合わせて、その歴史的な構造も理解すること。</p> <p>留意点：国と地方の学力テスト政策の特徴と問題点を指摘すること。</p>
レポート課題2	<p>テキストの『ニッポン、クライシス』の「第1章」を読んで、現代の学力格差に代表される格差社会の台頭と新自由主義の関連性を指摘すること。</p> <p>留意点：「新自由主義」の世界的な潮流を確認した上で、日本の「新自由主義」を検討すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：佐藤 仁・北野秋男編著            教材名：『世界のテスト・ガバナンス－日本の学力テストの行く末を探る－』東信堂（2021年）3,200円＋税</p> <p>本書は、世界のテスト・ガバナンスの傾向と課題を国別に検証したものであり、米国型の「ハイスティクス・テスト」を規準に、どのような学力テスト政策において効果や有効性が見られるかを、比較教育的な視点から考察している。対象となった国は、日本・米国以外に豪州・カナダ・ドイツ・韓国・ノルウェーである。日本以外の国を取り上げて、比較考察すること。</p>
参考図書	<p>北野秋男他編著『アメリカ教育改革の最前線』学術出版（2012年）、北野秋男編著『現代アメリカの教育アセスメント行政の展開』東信堂（2009年）、大桃敏行他『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房（2007年）</p>
履修上のポイント	<p>本書は、比較教育的な視点から世界のテスト政策を比較検証しているが、とりわけアメリカの教育改革と学力テスト政策の関係性を考察することが重要である。アメリカの学力テストを「ハイスティクス・テスト」と位置づければ、日本は「ロー・ステイクス」の国となる。まずは、日米の両国の学力テストのあり方の違い、及び特徴と問題点を指摘すること。次に、日米の学力テストのあり方をカナダ・豪州・ドイツ・韓国・ノルウェーなどの国と比較検証すること。以上の作業によって、世界の学力テストの潮流や特徴をグローバルな視点から理解できることになる。</p>
レポート課題1	<p>佐藤・北野編著『世界のテスト・ガバナンス』の第1部（2章～4章）を読んで、アメリカの「ハイスティクス・テスト」の特徴や問題点を論じること。</p> <p>留意点：なぜ、アメリカは「ハイスティクス・テスト」を導入しているのか。その理由を考える。</p>
レポート課題2	<p>佐藤・北野編著『世界のテスト・ガバナンス』の日米以外の国（第5章から第10章まで）を一つ選んで、その学力テスト政策の特徴や問題点を論じること。</p> <p>留意点：日米の学力テスト政策との差異や類似点を確認しつつ、論じること。</p>

## 基本教材1

第1回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第2回	zoomによる授業内容の解説と質問。メール (ak0924@minuet.plala.or.jp) にて参加申し込みをして下さい。招待メールを送ります。
第3回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第1章」の重要事項の説明と質疑応答
第4回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第2章」の重要事項の説明と質疑応答
第5回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第3章」の重要事項の説明と質疑応答
第6回	manabaを通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第7回	manabaを通じて、草稿レポートの提出・添削、
第8回	manabaを通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第9回	manabaを通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の「序章」の重要事項の説明と質疑応答
第10回	manabaを通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の「第1章」の欧米の新自由主義の説明と質疑応答
第11回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第1章」の日本の新自由主義の説明と質疑応答
第12回	anabaを通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第13回	manabaを通じての草稿レポートの提出・添削、
第14回	manabaを通じての修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第15回	manabaを通じてレポートの最終稿の提出

## 基本教材2

第1回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第2回	manabaを通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「序章」の重要事項の説明と質疑応答
第3回	manabaを通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第2章」の重要事項の説明と質疑応答
第4回	manabaを通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第3章」の重要事項の説明と質疑応答
第5回	manabaを通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第4章」の重要事項の説明と質疑応答
第6回	manabaを通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第7回	manabaを通じて、草稿レポートの提出・添削
第8回	manabaを通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第9回	manabaを通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第5・6章」の重要事項の説明と質疑応答
第10回	manabaを通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第7・8章」の重要事項の説明と質疑応答
第11回	manabaを通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第9・10章」の重要事項の説明と質疑応答
第12回	manabaを通じて、コラムの「英国・ニュージーランド・アフリカ」の重要事項の説明と質疑応答
第13回	manabaを通じての草稿レポートの提出・添削
第14回	manabaを通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第15回	manabaを通じて、レポートの最終稿の提出

科目名	教育認識論特殊研究	担当者	キタノ アキオ 北野 秋男	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	-----------	-----	------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>本講義は、「学力テスト」などで測定される「認知能力」ではなく、「意欲」「努力」「やる気」「社会性」「忍耐力」などといった人間の気質や性格に基づく「非認知能力」について考察します。学力研究においては、テストの点数で人の能力を測定評価することが一般的ですが、近年では「非認知能力」も注目されています。学力問題の基本的・根源的問題について、その考え方や方法論を学び、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視します。</p> <p>①経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。</p> <p>②想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>③さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>④集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。</p>		
学修方略(方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、レポートの作成、掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス(受講者同士が、草稿段階で相互にレポートを点検し、推敲する協働活動を行う)、レポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：15時間。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考えや意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論などを行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。</p>		
スケジュール	<p>提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。通年30コマ分(半期15コマ分)の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。	80%
	観察記録	Zoomへの参加やメールのやりとりの回数・内容(観察記録)なども考慮する。	20%
履修者への要望	<p>指定した参考図書は「非認知能力」「学力論」「学力テスト批判」「アクティブラーニング」などに関する基本的・根源的問題について、その考え方や方法論を学ぶことを意図したものである。レポートは、タイトルを付けて章(節)に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。Zoomを用いて授業内容の概要を説明したり、研究の進め方に関する討論も行う。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：①中山芳一 ②小針 誠            教材名：①『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』東京書籍（2023年） 1,800円＋税            ②『アクティブラーニング：学校教育の理想と現実』講談社現代新書（2018年） 880円＋税</p> <p>知識中心の学力テストによって測定する能力を「認知能力」に基づく学力とすれば、「意欲」「努力」「やる気」「誠実」「社会性」「忍耐力」「好奇心」などといった人間の気質や性格に基づく「非認知能力」に基づく学力も存在する。「非認知能力」は、「認知能力」の形成にも重要な役割を果たしているとされ、学力のみならず、人生においても極めて重要な資質となるものである。本講義では、この「学力テスト」では測定できない人間の気質や性格に基づく「非認知能力」について考察し、合わせて、そうした能力開発の手段である「アクティブラーニング」のあり方も検討する。</p>
参考図書	<p>中室牧子『学力の経済学』デスカヴァー・トウェンティワン（2015年）、中谷芳一『教師のための非認知能力の育て方』明示図書（2023年）、溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂（2018年）。</p>
履修上のポイント	<p>近年、「意欲」「努力」「やる気」「誠実」「社会性」「忍耐力」「好奇心」などといった人間の気質や性格に基づく「非認知能力」が注目を集めている。学力研究においては、テストの点数で人の能力を測定評価することが一般的であるが、そうした「学力テスト批判」も行いつつ、新たな学力形成としての「アクティブラーニング」のあり方についても検討する。最終的には、学力問題の基本的・根源的問題について、その考え方や方法論を学び、批判的に分析する能力を育成することを目的とする。レポート課題においては、自身でも学術論文などを検索し、3点以上の文献を挙げて下さい。</p>
レポート課題1	<p>テキスト『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』も含めて図書・論文など3点以上を読み、①非認知能力とは何か（概念）、②戦後、もしくは近年の非認知能力と学力の関係性を指摘すること、③非認知能力の測定方法について、簡潔にまとめて下さい。</p> <p>留意点：特に、テキストの第1・2・3章を読むことと、3点以上の文献を挙げること。</p>
レポート課題2	<p>テキスト『アクティブラーニング：学校教育の理想と現実』も含めて図書・論文など3点以上を読み、①アクティブラーニングの概念と導入経緯、②戦後、もしくは近年のアクティブラーニングによる学力形成の動向、③アクティブラーニングの問題点や課題について、簡潔にまとめること。</p> <p>留意点：特に、テキストの第1・3・4章を読むことと、3点以上の文献を挙げること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：北野秋男・下司 晶・小笠原喜康            教材名：『現代学力テスト批判－実態調査・思想・認識論からのアプローチ』東信堂（2018年）2,700円＋税</p> <p>本書は、現代の学力テスト政策をより根源的な認識論の視点からテスト問題のあり方を批判的に考察したものである。特に、第2部は教育思想・哲学を専門とする著者が原理的・理論的に学力論を分析し、「状況的学習論」や「言語論的転回」以後の知識論を取り上げたものである。第3部は、「認識論」の観点からテスト問題のあり方を批判的に考察したものである。</p>
参考図書	<p>小笠原喜康『学力問題のウソ：なぜ日本の学力は低いのか』PHP（2008年）、中井孝章『学校教育の認識論的転回』溪水社（2004年）</p>
履修上のポイント	<p>本書は、現代の学力テスト政策を3人の著者が各自の専門的な立場から批判的にアプローチしたものである。とりわけ、第2部は教育思想・哲学を専門とする著者が明治からの日本の学力論のあり方を原理的・理論的に分析した上で、「状況的学習論」や「言語論的転回」以後の知識論を取り上げたものである。第3部は、「知識は学力ではない」とする認識論的なアプローチから現代の学力テスト問題を具体的に分析し、その問題点を考察したものである。著者の学力観を理解し、「学力のあり方」を考えることが課題である。</p>
レポート課題1	<p>テキスト『現代学力テスト批判』の第2部（4章～6章）を読んで、わが国の学力テスト社会の形成の歴史と「状況的学習論」や「言語論的転回」以後の知識論の内容を述べる。</p> <p>留意点：特に、テキストの第4章と第5章を中心にまとめること。</p>
レポート課題2	<p>テキスト『現代学力テスト批判』の第3部（7章～9章）を読んで、「認識論」の観点から学力テスト問題のあり方を批判的に考察すること。また、知識中心の学力テスト社会の行く末を考察する。</p> <p>留意点：なぜ、量的な知識を測る学力テストは問題なのか。著者の主張を的確に指摘すること。</p>

## 基本教材1

第1回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第2回	zoomによる授業内容の解説と質問。各自の研究内容と方法論についての検討と課題の関連性。メール（ak0924@minuet.plala.or.jp）にて参加申し込みをして下さい。招待メールを送ります。
第3回	manabaを通じて、テキスト『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』における「非認知能力の概念」の説明と質疑応答
第4回	manabaを通じて、テキスト『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』の「非認知能力と学力」の関係性の説明と質疑応答
第5回	manabaを通じて、テキスト『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』における「非認知能力の測定法」の説明と質疑応答
第6回	manabaを通じて、参考資料や他の文献との内容的な類似性や差異性の確認
第7回	manabaを通じて、草稿レポートの提出・添削、及び最終確認
第8回	manabaを通じて、修正レポートの最終稿の提出
第9回	manabaを通じて、テキスト『アクティブラーニング：学校教育の理想と現実』における「アクティブラーニングの概念」の説明と質疑応答
第10回	manabaを通じて、テキスト『アクティブラーニング：学校教育の理想と現実』における「アクティブラーニングと学力の関係性」の説明と質疑応答
第11回	manabaを通じて、テキスト『アクティブラーニング：学校教育の理想と現実』における「問題点や課題」の説明と質疑応答
第12回	manabaを通じて、アクティブラーニングの実践的な教育方法の事例検討と質疑応答
第13回	manabaを通じて、アクティブラーニングに関する参考資料や他の文献の検討
第14回	manabaを通じての草稿レポートの提出・添削、及び最終確認
第15回	manabaを通じてレポートの最終稿の提出

## 基本教材2

第1回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第2回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第4章」の重要事項の説明と質疑応答
第3回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第5章」の重要事項の説明と質疑応答
第4回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第6章」の重要事項の説明と質疑応答
第5回	manabaを通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第6回	manabaを通じて、草稿レポートの提出・添削、及び最終確認
第7回	manabaを通じて、修正レポートの最終稿の提出
第8回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第7章」の重要事項の説明と質疑応答
第9回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第8章」の重要事項の説明と質疑応答
第10回	manabaを通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第9章」の重要事項の説明と質疑応答
第11回	manabaを通じて、世界の学力テストの動向と国際学力テストにおける「学力」の内容
第12回	manabaを通じて、「認知能力」と「非認知能力」の違いと学力テストのあり方の確認
第13回	manabaを通じて、今後の「学力」のあり方の方向性と課題の確認
第14回	manabaを通じて、修正レポートの提出・添削、及び最終確認
第15回	manabaを通じて、レポートの最終稿の提出

科目名	健康科学特殊研究	担当者	イズミ リュウタロウ 泉 龍太郎	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------	-----	---------------------	-----	----	-----	---	-----	--------

### 【科目概要】

目的	<p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その基本的な考え方と、個々の事例に適用する際の課題について学修することを目的とする。</p> <p>2. 「健康」の基礎となる「生命活動」について、生態系と生命体個体の両方の観点から考察することを目的とする。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p> <p>2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>3) 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その原典となる考え方にに基づき、個々の事例に適用することを修得する。</p> <p>2. 「生命活動」の基本的な原理について、自分自身の考え方を創造する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>医療分野における「エビデンス」が作成されるプロセスとその適用方法を説明できる。</p> <p>『生命とは何か』という問いに対し、科学的な知見と根拠に基づいた、自分自身の考えを説明できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10時間)。manaba folioを通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folioの掲示板を利用して、受講者同士の協働学修を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和5年1月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	評価基準	割合
	レポート	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。	75%
	観察記録	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。	25%
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正(目次案など)について、メールなどで連絡相談して下さい(izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>4) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

### 【レポート課題】

基本教材1	
教材の概要	<p>著者名：日本医療機能評価機構 教材名：『医療情報サービスMinds (マインズ)』 <a href="https://minds.jcqhc.or.jp/">https://minds.jcqhc.or.jp/</a></p> <p>厚生労働省の委託の下に、診療ガイドラインの情報を提供している。但し、一部のガイドラインは有料、または作成した学会等への会員登録が必要となる。また必ずしも全てのガイドラインを網羅しているとは限らない。</p>
参考図書	<p>Minds診療ガイドライン作成マニュアル編集委員会 『Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020 ver. 3』 公益財団法人日本医療機能評価機構 <a href="https://minds.jcqhc.or.jp/methods/cpg-development/minds-manual/">https://minds.jcqhc.or.jp/methods/cpg-development/minds-manual/</a></p>
履修上のポイント	<p>医療分野において言われる『エビデンス』がどのようにして検証されるのか、またそのエビデンスに基づいたガイドラインを、個々の事例に適用する際の考え方について学修する。</p>
レポート課題1	<p>特定の診療ガイドラインを取り上げ、そのガイドラインが作成された目的と経緯、作成時のポイント等をまとめること。</p> <p>ガイドラインとしては、例えば厚生労働省の『健康づくりのための身体活動基準2013』や、日本看護協会の『夜勤・交代制勤務に関するガイドライン』のようなものでも良い。</p> <p>留意点：注：ガイドライン自体の解説ではない。</p>
レポート課題2	<p>上記のガイドラインを、個々の事例に当てはめた際の課題を論ずること。異なるガイドライン間での方針の相違を取り上げて良い。</p> <p>留意点：該当する事例を思い当たらない場合は、連絡して下さい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	著者名：東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名：『現代生命科学 第3版』（羊土社，2020年3月） ISBN 9784758121033 2,800円+税
	生命科学の基礎的な知識に関し，最新の情報を基に簡潔，かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は，『理系総合のための生命科学(第5版，2020年2月)』でも可。
参考図書	福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書，2007年）ISBN 978-4-06-149891-4 880円+税
履修上のポイント	「生命とは何か」という問いに対し，生態系という観点と，生命体個体に関する視点から，その答えにアプローチする方法論を学修する。
レポート課題1	ヒトも生態系の一部という観点から，共生する微生物（腸内，皮膚，あるいは環境），または生物の中から一つを取り上げ，健康や疾患との関連性について論じること。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること。
レポート課題2	ヒトを含めた生命体，あるいは細胞の機能を理解する上で，生命体を，それを構成する臓器・組織，細胞内小器官や生体高分子等の部分・物質レベルに分割して理解しようとする，いわゆる「機械論的な還元主義」に関し，その有用性と限界，及び健康と不健康状態（疾病を含む）との関連性について論じること。 合成生物学や人工生命の観点を取り入れても良い。 留意点：正解の無い哲学的な課題でもあるが，観念論に終始せず，生命科学の知見を踏まえ，なるべく具体的な事象を取り上げた上で，自分自身の考えを論じて下さい。

### 基本教材1

第1回	教材の学修と，本科目の課題の理解
第2回	基本教材1の学修；全般的な「ガイドライン」作成の目的と手順について
第3回	課題として取り上げる題材（ガイドライン）に関する学修
第4回	取り上げた題材の全般的な背景に関する学修
第5回	取り上げたガイドラインが作成された背景と経緯に関する学修
第6回	取り上げたガイドラインの，実際の適用状況に関する学修
第7回	取り上げたガイドラインの，今後の課題に関する学修
第8回	関連する文献の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた，本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材2の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第4回	基本教材2の学修；ヒト・生命体の個体レベルでの学修
第5回	基本教材2の学修；ヒト・生命体の集団レベルでの学修
第6回	基本教材2の学修；生命体が相互作用する，生態系レベルでの生命活動の学修
第7回	生命活動に対する，還元主義の適用や，階層性等に関する学修と考察
第8回	関連する文献の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1・2を通じた，本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	健康科学特殊研究	担当者	シャク フミオ 釋 文雄	開講期	通年	単位数	4	分野名	総合社会情報
-----	----------	-----	-----------------	-----	----	-----	---	-----	--------

【科目概要】

目的	<p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その基本的な考え方と、個々の事例に適用する際の課題について学修することを目的とする。</p> <p>2. 「健康」の基盤となる「生命活動」について、生態系と生命体個体の両方の観点から考察することを目的とする。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p> <p>2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>3) 謙虚に自己をみつめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。</p>			
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その原点となる考え方に基づき、個々の事例に適切することを習得する。</p> <p>2. 「生命活動」の基本的な原理について、自分自身の考え方を創造する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <p>医療分野における「エビデンス」が作成されるプロセスとその適用方法を説明できる。</p> <p>『生命とは何か』という問いに対し、科学的な知見と根拠に基づいた、自分自身の考えを説明できる。</p>			
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10時間)。manaba folioをとおしてレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folioのコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>			
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末迄に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬までに提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和7年1月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>			
成績評価	種別	評価基準		割合
	レポート	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適正性、考え方の科学性・妥当性・再診の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性を評価する。		90%
	観察記録	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。		10%
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正(目次案など)について、メールなどで連絡相談してください(shaku.fumio@nihon-u.ac.jp)。また、時間調整により、対面でのディスカッションも歓迎いたします。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想がユニーク、オリジナルな題材を歓迎いたします。</p> <p>3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛け、他者に発表する場合を想定し作成してください。</p> <p>4) 教材・参考図書をすべて読み込むよりも、題材に関連した文献は自分で検索し、引用してください。</p> <p>5) 担当者からは臨床的側面をふまえてのコメントを行うこともあり、その内容も含めてレポートを作成してください。</p> <p>6) 独自の考えを充実させているレポートを期待します。</p>			

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：日本医療機能評価機構 教材名：『医療情報サービスMinds(マインズ)』 <a href="https://minds.jcqh.or.jp/minds/about-minds/">https://minds.jcqh.or.jp/minds/about-minds/</a>
	厚生労働省の委託の下に、診療ガイドラインの情報を提供している。但し、一部のガイドラインは有料、または作成した学会等への会員登録が必要となる。また必ずしも全てのガイドラインを網羅しているとは限らない。
参考図書	Minds 診療ガイドライン作成マニュアル編集委員会 『Minds 診療ガイドライン作成マニュアル2020 ver. 3』公益財団法人医療機能評価機構 <a href="https://minds.jcqh.or.jp/methods/cpg-development/minds-manual/">https://minds.jcqh.or.jp/methods/cpg-development/minds-manual/</a>
履修上のポイント	医療分野において言われる『エビデンス』がどのようにして検証されるのか、またそのエビデンスに基づいたガイドラインを、個々の事例に適用する際の考え方について学修する。
レポート課題1	特定の診療ガイドラインを取り上げ、そのガイドラインが作成された目的と経緯、作成時のポイント等をまとめること。 ガイドラインは身体面に限らず精神面でも可  留意点：ガイドライン自体の解説ではありません。
レポート課題2	上記のガイドラインを、個々の事例に当てはめた際の課題を論ずこと。異なるガイドライン間での方針の相違を取り上げてもよい。 留意点：該当する事例が思い当たらない場合は、連絡してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名：『現代生命科学 第3版』（羊土社、2020年3月） ISBN 978-4-7581-2103-3 本体 2800円+税
	生命科学の基礎的な知識に関し、最新の情報を基に簡潔、かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は、『理系総合のための生命科学（第5版、2020年3月）』でも可
参考図書	福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書、2007年） ISBN 978-4-06-149891-4 本体 880円+税
履修上のポイント	「生命とは何か」という問いに対し、生態系という観点と、生命体個体に関する視点から、その答えにアプローチする方法論を学修する。
レポート課題1	ヒトも生態系の一部という観点から、共生する微生物（腸内、皮膚、あるいは環境）、または生物の中から一つを取り上げ、健康や疾患との関連性について論じること。 留意点：文献のまとめでなく、文献をふまえた上での自分なりの考えを中心に論じること。
レポート課題2	ヒトを含めた生命体、あるいは細胞の機能を理解するうえで、生命体を、それを構成する臓器・組織、細胞内小器官や生体高分子等の部分・物質レベルに分割し理解しようとする、いわゆる「機械論的な還元主義」に関し、その有用性と限界、及び健康と不健康状態（疾病を含む）との関連性について論じること。 合成生物や人口生命の観点を取り入れても良い。  留意点：具体的な事象を取り上げたうえで、自分自身の考えを論じてください。

## 基本教材1

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	基本教材1の学修；全般的な「ガイドライン」作成の目的と手順について
第3回	課題として取り上げる題材（ガイドライン）に関する学修
第4回	取り上げた題材の全般的な背景に関する学修
第5回	取り上げたガイドラインが作成された背景と経緯に関する学修
第6回	取り上げたガイドラインの、実際の適用状況に関する学修
第7回	取り上げたガイドラインの、今後の課題に関する学修
第8回	関連する課題の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1,2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

## 基本教材2

第1回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第2回	課題として取り上げる題材の検討
第3回	基本教材2の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第4回	基本教材2の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第5回	基本教材2の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第6回	基本教材2の学修；生命体が相互作用する、生体レベルでの生命活動の学修
第7回	生命活動に対する、還元主義の適用や、階層性等に関する学修と考察
第8回	関連する文献の検索とその内容の学修
第9回	レポート課題1：初稿の作成
第10回	レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	レポート課題1：最終稿の作成
第12回	レポート課題2：初稿の作成
第13回	レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	レポート課題2：最終稿の作成
第15回	レポート課題1,2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証